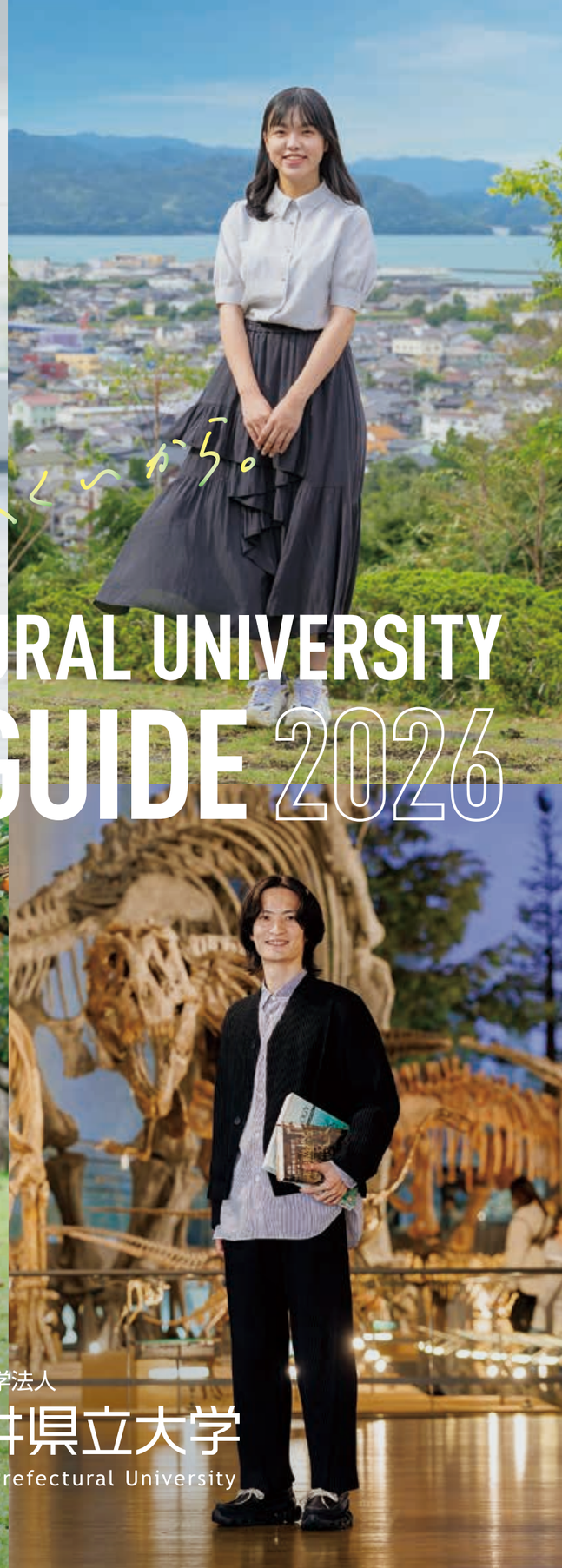
公立大学法人
福井県立大学
Fukui Prefectural University

〒910-1195 福井県永平寺町松岡兼定島4-1-1
TEL. 0776-61-6000　FAX. 0776-61-6011
https://www.fpu.ac.jp/

WEBサイト

FUKUI PREFECTURAL UNIVERSITY CAMPUS GUIDE 2026



FUKUI PREFECTURAL UNIVERSITY
CAMPUS GUIDE 2026

公立大学法人
福井県立大学
Fukui Prefectural University

福井県立大学 大学案内 2026

福井県がまるごとキャンパス!

**福井県ならではの地域資源を活かし
県全体をまるごとキャンパスにして学ぶ!**

福井県立大学では、キャンパスがある永平寺町や小浜市、あわら市、勝山市と連携し、地域の特色を実際に現地で学ぶ授業を実施しています。また、県内の地域が抱える課題の解決を探る授業など、キャンパスの外に出てフィールドで学ぶ授業も豊富です。そのほかにも、県内企業の社長をはじめ各分野のプロに特任講師等を依頼し、実践に強い授業を用意。さまざまな形で地域と連携した学びを展開しています。

Contents

福井県はこんなところ …… P.4
学長からのメッセージ …… P.5

2026年4月新設予定!
●地域政策学部 地域イノベーション学科(仮称) P.6

[学部等紹介]
●経済学部 …… P.10
●生物資源学部 …… P.20
●海洋生物資源学部 …… P.30
●看護福祉学部 …… P.40
●恐竜学部 …… P.50

一般教育 …… P.56
大学院 …… P.60
研究所等 …… P.64
地域連携 …… P.67
国際交流・留学サポート …… P.68
キャリアサポート・就職支援 …… P.70

[キャンパスライフ]
クラブ&サークル紹介 …… P.74
県大生ライフスタイル …… P.76
キャンパスガイド …… P.78
学生生活サポート …… P.82

[DATA]
沿革・組織図 …… P.83
教員一覧 …… P.84
入試DATA …… P.86
大学DATA・アクセスマップ …… P.87

※本書に掲載されている情報は2025年3月時点のものです。

福井まちなかキャンパス
※2027年開設

2026年4月新設予定!

地域政策学部(仮称)

地域イノベーション学科(仮称) …… P.6

かつみキャンパス

海洋生物資源学部

先端増養殖科学科 …… P.36

小浜キャンパス

海洋生物資源学部

海洋生物資源学科 …… P.32

あわらキャンパス

生物資源学部

創造農学科 …… P.26

勝山キャンパス
※2026年開設

2025年4月新設!

恐竜学部

恐竜・地質学科 …… P.52

永平寺キャンパス

経済学部

経済学科 …… P.12
経営学科 …… P.16

生物資源学部

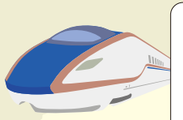
生物資源学科 …… P.22

看護福祉学部

看護学科 …… P.42
社会福祉学科 …… P.46

福井県は こんなところ!

豊かな自然に囲まれ、食べ物も美味しく、
「幸福度ランキング」では毎年1位を誇る福井県。
各キャンパスの近くにも魅力的なスポットがいっぱいです。



福井と言えば恐竜!
北陸新幹線の開業で賑わう
福井駅周辺にも恐竜が出現します。

禅の心に触れてみる
永平寺キャンパス名にもなっている永平寺は
曹洞宗の大本山。坐禅体験もできます。

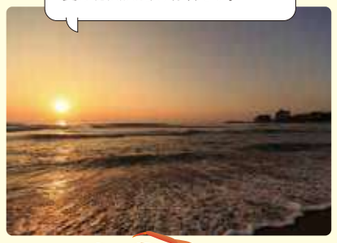
自然を満喫するアクティビティ
小浜キャンパス・かつみキャンパスがある
小浜の海はきれい!県内にはスキー場も多く、
海山のアウトドアスポットが充実しています。

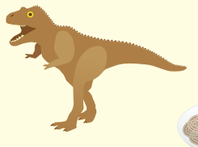
空き時間にほっこり
あわらキャンパス近くの
温泉街にある足湯が最高。

癒しのマジックアワー
夕日を見ながらたそがれたり…。
三国サンセットビーチは
夏の花火大会も有名です。

桜色に包まれる春
福井まちなかキャンパスから
徒歩5分。春になると足羽川沿いは
約2.2kmの桜のトンネルに。

恐竜王国のシンボル
年間100万人以上が訪れる
福井県立恐竜博物館。
2026年春には隣に
勝山キャンパスが開設します!





福井県立大学の学びの特色

POINT 1

徹底した少人数教育を実施!

ゼミや研究室できめ細かな密度の高い教育・研究指導を受けることができます。

POINT 2

大学全体で情報教育が充実!

全学共通教育として情報活用能力や技能を身に付けるための教育を提供しています。令和6年度に文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(応用基礎レベル)」に認定されました。

POINT 3

英語教育、留学支援に力を入れています!

多様な英語の授業の展開、質の高い海外留学プログラム、海外大学との交流など、英語力の向上や多文化理解を促進するための教育に力を入れています。また、学内には気軽に英会話が楽しめる場所もあります。

POINT 4

企業・自治体と連携した実践的教育を実施!

地域の課題解決のためのフィールドワークの実施や、第一線で活躍する人材を特任講師として招いた授業を多数実施しています。

学長からのメッセージ

皆さんの学びを 支援します

学長／農学博士　岩崎(いわさき) 行玄(ゆきもと)

PROFILE
愛知県生まれ。1992年福井県立大学開学時に講師として着任。生化学・分子生物学の講義および化学実験、分子生物学実験を担当。イネ種子の大きさ、草丈を決定する遺伝子・タンパク質の研究に関する多数の研究実績を持つ。

やる気(motivation)と志(ambition)を大切にしたい

「大学に合格したい」など、具体的な目標がある皆さんは、「やる気(motivation)がある」と言われます。時間を区切って具体的な目標を設定することは、人の成長に極めて効果的です。一方、日本語には、「やる気」のほかに「志」という言葉があります。私は、「志」には人生の長い道のりを考えたり、社会に貢献したいという気概が含まれると思っています。福井県立大学は、「やる気」とともに、皆さんの「志」も大切にします。

多様な課題に対処する能力は座学と体験学習の繰り返しで開発される

福井県立大学は、全ての学部で、講義とともに、演習、実習、フィールドワーク、インターンシップなどの体験学習の充実に努めています。皆さんがプロフェッショナルを目指したり、人間力を高めるには、知識を修得する座学と体験学習を交互にバランスよく繰り返すことが必要だと確信しています。座学と体験学習の繰り返しで、自分に合った分野・将来を見つけてください。

福井県立大学は“一芸”も支援

福井県立大学は、クラブ、サークル、留学、ボランティア活動などの活動も、積極的に支援します。「一芸で身を立てる」という言い伝えにおいては、高みにたどり着いた芸そのものも重要ですが、芸を求める“過程”に大きな意義があると思います。一芸に励む過程で社会性が身に付き、粘ることを覚え、人間力が総体的に向上すると思います。福井県立大学は“勉学”と“一芸”を共に奨励します。

総合大学として実社会で活躍する人材を育成

2025年に新たに第４期中期計画が始まり、2025年度に新たに開設した恐竜学部、2026年に開設予定の地域政策学部(仮称)を含めた６学部での学びをベースに、情報教育や英語教育を強化し、実社会で活躍する力を身に付ける教育環境を作っていきます。

福井県立大学は皆さんの学びと成長を全力で支援していきます。

New!

まち全体が学びのキャンパス

地域政策学部 地域イノベーション学科（仮称）

地域政策学部（仮称）
情報はこちら

2026年4月新設予定!

Faculty of Regional Policy
Department of Regional Innovation

地域の課題解決に取り組む人材を育成します

地域政策学部長（予定者）松原 宏 教授

2024年3月16日に北陸新幹線の金沢・敦賀間が開業しました。福井市中心部では、再開発が進み、新たな空間が次々と登場しています。地域政策学部（仮称）は、福井駅前の好立地を活かし、学びの場所を福井のまちなかはもちろん、県内外にひろげていく予定です。

福井県は農林水産業が盛ん、製造業も多様で、実はイノベーションに熱心に取り組むひとや企業が多い全国有数の県です。この地域で活躍する企業や自治体の方々による講義やワークショップ、農家訪問や工場見学などのフィールドワークを充実させ、地域イノベーションを体系的に学べる全国初の学科を設置します。地域の課題解決の担い手となる皆様を歓迎いたします。

「地域イノベーション」とは？

地域の資源を活用し、新しいアイデアや取り組みで新しい価値を創造し、地域社会に大きな変化・革新をもたらすことをいいます。

地域政策学部（仮称）では、どんなことを学びますか？

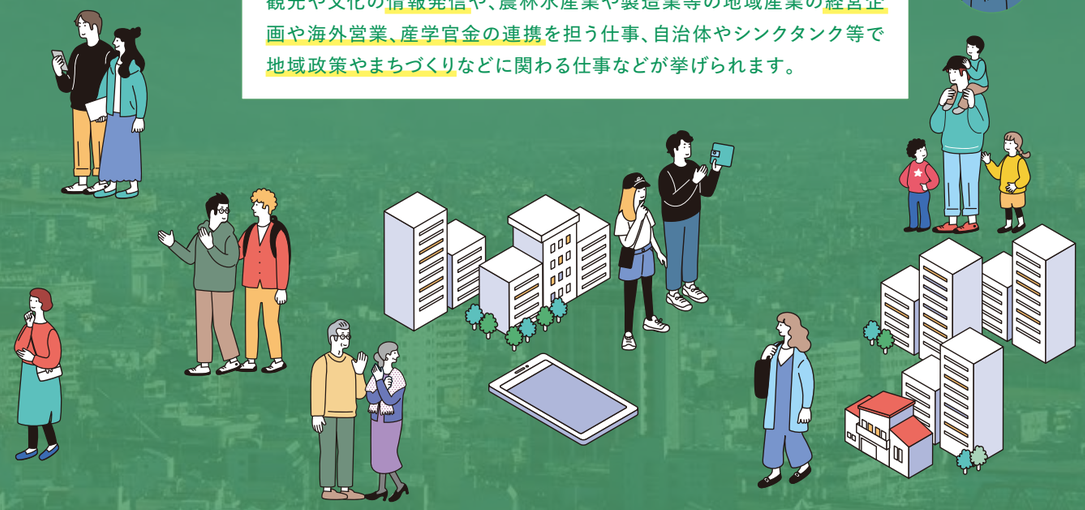
地域政策学部（仮称）は、地域産業の高度化やグローバル化、新たな産業や企業の創出、持続可能な地域社会の構築に貢献する人材を養成します。そのために、経済や経営に関する理論、地域社会に向けた施策、日本や世界の諸地域の実態、地域社会を分析するためのフィールドワークの方法やデータの活用方法など、さまざまな知識を実践的に学びます。

地域政策学部（仮称）では、どのような授業を行いますか？

特に重視しているのは、フィールドワークや実践英語、データ分析など、実践的に授業を行う点です。講義や文献、人々の声など、さまざまな情報を効果的に活用して地域の課題解決について実践的に学べるような授業を提供します。

どのような進路が考えられますか？

民間企業や自治体など、さまざまな進路が考えられます。例えば、地域の観光や文化の情報発信や、農林水産業や製造業等の地域産業の経営企画や海外営業、産学官金の連携を担う仕事、自治体やシンクタンク等で地域政策やまちづくりなどに関わる仕事などが挙げられます。



※上記は設置届出中の内容のため変更となる場合があります。

地域政策学部（仮称）

カリキュラムの特色

01

地域における フィールド演習など 実践教育を重視

県内各地域をはじめ、国内外で実際の地域課題をテーマとしたフィールドワークを重視

02

データサイエンスを 足場にデジタル人材を 養成

GIS（地理情報システム）や空間分析など、ビッグデータや情報システム技術を活用した演習を実施

03

コーオプ実習の実施により 学生と県内企業との つながりを強化

県内企業や自治体と連携し、企業等の業務に一定期間参加。現実の課題解決に取り組むことで単位を認定

04

国内留学制度で福井だけでなく 他の地域についても 長期的な学びが可能

単位互換の協定を締結した国内の大学において、一定期間滞在し学修することで単位を認定

05

福井駅から徒歩1分の 福井まちなかキャンパスが 拠点

2年次から、フィールドワークが多い本学科の学びの拠点「福井まちなかキャンパス」で学習

※地域政策学部（仮称）の学びのイメージです。

地域イノベーションを体系的に学ぶカリキュラム

基礎知識から応用・発展へと、より高度な知識を段階的に習得できるようにカリキュラムを構成

コーオプ実習
企業や団体から提示された課題の解決を目指し、その実務経験を積むことで、「考えて行動する姿勢」を身に付けます。

国内留学
首都圏と地方圏にある大学と連携協定を結び、単位互換可能な国内留学により、他の地域について学びを深めることができます。

1年	2年	3年	4年
基礎知識の習得 1年次では、地域イノベーションを実践するための基礎的な知識を学びます	**専門性を深める** 2年次以降では、想定する進路により3つのユニットに分かれ、学びを深めます	**より実践的な知識の習得** 3年次では2年次より実践的、専門的な科目を用意します	**地域イノベーションの実践** 4年次では、3年次までに学んだ知識を活用して、より高度な地域の課題解決に取り組みます

配当科目

［学科共通科目］
地域イノベーション入門、
初年次ゼミ、経済学の基礎、
経済統計入門、経営学入門　等

［一般教育科目］
英語Ⅰ、ICTリテラシー、
キャリア形成論、
プログラミング基礎、歴史学、
心理学、ジェンダー論、
数学基礎、物理学　等

ピックアップ：地域イノベーション入門

地域政策学部の各教員が取り組んでいる研究内容を聞き、今後どのようなことを学んでいくか理解することが目的です。特に、福井の自然、歴史、文化、産業など、地域イノベーションを学ぶ上での基礎的な知識を習得します。

地域産業ユニット

地場産業の振興・発展に必要な専門教育
地域における産業の実態を学び、地域の特性を活かした産業の振興・発展に必要な理論と政策を学修

配当科目	ピックアップ：地域産業論	配当科目	ピックアップ：地域産業活性化演習
地域産業論、産業立地論、地域マーケティング論、農村漁村活性化論、グローバル企業論　等	地場産業の動向や、産地内での分業の実態、地域社会との関係、制度、地域産業政策などの特徴を学びます。	地域産業活性化演習、産業集積論、技術経営、経営戦略論、農産物貿易論、スタートアップ企業論、管理会計論　等	学生が県内の農林水産業、製造業などの業界関係者を交えて議論を行い、地域産業政策のあり方を学びます。

地域創造ユニット

起業家育成など新産業創出に必要な専門教育
地域の資源（歴史、文化、自然）の価値を理解し、活用した新しいビジネスの創出に必要な理論と政策を学修

配当科目	ピックアップ：地域マネジメント論	配当科目	ピックアップ：地域共創演習
地域マネジメント論、アーツマネジメント論、文化人類学、観光産業論、公益事業論、地域共創　等	地域の持続可能な発展に向けて有用な視点や、発展のための戦略の構築方法といった実務的なスキルを学びます。	地域共創演習、オープンイノベーション論、クリエイティブシティ論、地域文化論、地域交通論、地域金融論　等	学生が福井県内の企業関係者と議論し、新たな産業や企業の創出に向けた政策提案について学びます。

地域づくりユニット

持続可能な地域社会の発展に必要な専門教育
地域社会の現状と課題を理解し、公共政策・まちづくりを企画・立案するために必要な理論と政策を学修

配当科目	ピックアップ：地域づくり論	配当科目	ピックアップ：地域政策立案演習
地域づくり論、環境デザイン論、ウェルビーイング論、自治体政策論、地域政策　等	日本国内の代表的な地域づくりの事例から、地域資源活用の特徴や現場での現状分析の手法などを学びます。	地域政策立案演習、ローカルキャリア論、知財管理論、地域社会論、まちづくり論、地方財政論、環境経済学　等	地域が抱えるさまざまな課題に対する地域政策のあり方について、福井県内の自治体関係者を交えて学びます。

学部共通科目

各ユニットと関連する専門知識の習得
フィールドワークをはじめ地域データ分析の基本的方法や実践英語、さらにさまざまな分野の基礎理論やその応用を学ぶ科目も用意

配当科目	ピックアップ：地域フィールド演習Ⅰ	配当科目	ピックアップ：地域フィールド演習Ⅲ	ピックアップ：演習Ⅳ
地域フィールド演習Ⅰ、地域データ分析Ⅰ・Ⅱ、実践英語Ⅰ・Ⅱ、経済地理学、経営学基礎、地域イノベーション特論Ⅰ　等	調査テーマを設定し、福井県内の市町で現地調査を実施することで実践的に地域調査法を学びます。	地域フィールド演習Ⅱ（県外地域）、地域データ分析Ⅲ、実践英語Ⅲ、海外地域研究A、コーオプ実習　等	海外の特定の地域を題材に、現地調査や調査報告書の作成を通じて、その地域や調査法について学びます。	卒業研究について、より詳細な現地調査・分析結果と卒業研究の概要を発表し、教員から指導を受けます。

ピックアップ：卒業研究
地域産業、地域創造、地域づくりのいずれかの分野において、選定した卒業研究のテーマについて、文献研究、統計分析、現地調査の成果をもとに、プレゼンテーションを行い、卒業研究の成果をまとめます。

想定される進路

- **製造・流通・金融・情報通信関連の総務・企画・営業部門**
  地域産業のイノベーションをマネジメントする仕事
  地域の観光や文化などの情報発信に関する仕事
  農林水産業や製造業等の地域産業の経営企画や海外営業に関わる仕事
- **地方自治体、コンサルタント、NPO法人**
  地域政策やまちづくりに関わる仕事
  地域の持続的発展を目指す自治体、経済団体やNPO法人などの仕事
  産学官金の連携を担う仕事
  国内各地や海外との地域間の連携を促進する仕事
- **起業、事業承継**
  クリエイティブ産業等の新しい産業を創出するスタートアップ企業の経営などの仕事
  地域の産業や会社の継続を支援する仕事

取得可能な資格

所定の単位修得（選択制）により、下記の資格が取得できます。

- 地域調査士
- GIS学術士
- 高等学校教諭一種免許状（地理歴史）

※上記は設置届出中の内容のため変更となる場合があります。

経済学部 経済学科・経営学科

Faculty of Economics

自らの進路を切り開くことができる
自立した個人になる

少子高齢化が進むなかでの地域活性化という身近な問題から、経済活動と地球環境問題への対応をどう両立させるかといったグローバルな問題まで、私たちの社会には課題が山積しており、一つひとつの課題の捉え方も多様化しています。こういうときこそじっくりと腰を据えて何が起きているのかを把握し、自らの行動につなげていく必要があります。本学部で経済学・経営学を学ぶことで、社会を冷静に見通す力を身に付け、自立した個人へと成長することができます。

POINT
学部の特長

01

個性豊かな教員による きめ細やかな指導

専攻分野も経歴も個性もさまざまな教員が在籍し、少人数教育のメリットを最大限活かしたきめ細かい指導を行います。一人ひとりの興味や好奇心を満たし、個性を伸ばしてくれる教員との出会いがきっとあります。

02

双方向性の強い 多彩な教育の場

講義や演習(ゼミ)という基本的なプラットフォームのなかで、アクティブ・ラーニングの場を多く提供します。議論参加型の講義、フィールドワーク、プレゼンテーション、実験など、あなたを巻き込む授業が多数あります。

03

学科の垣根を越えた 総合的な学修

両学科でカリキュラムは相互乗り入れしており、両学科の科目が履修可能です。経済学と経営学の双方の視点から社会を多面的・総合的にとらえるために、特定の分野に閉じこもらない多様な観点の獲得を目指します。

学部紹介ページはこちら

経済学科

Department of Economics

学科紹介ページは
こちら

経済学を通して広く社会を理解し
自分の力で前に進む人を支える

経済学科では、マクロ経済学とミクロ経済学を基礎として、古今の学説や経済の歴史、経済政策の手段と効果、地域経済や国際経済への理解を深め、詳しく分析する力を養います。オーソドックスで体系的なカリキュラムを準備していますので、学んだことがしっかり定着し、未来のあなたを支えます。講義で幅広い知識を吸収し、演習（ゼミ）やフィールドワークで自ら考え行動する力を培ってください。

POINT 学科の特長

01 基礎から学べる

経済の仕組みを基礎から学ぶことができます。最初に理論をしっかり身に付けることで長く定着し、応用が利く知識になります。経済を理解したいけれど、どこからスタートするか迷っている皆さん、基礎から丁寧に学んでみませんか。

02 体系的に学べる

知識をバラバラに学ぶのでなく、体系的に理解することができます。学んだことが樹木の幹と枝のように関連性のある知識になる経験を味わってください。体系的な知識は、将来のビジネス上の判断、個人としての判断の大きな力になります。

03 「いま」が学べる

経済の世界は層になりながら連関しています。人口動態や気候変動、技術革新などの大きな流れの上に経済全体の動きがあり、企業や個人の活動、政策の変化などが重なりあっています。「いま」とつながる新しい学びを身に付けてみませんか。

04 建設的な疑問が持てる

教育を終えて社会に出ると、自分の人生や組織の未来を切り開くことが求められます。そのためには継続的な学びの姿勢が大切です。建設的な疑問を持つことは高等教育の大きな目的の一つです。疑問を持って学び続ける人になってみませんか。

CURRICULUM

4年間の学びの流れ

※2025年度カリキュラム

	1年次	2年次	3年次	4年次
	経済学の基礎理論を学ぶ 経済学の基礎理論を必修として履修し、2年次からの専門的な学びに備えます。経営学総論、企業論、簿記原理など経営学科の科目も用意し、垣根を越えた学修ができます。	**専門分野への本格的参入** 専門科目の分野や、文献講読や資料解析、フィールドワークを実践する科目も加わり、経済学の世界がぐっと広がります。自分の興味関心に沿って履修する科目を決め、学んでいきます。	**ゼミを中心に研究への導入** 演習Ⅰ（ゼミ）が中心。全教員により開講されるゼミに分かれ、専門分野の研究を掘り下げていきます。文献や資料を精読し、分析に必要な知識やスキルも蓄えていきます。	**研究活動の総仕上げに向けて** 演習Ⅱ（ゼミ）が中心。これまでに身に付けた知識とスキルを駆使し、自らの問題意識に沿った研究を進め、成果につなげていきます。最終的には卒業論文などの形で完成させます。
理論・歴史	マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ 経済数学、西洋経済史	政治経済学 経済学史、日本経済史	アジア経済史	
政　策		経済政策、産業組織論、財政学 中小企業論Ⅰ・Ⅱ 金融論 国際経済学A・B 労働経済学 社会保障論 農業生産・流通政策論 地域マネジメント論	地方財政論、地域経済論 農業経済学、環境経済学 応用経済学	
統計・情報	統計学	計量経済学	データ分析	
国　際		中国経済論 アジア経済論	開発経済論 中国の企業と経済	
経　営	経営学総論Ⅰ・Ⅱ 企業論、簿記原理	会計学Ⅰ・Ⅱ		
法　律		権利擁護を支える法制度 会社法、取引法	税法	
外書・演習		外書講読Ⅰ、基礎ゼミ	外書購読Ⅱ、演習Ⅰ	演習Ⅱ、卒業論文
現代社会とその課題	特別企画講座A 経済学特講A	特別企画講座B・C・D 経済学特講B・C・D	特別企画講座E・F・G 経済学特講E・F・G	
その他の科目	キャリアデザイン概論Ⅰ・Ⅱ	福祉のまちづくり論 キャリアデザイン特論	社会的企業論	

PICK UP

授業の紹介

あなたの「あたりまえ」は、目に見えない多くの人やモノのおかげでできている

財政学　　**桑原 美香 教授**

「財政学」の講義では、国や地方自治体のお金の流れや税金について学ぶだけではなく、なぜそうした公的機関が施設を建設・整備してサービスを提供したり、疫病等が広まらないようにしたり、給付金等を支給したりするのか、ということについても学びます。さらに、誰をどの程度助けるべきなのか、そもそも「公平」とはどういうことなのか、学びを深めていきます。あなたの日々を支えてくれている目に見えないもの、いくつ思い付きますか。

自由な議論をもとに社会問題の課題解決を導き出す

演習Ⅱ（食料・地域問題演習）　　**堀田 学 教授**

「演習Ⅰ」からの展開として4年生が卒業論文を作成することを目的にした授業です。特に食料問題、農業問題、食品流通問題や地域活性化を中心的テーマとして、学生自身がテーマを設定します。基本的な課題設定、調査やデータ収集・分析方法、論文構成等については教員が指導しますが、内容についてはゼミ生同士が自由に議論するゼミ形式で行っています。同時にプレゼンテーション・議論する力をつけるため、毎週報告者が発表し、コメンテーターが解題する形式を採っています。

在学生

実践形式の講義で
地域経済をより深く学ぶ

経済学部 経済学科
吉田 未來さん
福井県出身

地元の敦賀市を盛り上げたい想いが、地域密着型の県大入学の決め手でした。

「地域活性化」の講義では、自治体と協力して県内事業者を取材し、現場の生の声が聞けるなど、実際に地域社会に関わりながら学ぶことができます。また「日本経済史ゼミ」では、歴史学全般のテキストを使用した輪読や、史跡や寺院のフィールドワークを行っています。知らなかった史跡や観光資源を知ると同時に、ゼミ仲間との意見交換で新しい考え方に触れられるのが魅力です。

オムニバス形式の講義では、毎回先生が変わるので、多様で奥深い学びに面白さを感じています。県大ならではの実践形式の学びを通じて地域の経済と活性化の知識を深め、将来に役立てていきたいです。

/ SNAP SHOT /

損害保険ジャパン株式会社 勤務
品谷 麻希さん
経済学部 経済学科 2023年度卒業　福井県出身

高校生の頃から経済に興味があり、県大で「金融論」を学びたくて入学しました。「金融論」は学ぶほどに奥深く、貧困や消滅都市など社会学への興味も広がり、さらに先生のアドバイスもあって、経済全体を俯瞰して見ることができるようになりました。

なかでも貧困については、各種制度や不安な感情に寄り添い支えていく重要性を学びました。その学びが保険業務にもつながっています。お客様一人ひとりに合わせた対応は簡単ではありませんが、お金の大切さを学んだ自分だからこそ、伝えられる言葉やサービスがあると思っています。

県大には個性豊かな先生が多く、やりたいことへの支援も手厚い環境です。自分に合った道に出会える4年間になるはずです。

/ SNAP SHOT /

卒業生

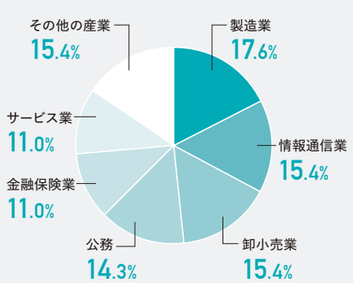
「金融論」から学びが広がり
将来進む道も見つけられた

CAREER
卒業後の進路

就職率（2024年度卒業生）

100%

就職 92.9%　進学 4.1%　その他 3.1%



キャリア展望

- 企業
  金融・保険、製造業、卸小売業、サービス業、運輸業、電力・ガス会社、情報通信、商社、航空、旅行、マスコミなど
- NPO、NGO、農協、生協、大学法人職員
- 中小企業診断士・経営コンサルタント
- 税理士
- 公認会計士
- ファイナンシャルプランナー
- 証券アナリスト
- 国家・地方公務員
- 高等学校教員

卒業生の主な就職先・進学先（過去5年間）

［製　造　業］ 福井村田製作所、酒井化学工業、ウラセ、ギャレックス、TOP、前田工織、松浦機械製作所、小松ウオール工業、三谷セキサン、田中化学研究所　など
［卸 小 売 業］ クスリのアオキ、ゲンキー、興和江守、ヤスサキ、福井トヨタ　など
［金融保険業］ 福井銀行、福井信用金庫、北陸銀行、アクサ損害保険福井センター、今村証券、越前信用金庫、北陸労働金庫、八十二銀行、富山第一銀行　など
［情報通信業］ 三谷コンピュータ、天晴データネット、共同コンピュータ、SCSKニアショアシステムズ、NTTデータ北陸、データシステム、福井新聞社　など
［サービス業］ 税理士法人合同経営会計事務所、福井県民生活協同組合、福井商工会議所、税理士法人木村経営ブレーンなど
［公　　務］ 福井県庁、福井県教育委員会、福井県警察本部、金沢国税局、福井労働局、金沢地方法務局、中部公安調査局、石川県庁、富山県庁、福井市役所、敦賀市役所、あわら市役所、坂井市役所、加賀市役所、上越市役所　など
［進　　学］ 福井県立大学大学院　など

取得可能な資格

- 高等学校教諭一種免許状（公民/商業）
  ※教職課程の単位を修得することにより得られる。

経営学科

Department of Business Administration

学科紹介ページは
こちら

地域との連携による
社会で活かせる実践的教育

福井にはキラリと光る高い技術を持つ企業が多くあり、こうした「生きた教科書」を実際に訪問したり、講義にお招きする機会をたくさん設けています。一方で、基礎理論も重視し、経営学、商学、会計学、情報分野などを幅広く学んでいます。基礎理論を軸としながら、企業経営の実態に触れて、理論と応用・実践とをバランスよく学ぶことで、社会に出てからも活かせる「福井で学ぶ経営学」を一緒に学びましょう。

POINT 学科の特長

01 多様なバックグラウンドを持つ教員スタッフ

経営学科には、実務経験を持つ教員や海外での経験が豊富な教員など、さまざまなバックグラウンドを持つ教員が多数在籍。アカデミックな理論と実務的な経験とを組み合わせて学ぶことで、経営学への理解をより深めることにつながります。

02 演習（ゼミ）での少人数教育

少人数教育を掲げる本学の演習（ゼミ）では、教員1名が担当するのは13名以下のグループとなっており、教員やゼミのメンバーとの議論やグループワークを実施しやすい、双方向的な学修ができる体制になっています。

03 地域との連携による実践的教育

福井の地域性を活かした地元企業や関連団体との連携により、多彩なゲストスピーカーをお招きする講義や、工場見学などのフィールドワークを積極的に実施。経営学の「生きた教科書」に触れて、感じて、楽しみながら学ぶことができます。

04 学んだことが社会に出てからも活かされる

経営学は実践的な学問分野なので、大学の学びが社会に出てからも活かされる場面が多くあります。本学では、経済学・経営学の基礎理論を軸に、地域との連携でより実践的に学べるので、将来の進路選択の幅を拡げることにもつながります。

CURRICULUM

4年間の学びの流れ

※2025年度カリキュラム

	1年次	2年次	3年次	4年次
	経営学の基礎理論を学ぶ 経営学の基礎理論を必修として履修し、2年次からの専門的な学びに備えます。マクロ・ミクロ経済学など両学科に共通した科目も用意されており、学科の垣根を越えた学修ができます。	**本格的に専門分野を学ぶ** 本格的に経営学の専門科目を学びます。前期は「基礎ゼミ」、後期は「外書講読Ⅰ」にて、少人数制を活かした丁寧な指導のもとで、3年次からの専門的な研究に必要な能力を高めます。	**ゼミを中心に研究を深める** 専門科目をより深く学ぶと共に、各教員の「演習Ⅰ（ゼミ）」にて、文献講読やフィールドワークなどを通し、専門分野に関する研究を掘り下げていきます。卒業研究の準備を行う期間です。	**卒業研究・卒業論文** 大学時代の総仕上げとしての学修と研究の大切な期間です。「演習Ⅱ（ゼミ）」で、自ら研究テーマを設定して文献調査や実態調査などを実施し、卒業研究・卒業論文に取り組みます。
経営理論	経営学総論Ⅰ・Ⅱ 西洋経営史	経営戦略論Ⅰ・Ⅱ 人的資源管理論Ⅰ・Ⅱ 経営財務論、経営組織論Ⅰ・Ⅱ 流通論、マーケティング論 消費者行動論、日本経営史	生産管理論Ⅰ・Ⅱ 非営利組織論 産業デザイン	
企業・地域	企業論	中小企業論Ⅰ・Ⅱ 産業組織論、地域マネジメント論	地域経済論、国際経営論 欧米企業論	
情報・会計	統計学、簿記原理 簿記論Ⅰ	情報管理論、簿記論Ⅱ 原価計算論Ⅰ・Ⅱ、会計学Ⅰ・Ⅱ、 経営情報システム論	経営分析論 管理会計論 データ分析	
経　済	マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ	財政学、金融論 国際経済学A		
法　律		権利擁護を支える法制度 会社法、取引法	税法	
外書・演習		外書講読Ⅰ、基礎ゼミ	外書講読Ⅱ、演習Ⅰ	演習Ⅱ、卒業論文
現代社会とその課題	特別企画講座A 経済学特講A	特別企画講座B・C・D 経済学特講B・C・D	特別企画講座E・F・G 経済学特講E・F・G	
その他の科目	キャリアデザイン概論Ⅰ・Ⅱ	福祉のまちづくり論 キャリアデザイン特論	社会的企業論	

PICK UP

授業の紹介

経営戦略の枠組を成り立ちに遡って理解する

経営戦略論Ⅱ　　**早川 貴 教授**

「経営戦略論Ⅱ」では、「経営戦略論Ⅰ」で実践事例と概念図式を中心に学んだ経営戦略論の分析モデルや意思決定モデルを、経済学に基礎づけられた理論として理解し直していきます。このことで皆さんは、経営戦略論のツールを、単に「使える」レベルから「巧みに使いこなせる」レベルに成長を遂げていきます。「経済学が苦手だから経営にしたのに…」と泣きたい気持ち、少し解ります。でも、「気が付いたら強くなってた」という感じは、悪くないものだと思いますよ。

組織を科学し個人を活かす

演習Ⅰ（組織論演習）　　**北野 康 准教授**

「良好な人間関係とは何か？」をテーマに研究を行っています。人間関係は個人と組織の組み合わせで多種多様です。ゼミで活動する際には研究仲間、ゼミが終われば学生であり、卒業したら就職先の組織の一員になります。それ以前に家族の一員であり、地域社会の一員です。個人に求められる行動や気持ちは組織に応じて変わり、また、組織への期待も変わります。私たちのゼミでは、こうした複雑な関係を明らかにすることを目的に活動しています。

在学生

フィールドワークで さまざまな地域課題に注目

経済学部 経営学科
川畑 綾香さん
石川県出身

「企業マーケティング」を学びたくて入学。県大はフィールドワークが多いことに加え、他学科との交流や経済以外の魅力的な授業がたくさんあるのが気に入っています。

特にフィールドワークでは、地域課題である少子化やシャッター街の観光地に注目し、他大学生との合宿や現地視察などを行いました。現状を目の当たりにすると同時に、企業マーケティングが地域マーケティングにも活かせることを実感しました。これらの学びから、将来は地域の課題を解決できる人材になりたいと考えています。また、ゼミ対抗の研究発表会「ゼミコン」では、『北陸新幹線 持続的な観光の提案』をテーマに発表し、最優秀賞を受賞。福井のことをフィールドワークで深く学べた成果だと思っています。

/ SNAP SHOT /

卒業生

ゼミでの学びや経験が 今、仕事現場で生きている

日東シンコー株式会社 勤務
田中 慶太さん
経済学部 経営学科 2016年度卒業　福井県出身

絶縁テープに代表される自社製品の安定した品質管理をはじめ、お客様からの問い合わせや困りごとの対応などに従事しています。安心して使用いただけるよう、時には製造部と対策を考えて提案することも。解決した時には、特にやりがいを感じます。

在学中は生産管理のゼミで、製造工程の勉強や企業見学を通じ、ものづくりの魅力と面白さを学びました。“三現主義（現場・現物・現実）”を意識する重要性を、今まさに納得しながら実践しているところです。

県大には多くの制度や支援があり、それを基に多様な経験や挑戦ができます。先生方も親身になってくれ、交友関係も広がり刺激も得られました。そんな貴重で濃厚な4年間は間違いなく今の人生の糧になっています。

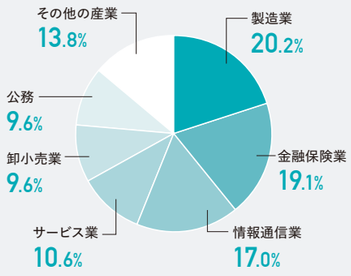
/ SNAP SHOT /

CAREER
卒業後の進路

就職率（2024年度卒業生）

98.9%

就職 96.9%　進学 1.0%　その他 2.1%



キャリア展望

- 企業
  金融、証券、保険、メーカー、卸小売業、物流、交通、電力・ガス、情報通信、商社、旅行、建設、会計事務所、マスコミなど
- NPO、NGO、農協、生協、大学法人職員
- 中小企業診断士・経営コンサルタント
- 税理士
- 公認会計士
- ファイナンシャルプランナー
- 証券アナリスト
- 国家・地方公務員
- 高等学校教員

卒業生の主な就職先・進学先（過去5年間）

［製　造　業］ 福井村田製作所、松浦機械製作所、フクビ化学工業、酒井化学工業、前田工繊、アイシン福井、サカイオーベックス、サカイエルコム、シャルマン、シンフォニアテクノロジー、日本エー・エム・シー、セーレン、三協立山　など
［卸 小 売 業］ ゲンキー、タッセイ、ユニフォームネクスト、山崎金属、興和江守、白崎コーポレーション、福井トヨタ　など
［金融保険業］ 福井銀行、福井信用金庫、北陸銀行、八十二銀行、アクサ損害保険福井センター、福井県信用保証協会、三井住友信託銀行、越前信用金庫　など
［情報通信業］ 三谷コンピュータ、天晴データネット、ART AGE、ALL CONNECT、ビジュアルソフト、福井コンピュータホールディングス、福井新聞社、アートテクノロジー　など
［サービス業］ 税理士法人合同経営会計事務所、税理士法人上坂会計　など
［公　　務］ 福井県庁、福井県警察本部、北陸財務局、金沢国税局、富山県庁、石川県庁、福井市役所、鯖江市役所、永平寺町役場、金沢市役所　など
［進　　学］ 福井県立大学大学院　など

取得可能な資格

- 高等学校教諭一種免許状（公民/商業）
  ※教職課程の単位を修得することにより得られる。

生物資源学部　生物資源学科・創造農学科

Faculty of Bioscience and Biotechnology

食品・生命・自然環境、SDGsの分野での新たな価値創造と人材育成を目指す

生物資源学部は、生物資源学科と創造農学科からなり、生物資源関連の研究を通じて食品や医療、化学工業などの製造業、環境汚染防止、廃棄物処理・資源有効利用、自然環境産業、農業などで活躍する人材を輩出しています。
生物資源学科では、持続可能な環境に配慮したものづくりができる人材育成のために、生物の資源利用に関わる自然科学を、創造農学科では、作物新品種や環境保全技術の研究開発、農作物の加工技術をそれぞれに学びます。

POINT
学部の特長

01

福井県全体を
キャンパスとして活用

生物資源学科は歴史と文化が薫る知の拠点「永平寺キャンパス」、創造農学科は自然豊かな環境の「あわらキャンパス」にあります。福井県全体をキャンパスと位置付け、地域社会との交流も深めています。

02

多彩な教員による
先端的で実践的な教育

海外勤務や企業団体勤務、学会賞受賞、ベンチャービジネス経営など、多彩な経験を有する教員が実践的教育を提供。実務者による実践的教育を通じて優秀な人材を社会に輩出し、就職率は100%を達成しています。

03

充実の研究設備で
研究成果を世界に発信

高度な研究設備を有し、植物品種開発や分子生物学的研究、機能性素材開発、応用微生物学、機能性食品などの分野で基礎的な研究を世界に発信。大学や企業との共同研究や国際共同研究も多く、地域社会に貢献しています。

学部紹介ページはこちら

生物資源学科

Department of Bioscience and Biotechnology

学科紹介ページは
こちら

「食」「生命」「環境」の基礎研究は、人類の役に立つ取り組みにつながる

微生物から動植物までさまざまな生物を対象とした教育と研究に取り組み、基礎研究で得た成果は地域社会や人類の役に立つ取り組みに活用しています。その内容は、世界をリードする最先端技術から地元福井の活性化を目指した地域に貢献する研究まで多種多様、幅の広さが特徴です。専門知識を得ることで探究する面白さを実感すると同時に、幅広い研究領域から自分に合った研究室を選択し、研究することができます。

POINT 学科の特長

01 教員1名当たり学生約2.5名の少人数教育

多彩な教員による少人数教育により、密度の高い教育・研究指導を受けることができます。応用生化学や分子機能学、分子生物学、植物資源学など幅広い領域から、興味関心の高いテーマを卒業研究として取り組むこともできます。

02 最新の実験装置と充実した研究設備

質量分析装置や共焦点レーザー顕微鏡、遺伝子分析装置など最新鋭の実験装置があり、研究圃場や大量培養施設、実験動物施設を活用した教育・研究活動を行っています。また、産学連携拠点として企業との共同研究にも取り組んでいます。

03 研究成果の発信を通じた広くて深い学び

研究で得られた成果は、国内外の学会を通じて広く発信されています。学生の学会発表も盛んで、優秀賞や学会賞などの受賞も年々増えています。このような機会と経験は、大学での研究生活をより充実させるものとなります。

04 実社会での研究開発を講演や見学から学ぶ

民間企業や公的研究機関の研究開発担当者による講義、企業や研究所の見学を積極的に実施することで、実社会での研究開発や製品化、生産を広く深く学んでいます。これらの学びは、就職・進路の選択に大いに役立っています。

CURRICULUM

4年間の学びの流れ

※2025年度カリキュラム

	1年次	2年次	3年次	4年次
	生物学と化学の基礎をしっかりと修得する 専門教員による幅広い一般教養を学びます。理科系科目の導入教育も充実させ、生物学と化学の基礎原理をしっかりと理解します。	2～3年次で実験・実習と応用力を養成する 生物、化学、微生物学、食品生化学、生物物理化学、分子生物学、植物資源学、環境科学の実験・実習を行い、応用力を養います。県内外の研究機関や民間企業を訪問しての学習もあります。	応用力の強化と卒業論文の準備 専門実験や実習で応用力をさらにステップアップさせつつ、卒業論文に向けて多様な専門科目を学びます。また、インターンシップや技術者倫理などで社会との接点も学びます。	4年間の総仕上げ期間 卒業論文を仕上げる 大学時代の総仕上げとしての学修と研究の大切な期間です。全ての学生が研究室に所属し、自ら課題(研究テーマ)を設定し、卒業論文に取り組みます。
生物学の基礎と応用	生物学Ⅰ・Ⅱ	遺伝学Ⅰ・Ⅱ、生化学Ⅰ・Ⅱ 植物生理学Ⅰ、動物生理学 分子生物学Ⅰ・Ⅱ	育種学Ⅰ・Ⅱ、植物栄養学 分子生物学Ⅲ、植物病理学 植物生理学Ⅱ、生物有機化学 動物資源学、細胞免疫学 施設園芸学、果樹園芸学	
化学の基礎と応用	化学Ⅰ・Ⅱ	分析化学、有機化学 微生物学、応用微生物学Ⅰ 食品化学、食品衛生学	生物物理化学Ⅰ・Ⅱ、生物物質化学 生体高分子化学、応用微生物学Ⅱ 農産物利用学、栄養化学、農薬化学	
生物資源学の基礎と応用	統計学基礎 数学基礎 生物資源学概論Ⅰ 地学概論	環境生物学、応用気象学、土壌学 生態学Ⅰ、地圏環境学 生物資源学概論Ⅱ 地域生物生産実習	森林生理・生態学、生態学Ⅱ 農業経営論、技術者倫理、作物学 ゲノム生物学、情報生物学 応用昆虫学	
問題解決能力	生物学実験 化学実験 地域連携実習Ⅰ・Ⅱ	応用生物学実験 生物化学実験 英語発展Ⅰ・Ⅱ リサーチクレジットⅠ・Ⅱ	生物物理化学実験 生物活性分子化学実験 植物分子生物学実験、植物資源学実験 生物資源学特論Ⅰ・Ⅱ リサーチクレジットⅢ 科学英語、技術者と企業Ⅰ・Ⅱ	専攻演習、卒業論文

PICK UP 研究の紹介

タンパク質科学分野

日弁 隆雄 教授　伊藤 貴文 教授　向山 厚 准教授

食品・医療・化成品分野で利用される酵素タンパク質の構造や機能について研究します。

生物分析化学分野

片野 肇 教授　植松 宏平 准教授

医薬品・化学品や環境・健康の指標となる分子・イオンの分析法を作っています。

食品機能科学分野

伊藤 崇志 教授　松井 孝憲 准教授

福井県特産農海産物が持っている未知の健康増進効果や疾患予防効果を研究しています。

応用微生物学分野

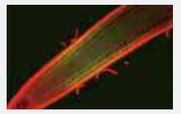
濱野 吉十 教授　長谷部 文人 准教授　丸山 千登勢 准教授

微生物に由来する多様な代謝や酵素、生成物をものづくりへと応用する研究をしています。

植物分子機能学分野

西原 昌宏 教授　篠原 秀文 准教授

多彩な植物の機能や未知な遺伝子の働きを解明し、応用につなげる研究をしています。



植物病理学分野

仲下 英雄 教授　石川 敦司 教授

作物を病気から守るため、植物と病原菌・共生菌の相互作用や免疫機能を解明しています。

植物遺伝資源学分野

風間 裕介 教授　池田 美穂 准教授　西嶋 遼 准教授

多種多様な遺伝資源を用いた有用遺伝子の同定や品種改良新技術の開発をしています。

環境植物学分野

深尾 武司 教授　塩野 克宏 教授　角田 智詞 准教授

気候変動に負けない持続的な作物生産のため、植物と環境の相互作用を研究しています。

PICK UP 授業の紹介

生物を材料に化学的視点から研究するために

学生実験(化学実験、生物学実験、生物化学実験など)　伊藤 貴文 教授

生物資源学科の研究対象は、動物、植物、微生物です。生命が彩る不思議な世界を理解するためには、生き物の様子や生活環境を観察するだけでなく、個々の細胞やさらに小さな分子の働きを探ることも重要です。その際、さまざまな器具や装置を使いますが、いきなり使いこなすのは難しいですよね。生物資源学科の1年次では、生物学実験と化学実験を通じて、基本的な実験技術の習熟を目指します。写真は、酸塩基中和滴定実験(化学実験)の様子です。

在学生

学会やセミナー発表で もっと成長していきたい

生物資源学部 生物資源学科
江守 祐汰郎さん
福井県出身

高校時代から得意な生物を、県大で深掘りして研究中です。仲間との議論では多くの発見や驚きがあって、自分に足りない部分を補えるほか、個々の考えをクロスさせることで意外な学びに発展するところが面白いです。

セミナーや学会に参加する機会が多いのも県大の特徴の一つ。当然、勉強や発表準備は大変ですが、それ以上の達成感があります。今は遺伝学関連の学会発表に向けて頑張っているところです。

先生は「学生ファースト」で考えてくださる方ばかりで何でも話しやすく、講義やゼミもパワフル！ 県大は自分の得意分野をレベルアップできる環境だと実感しているところです。これからもいろいろなことを吸収しながら、人間的にも成長していきたいです。

/ SNAP SHOT /

福井県立羽水高校 勤務
大関 澄花さん
生物資源学部 生物資源学科 2023年度卒業　福井県出身

県大では生物以外にもさまざまなことを学び、視野が広がりました。4年次の学会発表では研究を深める楽しさや他分野との交流が自分の力になり、発信することの重要性も実感することができました。その経験が今、教員として活かされています。

高校での授業は、生物がどの分野でどのように応用され、役立っているかを具体的に話すことで興味関心へとつなげたり、分からないことは生徒と一緒に調べるなど、自分の経験も交えながら進めています。正しい知識と情報と共に、生徒には生物の面白さをもっと伝えていきたいと考えています。

大学は視野を広げるところ。県大の生物資源学科は多分野を知り、自分の得意や好きを見つけられるよい環境だと思います。

/ SNAP SHOT /

卒業生

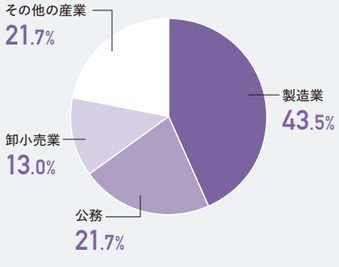
自身の経験を伝えながら 生物への関心を高めたい

CAREER
卒業後の進路

就職率（2024年度卒業生）

100%

就職 60.5%　進学 39.5%



キャリア展望

- 製造業（薬品、化学品、食品など）における研究、工程・品質管理、製造業務
- 環境関連の調査分析の企業における技術員
- 高等学校教員（理科）
- 公務員（農林業など）

卒業生の主な就職先・進学先（過去5年間）

［福 井 県 内］ サカイオーベックス、ふじや食品、田中化学研究所、福井県環境保全協業組合、福井県民生活協同組合、福井村田製作所、日東シンコー、日華化学、前田工繊、勝山ファーマ、福井県庁、福井県教育委員会、福井県警察本部　など

［福 井 県 外］ 井村屋、エースコック、京セラ、スターバックスコーヒージャパン、生晃栄養薬品、富士通Japan、フジパングループ、三協立山、農林水産省植物防疫所、滋賀県庁　など

［進　　学］ 福井県立大学大学院、東京大学大学院、京都大学大学院　など

［大学院修了者］ 天野エンザイム、大塚食品、タキイ種苗、田中化学研究所、日信化学工業、日本食品分析センター、日本メナード化粧品、フクビ化学工業、Mizkan、福井県庁、三重県庁　など

取得可能な資格

- 高等学校教諭一種免許状（理科）
  ※教職課程の単位を修得することにより得られる。
- 修習技術者
  ※JABEE（日本技術者教育認定機構）認定校であり、プログラム修了により取得できる。

資格要件が得られるもの　※所定の単位修得が必要。

- 自然再生士補
- 危険物取扱者甲種
- 食品衛生管理者および食品衛生監視員
  ※採用者等が資格の有無を判断するため、就職後採用者等に確認すること。

創造農学科

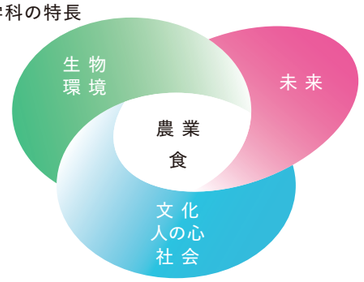
Department of Sustainable Agriculture

学科紹介ページは
こちら

多彩な専門家による実習を中心に
「農」の全てを五感で学ぶ

創造農学科で学ぶ領域は、食・環境・文化・生活といった「農業」を中心とした社会全般です。1年生の専門科目では、専任教員に加え、100名を超える各方面の専門家（特任講師）による実習が中心となります。「食・農業・環境・文化・生活」を現場で聞いて、見て、やって、考えて、話し合う実習と講義。面白いと思うところを専門家から学び、「農」の中で自分がどう生きるかを考える。その全てを本学科で勉強します！

POINT 学科の特長



01 「農」に関する幅広い知識と技術を学ぶ

実体験を行う実習を中心としたカリキュラムにより、将来、さまざまな分野で活躍するうえで欠かせない幅広い知識と技術を身に付けることができます。

02 自ら考えて課題を解決する能力を養う

実習や研修で実体験をすると、さまざまな疑問や課題が生まれます。それらを自ら考えて課題を解決するノウハウを身に付けることができます。

03 コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を養う

実習や研修では、さまざまな人と会話し、考えることが必要となるためコミュニケーション能力が身に付き、課題解決の提案や報告ではプレゼンテーション能力が身に付きます。

CURRICULUM

4年間の学びの流れ

※2025年度カリキュラム

	1年次	2年次	3年次	4年次
	食・農・環境の全てを体験！ 福井県全てをキャンパスにした体験を通し、疑問を調べたり、仲間と話し合いながら身に付けた学びは一生の財産です。自分の畑で好きな農産物を生産し、加工や販売も行います。	**「農」を実践し「面白い！」を発見** 農業を中心に、食や環境、文化、社会はつながり、総合知としての「農」を形成。これを実践のなかで体感し、論理的に考えて人に伝え、仲間と共に行動する力を養います。	**「面白い！」を深め自分の生きる道を考える** 自分が興味のある分野を、専門の実験や講義でより深く学びます。専任教員や地域のプロフェッショナルとのさまざまな活動を通じて感動を共有するなかで、将来生きる道を模索します。	**好きな場所で好きな学びを深化** 専任教員をはじめ地域のプロフェッショナルに弟子入りして自ら課題を設定し、卒業論文に取り組みます。「農」のなかで、自分がどう生きて行くかを見定めます。
専門科目	食農環境・文化概論、総合農学 食農環境実習Ⅰ、食農環境演習Ⅰ 実践農業英語	食農環境実習Ⅱ 食農環境演習Ⅱ	食品加工実習、育種学実験Ⅰ・Ⅱ 蔬菜園芸学実験、花卉園芸学実験 果樹園芸学実験、微生物利用学実験 植物保護学実験、地域農政学実験	専攻演習 卒業論文
	先端農業技術活用論、総合的生物多様性管理論、地域農政論、地域森林利用論、農業市場論、農業経営論、蔬菜園芸学、花卉園芸学、果樹園芸学、植生管理学、微生物利用学、育種学Ⅰ・Ⅱ			
集中講義	農業インターンシップⅠ・Ⅱ、施設園芸学、作物学、農業戦略論			
学部共通科目	農産物利用学、食品化学、食品衛生学、植物病理学、農薬化学、動物資源学、応用気象学、土壌学、生態学Ⅰ・Ⅱ　ほか			

PICK UP

研究の紹介

食品 植物遺伝育種学

村井 耕二 教授

北陸地方に適した小麦の品種開発を行い、福井県で唯一栽培可能な「ふくこむぎ」を開発。現在、製パン性に優れた品種開発や、パスタ用デュラム小麦の開発を行っています。

食品 植物分子育種学

三浦 孝太郎 教授

イネの品質や収量に関する遺伝子の基礎的研究と、突然変異を利用した品種育成に取り組み、米粒が大きい「ピカソンタ」や、大粒でモチモチ食感の「ふくむすめ」を開発しました。

食品 食品機能利用学

高橋 正和 准教授

農産物食品に関する健康増進機能の基礎的解析と、機能成分を活用した食品を開発。県内企業と連携し、県産米や大豆が原料のグルテンフリーパンや植物性代替肉の開発に成功しています。

食品 食品機能分子学

黒川 洋一 准教授

農産物など由来の成分を対象として、機能性食品や医薬としての応用を目指しています。慢性炎症等「酸化ストレス関連疾患」などの発症モデルへの効果を検証します。

農業 地域農政学

森川 峰幸 教授

新幹線開業で交流人口の増えるなか、新たな農業ビジネスの創造に取り組み、地場農産物を活用したトマトソースやオリーブドレッシングを開発。観光農業の活性化もテーマです。

農業 蔬菜園芸学

森中 洋一 教授

野菜の特性評価や栽培に関する研究。福井県内での生産に適した品種選定や作型開発、水稲育苗ハウスの遊休期間の利活用を想定した無加温ハウスでの野菜栽培について研究しています。

農業 花卉園芸学

篠山 治恵 准教授

主に花を材料とした、育種技術について研究。現在は、生活に彩りや癒しを与える花や薬用成分を増加させた植物など、暮らしに役立つことを目指した植物の開発を行っています。

農業 果樹園芸学

松本 大生 准教授

温帯果樹の生理と栽培に関する研究を行っています。特に、オウトウやアケビの自家不和合性現象（雄しべが自分の花粉を拒絶する仕組み）と受粉管理方法について研究しています。

環境 微生物利用学

木元 久 教授

自然界から新種の微生物を分離して産業利用したり、カニ殻などの生物資源の有効利用について研究。微生物排水処理剤や機能性食品、研究用の細菌毒素の商品化に成功しました。

環境 植物環境病理学

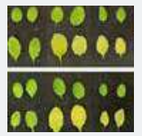
加藤 久晴 准教授

植物病原細菌は宿主植物に由来するさまざまな因子を感知して感染し、発病させます。この機構を解析することにより、新たな病害防除法の開発に寄与したいと考えています。

環境 植物分子生理学

林 潤 准教授

植物の老化や細胞死に関する遺伝子の研究を行っています。気候変動による環境ストレスに耐性のある植物の開発や長期間品質保持可能な農作物の開発に取り組みます。



環境 森林科学

牧野 奏佳香 助教

森林には生物多様性保全などさまざまな機能があるため、森林を保持・保全したく、森林の成長に重要な窒素の過不足やその原因の調査、森林資源の活用方法の探索などを行っています。

在学生

県内就農を目指し
果樹栽培を勉強中

生物資源学部 創造農学科
木下 真治さん
福井県出身

梨農家を営む父に憧れ、県大で農業を学んでいます。四季を感じながらキャンパス内で果樹栽培や収穫ができるのは、創造農学科ならでは。今は、果樹の専門知識や剪定などの実技を学びながら、覚えたことを実家の農園で実際にやってみることもあります。在学中の目標は、自分が就農する果樹を見つけることで、加工ができるかどうかも就農には重要だと考えています。

果樹以外にも、稲や小麦、野菜などの植物や食品加工、微生物、環境、林業など、幅広い内容を専門的に学べるのがこの学科の魅力です。自分がやりたいことを追求するもよし、県大に入学してから見つけるのもよし。意志が強いほど研究に身が入るし、なりたい自分を実現できると信じています。

/ SNAP SHOT /

一般社団法人 あわらConnect 代表理事
田中 涼愛さん
生物資源学部 創造農学科 2023年度卒業　福井県出身

「食」に特化した学びを探していた頃、創造農学科の新設を知りました。先生方は学生の挑戦に寛容で熱心、しっかり伴走してくださいます。そのおかげで「同世代との挑戦を実現したい。地域とのつながりを濃くしたい。ならば、地域でやろう！」と、在学中に法人を設立。学生ブランドを生かして、キッチンカーで「食で感じる幸せ」を伝えたり、地域イベントに参加しました。現在は、あわらのツアーガイドや県産農作物の加工品の発信など、福井の食を伝える活動も続けています。最近では農家とのつながりがさらに増え、後輩の相談にのったり支援ができることも喜びになっています。

大学の４年間はあっという間。考えるよりまずはチャレンジ、行動してみてください！

/ SNAP SHOT /

卒業生

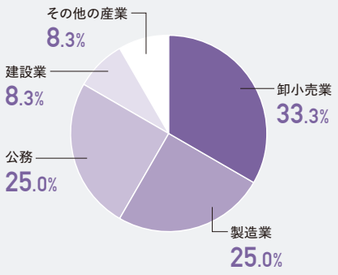
在学中に法人を設立
学生と地域を結ぶ存在に

CAREER
卒業後の進路

就職率（2024年度卒業生）

100%

就職 85.7%　進学 14.3%



キャリア展望

- 農林畜産物の生産・販売、6次産業、植物工場、農作物商社、食品加工会社等
- 種苗会社、農業機械メーカー、肥料・農業メーカー、食品会社、農業施設・資材メーカー等
- 環境調査会社、環境コンサルティング会社、造園・緑化会社、森林組合等
- 国家・地方公務員、教員、農協等

卒業生の主な就職先・進学先（過去2年間） ※2023年度～2024年度卒業生

［福井県内］ AGC若狭化学、興和江守、サンワコン、ヘッドスプリング、エル・ローズ、ティーエムエー（マクドナルド）、ふじや食品、福井県庁、福井県警察本部、起業（あわらConnect）、福井村田製作所、三谷コンピュータ、ユニフォームネクスト　など

［福井県外］ 島津製作所、スギヨ、小西安農業資材、岡山県農業開発研究所、スジャータめいらく、ユニバーサル園芸社、菱機工業、農林水産省植物防疫所、愛知県庁　など

［進　　学］ 福井県立大学大学院、静岡大学大学院

取得可能な資格

- 高等学校教諭一種免許状（農業）
  ※教職課程の単位を修得することにより得られる。

資格要件が得られるもの
- 食の６次産業化プロデューサー
  ※所定の単位修得により資格要件が得られる。

海洋生物資源学部　海洋生物資源学科・先端増養殖科学科

Faculty of Marine Science and Technology

海洋生物資源に関する基礎的知見の集積と成果の社会実装を目指す

海洋生物資源学部は、海洋生物資源学科と先端増養殖科学科の２学科で構成されています。海洋生物資源学科は、水圏生物（魚介類、藻類）・環境・食と健康の３領域で構成され、生物学・生態学的研究、流れや水質など水圏環境の研究、さらに食品加工・健康の研究といった幅広い分野の教育・研究を行っています。先端増養殖科学科では水圏生物に関わる生命科学、環境科学、情報・社会科学の基礎研究を基盤として、増養殖への応用と社会実装までを対象に研究を進めています。

POINT
学部の特長

01 日本海側唯一の水産・海洋系学部

海洋生物資源学部は福井県小浜市にあり、小浜キャンパスとかつみキャンパスを拠点とする日本海側唯一の水産・海洋系学部です。海はもちろん、湖沼や河川などフィールドワークに適した豊かな自然に囲まれています。

02 地域に根差した実践的な教育

教員陣によるきめ細かな学びに加え、さまざまなキャリアを持つ地域の方々から直接ご指導いただくなど、実践性の高い教育を行っています。これらにより地域・社会に貢献できる、行動力あふれる人材を輩出しています。

03 基礎から応用まで幅広い研究を網羅

海洋生物資源の持続的な利用を目的に、最新鋭の設備・機器を駆使して基礎から応用に至る幅広い分野の研究に取り組んでいます。公的機関や企業との共同研究を活発に実施し、その成果は地域・社会の発展に役立てられています。

学部紹介ページはこちら

海洋生物資源学科

Department of Marine Science and Technology

学科紹介ページは
こちら

水圏の未知なる領域、豊かさを科学的に研究

生物、環境、食と健康！ 多彩な研究領域を網羅

水圏は多くの生物が生きる場であり、人々の食生活、文化や交流を支える重要な場でもあります。本学科は海、川、湖、湧水といった水圏について「生物」や「環境」「食・健康」といった研究領域から多角的に学び、基礎研究から応用・実用研究まで数多くのプロジェクトを推進しています。水圏について学ぶにふさわしい環境で、海洋生物資源の持続可能な利用について共に学び、研究しましょう。

生物

食

環境

POINT 学科の特長

01 海、川、湖沼、湧水についてさまざまな視点で学ぶ

地球は「水の惑星」と呼ばれています。本学科では、海洋、河川、湖沼、湧水など水圏全体を研究対象とし、特定の水域を深く調査する研究に加え、広い範囲の水や物質の循環・輸送に焦点をあてた研究も進めています。

02 水圏の生物、食と健康、環境について高度な専門的知識を学ぶ

本学科は水圏の「生物を知る領域」「生物を育む環境を知る領域」「食と健康を知る領域」から構成されています。水圏の生物やその生息環境、さらには水産資源の利用や健康機能に関する高度な専門的知識を学ぶことができます。

03 これからの水圏と社会の関わりについて学ぶ

小浜キャンパスの近くには若狭湾、三方五湖、河川や湧水といった豊かな自然があり、小浜は古くから京都の「食」文化を支えてきた鯖街道の起点の地でもあります。フィールドワークや民間企業への訪問などを通じた社会での学びも重要視しています。

04 水圏に興味を持つ学生が集い、気付き合いながら学ぶ

水圏について幅広く学べる学科は全国的に見ても限られており、本学科には各地から水圏に興味を持つ仲間が集います。新たな出会いと多面的な学問領域の学びを通じて学生は成長しながら、現代の水圏が抱える諸問題の解決に向けて取り組みます。

CURRICULUM

4年間の学びの流れ

※2025年度カリキュラム

			1年次	2年次	3年次	4年次
			自然科学の基礎を学ぶ	海洋生物資源の基礎を学ぶ	専門分野の応用力を身に付ける	教育・学修の総仕上げ
専門基礎科目 必修			生物学Ⅰ・Ⅱ、化学Ⅰ 数学基礎、物理学Ⅰ	化学Ⅱ、生物学実験、化学実験 科学者および技術者の倫理		
専門応用科目	必修	学部共通		生化学、分子生物学 藻類学概論 大気・海洋学概論 漁業制度論	基礎演習	専攻演習、卒業論文
		学科必修	海洋生物資源学フィールド演習Ⅰ	魚類学、微生物学概論 海洋化学 水産資源利用学 海洋生物資源学フィールド演習Ⅱ		
	選択必修	水圏生物の生命現象の解明		動物生態学 水圏微生物生態学	藻類生理学、生態遺伝学 進化系統学、浮遊生物学 水圏生命情報科学	
		水圏環境の保全と修復		環境水理学、沿岸海洋学 海洋生産環境学、水産施設工学	水圏環境科学、海洋環境工学 山川里海連関学 生物地球化学、沿岸生態工学	
		水圏生物資源の有効利用		食品化学 海洋生物資源学特別講義Ⅱ	食品工学、食品保全学 生物資源分析化学 食品微生物学、食品安全管理論 食品栄養学	
		実験・実習・演習		地域活性化演習 海洋生物学実験 食品化学実験、水圏環境学実験	水圏保全遺伝学実習 海洋微生物生態学実験 海洋環境工学実習 食品工学実験、インターンシップ	
	選択	海洋生物資源の幅広い視野の涵養	地学概論	海洋地質学、水産増養殖学概論 水産経済学 海洋生物資源学特別講義Ⅴ	動物生理学、水族病理学 魚類免疫学、水産資源学 科学英語Ⅰ・Ⅱ	

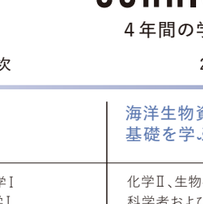
PICK UP

研究の紹介

水圏微生物生態学研究室

近藤 竜二 教授　**高尾 祥丈** 准教授
片岡 剛文 准教授

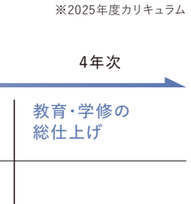
海洋・湖沼・河川をフィールドにして、微生物の群集形成・細胞生理・生物間相互作用の仕組みを明らかにする研究を行っています。微生物を単離し培養や遺伝子分析を用いて、水圏生態系での物質循環を担う微生物の生態解明を目指しています。



海洋環境動態学研究室

瀬戸 雅文 教授　**兼田 淳史** 教授

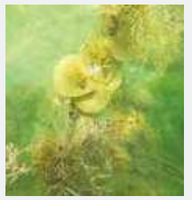
若狭湾などの沿岸域から日本海、太平洋などの外洋域までの流れや波、水質などの海洋環境を現場観測・水槽実験・数値シミュレーションなどさまざまな手法を用いて調べ、流れの発生機構や海洋環境の変動、海洋環境と生物の関係について研究しています。



藻類生命科学研究室

吉川 伸哉 教授　**佐藤 晋也** 教授
山田 和正 助教

生産者として水圏の生態系を支えている藻類を対象に、進化、形態形成、環境応答、藻類が作る物質の有効利用の研究をしています。藻類の特性を理解するための知見を積み上げると共に、資源としての藻類の利用に貢献できるように努めています。



水圏資源生態学研究室

杉本 亮 教授　**小路 淳** 教授
山本 昌幸 教授　**松林 順** 准教授

水産資源の変動機構の解明とその持続的利用に不可欠な生態系の構造と機能の理解を目的として、水圏生態系の物質循環や生物生産、水圏動物の生態や生物多様性に関する基礎的・応用的研究を行っています。

水産資源化学研究室

横山 芳博 教授　**水田 尚志** 教授
細井 公富 准教授

海洋生物資源に含まれる各種有用成分の探索とその構造・機能解明に関する研究や、養殖魚の鮮度維持や飼料改良による品質向上に関する研究を行っています。海洋生物資源を食料はもとより、化粧品や医薬品など生活関連素材として有効活用することを目指します。

食資源利用学研究室

松川 雅仁 教授　**今道 力敬** 准教授
下畑 隆明 准教授

食料資源として水産物を持続的に有効利用するために、魚肉タンパク質の品質制御や加工技術の基盤となる研究、水圏由来の有害微生物の制御を通じた食の安全と安心に資する研究および健康機能有用成分の探索に関する研究を進めています。

学業や「海友会」を通じて地域交流も深める

在学生

海洋生物資源学部 海洋生物資源学科

久田 恵子さん

愛知県出身

魚釣りや潮干狩りの経験を通じ、海洋関連への関心が高まり入学。海洋の幅広い分野の中でも、食資源について学んでいます。例えば、魚の練り物であるかまぼこをテーマに、実験で弾性を調べたりしています。

日々の勉強以外にも、2年次からは学生で構成する「海友会」に所属し、仲間と一緒に大学祭や学内イベントなどを企画・運営しています。地域の方とも盛んに交流し、地域内で県大ができることや役割を考えながら、さまざまな情報を発信しています。

深く学んだからこそ福井の魚の魅力PRに尽力

卒業生

福井県農林水産部 勤務

田邉 愛斗さん

海洋生物資源学部 海洋生物資源学科 2023年度卒業　福井県出身

小さい頃から釣りが趣味。県大で魚や養殖の学びを深め、その知識を地元で役立てたくて県の水産職を選びました。今は県内外で、福井の水産物のPR業務に励んでいます。

あらゆる魚の知識や情報を発信できたり、現場の漁業者と漁や養殖の話ができるのは、県大で学んだ大きな成果です。業務上、お世話になった先生とやりとりすることもあり、新たな学びが多く、良い刺激になっています。

今後も県大で学んだことを活かし、大好きな福井の水産物PRに尽力するつもりです。

教員

水圏資源生態学研究室

小路 淳 教授

浅い海に生息する魚の種類や数の変化を研究しています。福井県沿岸の海中は、季節によって大きく異なります。魚たちだけでなく、海草や海藻の成長にともなって環境が大きく変化します。魅力たっぷりの自然が小浜キャンパスのすぐ近くにあるのでフィールドワークには最適ですし、海好き・魚好きの皆さんにとって、まさに“パラダイス”とも言える環境です。

海の自然の特徴を、見て、聞いて、触って、五感をフル活用しながら、自分にフィットする研究テーマを見つけてください。

海好き、魚好きにとって小浜はパラダイス！

海洋の知識でリードする食の安全と安心

教員

食資源利用学研究室

下畑 隆明 准教授

食物にはたくさんの細菌がひそんでおり、一部の悪い細菌によって食中毒が起こってしまいます。食中毒原因菌が持つ“武器”を研究することで「予防法」の開発を目指しています。

地域との連携が強い県大では、多くの出会いがあります。海や食物のことを学び、専門性を高めるだけでなく、豊かにした知識を交流の中で発信していく環境が整っています。

海洋の知識から“食の安全・安心”の研究をリードする研究者を目指してみませんか。

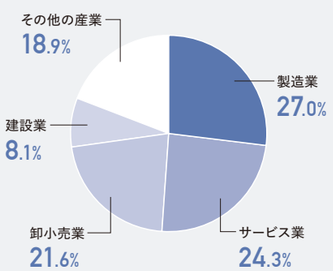
CAREER

卒業後の進路

就職率（2024年度卒業生）

100%

就職 78.7%　進学 14.9%　その他 6.4%



キャリア展望

- 食品・水産加工品の研究開発・品質管理、製造業務
- 魚市場、漁業協同組合
- 環境・建設コンサルタント
  環境分析
- 水族館、生物飼育産業
  観賞魚関連企業
- 医薬品など化学製品の研究開発
- 国家・地方公務員、試験研究機関などの公務員
- 高等学校教員（理科、水産）

卒業生の主な就職先・進学先（過去5年間）

［福 井 県 内］ 福井県漁業協同組合連合会、福井中央魚市、小浜海産物、京福コンサルタント、ゲンキー、越前松島水族館、セーレン、フクビ化学工業、ふじや食品、清川メッキ工業、AGC若狭化学、福井県庁、小浜市役所　など

［福 井 県 外］ 森永乳業、あきんどスシロー、エステム、キユーピー、五洋建設、スギヨ、大水、はま寿司、西日本電信電話、日清丸紅飼料、日本海洋生物研究所、パローホールディングス、マルイチ産商、マルハニチロ、山崎製パン、関電プラント、水産庁、富山県庁、東京都教育委員会　など

［進　　学］ 福井県立大学大学院、東京海洋大学大学院、九州大学大学院、京都大学大学院、総合研究大学院大学、千葉大学大学院、筑波大学大学院　など

［大学院修了者］ 福井県庁、天野エンザイム、静環検査センター、マリン・ワーク・ジャパン、キユーピー、積水メディカル、エスビー食品、日本海洋事業、静岡県庁、三重県庁、京都府庁、千葉県庁　など

取得可能な資格

- 高等学校教諭一種免許状（理科／水産）
  ※教職課程の単位を修得することにより得られる。
- 修習技術者
  ※JABEE（日本技術者教育認定機構）認定校であり、プログラム修了により取得できる。

資格要件が得られるもの　※所定の単位修得が必要。

- 自然再生士補
- 食品衛生管理者および食品衛生監視員
  ※採用者等が資格の有無を判断するため、就職後採用者等に確認すること。

先端増養殖科学科

Department of Advanced Aquaculture Science

学科紹介ページは
こちら

「未来の増養殖」を創るための多様な学問をきわめる

増養殖を「飼料・育成・育種・病気・流通・情報」で学ぶ

本学科は、水産科学、ゲノム科学、環境科学、情報科学など幅広い分野の教員による少人数制での研究指導を行います。また、設備が整った新しい飼育施設と、目の前の若狭湾を実験フィールドにして、増養殖の基礎から応用までの知識と技術をシームレスに学ぶことができます。４年間で先端技術を実践的に活用する能力を身に付け、地域や国内はもとより、海外でリーダーシップを持って活躍できる人材を育成します。

POINT 学科の特長

01 増養殖に関する基礎知識と専門知識を学ぶ

自然科学、数学、経済学などの基礎をしっかりと修得したうえで、増養殖に必要な知識を体系的に学び、思考して実践するための力を身に付けます。

02 学んだことを実践する能力を修得

知っているだけでは、実際に修得した知識を使うことができません。本学科では、学んだことを養殖の現場で実行する実習に力を入れています。その中で、「なぜ」「どのように」と思考しながら実践する能力を身に付けます。

03 課題を設定し論理的に解決する能力を修得

社会的背景を理解して水産増養殖に関わる課題を設定し、解決のための計画を立案して実践します。そして、得られた結果を客観的に考察して合理的な結論をまとめ、社会実装するための能力を身に付けます。

04 得られた成果を他者に伝える能力を修得

課題解決に向けて、他者と相互に意思疎通を図りながら行動し、成果をまとめて文章と口頭で論理的にわかりやすく発表する能力を身に付けます。

PICK UP

研究の紹介

増養殖生態分野
自然共生増養殖学研究室

濵口 昌巳 教授

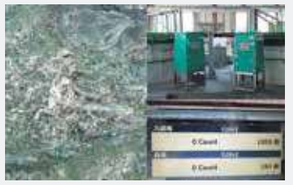
現在の増養殖は、生態系保全を行いつつ、自然環境の適正収容力等に配慮する必要があります。私たちの研究室では海域、河川や湖沼で潜水や環境DNA技術を活用して生物多様性調査を行いつつ、自然と共生できる持続可能な手法による地域振興を目指しています。

増養殖生態分野
水圏保全生態学研究室

田原 大輔 教授

福井県特産種のアラレガコ（カマキリ）を中心に、アユやサバなど魚類の効率的な種苗生産技術や養殖方法の開発に取り組んでいます。今後は、放流に頼らない増殖方法に関する研究も進めていきます。

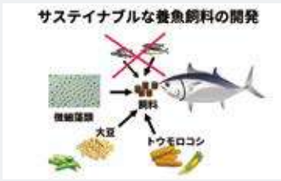
養魚育成管理分野
養魚育成管理学研究室



富永 修 特命教授

魚類養殖では、過剰な給餌が環境汚染を引き起こすだけでなく、飼料経費の増大にもつながります。私たちは、新たに食欲の時間変化を計測する手法を開発し、低コストで計画的に魚を養成する給餌ナビゲーションシステムの開発を進めています。

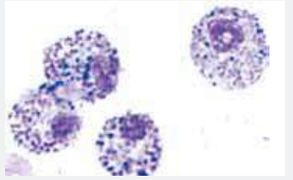
養魚育成管理分野
飼料栄養学研究室



佐藤 秀一 教授

現在、世界の水産養殖業は著しい発展を遂げています。今までは魚由来の原料で作った飼料を与えていましたが、水産養殖の発展に伴い、原料の供給が難しくなりました。そこで、魚を使わない飼料開発を行い、サステイナブルな養殖魚の創生を目指しています。

魚病・免疫分野
魚病学研究室



末武 弘章 教授

養殖業は世界的な成長産業です。同時に、魚病の発生も拡大しています。また、新たな養殖魚種の要望も増えていますが、それに伴い新しい病気も現れてきています。病原体と魚介類の両方を理解し、その相互作用として魚病をとらえ、その対策を考えていきます。

魚病・免疫分野
免疫学研究室

瀧澤 文雄 准教授

養殖魚の感染症対策には、ヒトと同じようにワクチン接種が行われています。私たちは魚類の免疫系を理解して養殖魚を感染症から守るために、魚の免疫細胞がどのように病原体と闘い、ワクチンによって活性化しているか研究しています。

育種・生物工学分野
水産育種学研究室

奥澤 公一 教授

作物や家畜に比べて遅れている養殖魚の育種（品種改良）を研究しています。遺伝情報（ゲノム）を利用した最新手法による選抜育種・遺伝的改良を行って、早く成長する、病気に強いなど、養殖業の生産性を向上させる性質を持つ魚をつくっています。

育種・生物工学分野
生物工学研究室

吉浦 康寿 教授

家畜や農作物に比べ、養殖魚の品種改良は歴史が浅く、進展が遅れています。ゲノム編集などの新技術を導入し、品種改良を加速して安価で美味しい水産物の提供を目指しています。また地球温暖化に対応するため、高温に強い品種の育成にも取り組んでいます。

生命情報工学分野
動物情報工学研究室

八杉 公基 准教授

画像処理や深層学習を使った画像認識技術をベースに、養殖水槽を泳ぐ魚を撮影したカメラ映像から魚の成長や健康状態を調べるシステムの開発と、それを利用して競争や闘争といった水槽内の魚の行動や個体間の関係性を調べる研究をしています。

生命情報工学分野
海洋ゲノミクス研究室

西辻 光希 准教授

海藻の花を見たことがありますか？ 植物ではない海藻には花がなく品種改良は困難です。私たちは遺伝子やDNA、次世代シーケンサーを駆使した新技術を開発し、海藻の品種改良を行っています。さらにサンゴ、海草、魚類などのゲノム研究にも取り組んでいます。

水産ビジネス情報解析分野
養殖ビジネス学研究室

東村 怜子 准教授

世界各地の水産業の現場を見て歩いています。カナダ、アラスカ州、インドネシア、ミャンマーなどで漁業と水産加工業の調査をしています。写真は、カナダで1週間毎日漁船に乗船した後で「もう乗組員として合格だな！」と言ってもらった時のものです。

水産ビジネス情報解析分野
水産情報解析学研究室

渡慶次 力 准教授

私たちは、とにかく現場に行き、水産現場の方々との意見交換を通して、海洋環境・水産資源・水産流通・水産物消費に至るまでの課題を見つけ、他大学、国や地方公共団体、民間企業と協働しながら、情報科学を駆使して課題を解決していく研究をしています。

失敗さえも楽しめる環境で
将来は魚の研究者に

在学生

海洋生物資源学部 先端増養殖科学科
池田 拓史さん
埼玉県出身

魚好きが高じて、将来の夢は魚の研究者。高校時に養殖への関心が高まり、県大を選びました。座学も実習も実験も、とにかく面白い毎日。アユの採卵からの人工授精は失敗の連続でしたが、自分の力で実験できるのが楽しくて、充実しています。

授業は少人数制、先生もフレンドリーでアットホームな環境なので、何事にも積極的に挑戦できます。現在研究中なのは、高水温に強いサバ。小浜市の「よっぱらいサバ」など地域活性化にも役立てたいです。

在学生

海洋生物資源学部 先端増養殖科学科
山﨑 碧さん
長野県出身

水族館が好きで、海の生物を学びたくて入学。養殖でさまざまな魚に触れ、実験や実習は楽しく、漁協の方の話は面白くて役立つ知識や情報ばかり。今はアユを研究中で「魚道」に興味津々です。3年夏には2週間、仲間とフィリピンの養殖研究施設へ。日本とは違う設備を見学でき、刺激になりました。

当科は実験や実習が多く、先生との距離も近いのが特徴です。興味があるテーマを深く学べるし、専門の先生も多いので、4年間で思う存分、納得がいく研究ができますよ。

実験や実習が楽しい！
アユの「魚道」を研究中

CURRICULUM

4年間の学びの流れ
※2025年度カリキュラム

		1年次	2年次	3年次	4年次
		水産増養殖を学ぶための教養を身に付ける	水産増養殖の基本的な知識を学び応用力を養う	社会とのつながりを意識して実践能力を高める	課題を設定し、解決する能力を鍛える
専門基礎科目		生物学Ⅰ・Ⅱ、化学Ⅰ、数学基礎 海洋生物資源学フィールド演習	化学Ⅱ、科学者および技術者倫理 生物学実験、化学実験		
学部共通			生化学、分子生物学、藻類学概論 大気・海洋学概論、漁業制度論	基礎演習	専攻演習、卒業論文
増養殖研究	基礎科目		水産増養殖学概論、海洋生物学 動物生理学、魚類生理生態学 増養殖統計学Ⅰ、水族遺伝育種学Ⅰ	基礎科学英語、専門科学英語	
増養殖研究	応用科目		水圏種苗生産学、養魚育成学、藻類養殖学 魚類免疫学、水族発生工学、水産経済学 水産物流通論、国際海洋ビジネス論	飼料栄養学、水族病理学、水族遺伝育種学Ⅱ 生命情報科学、ICT応用工学 増養殖統計学Ⅱ、地域活性学	
増養殖研究	幅広い視野の涵養		食品安全管理論	水産資源学、水圏微生物生態学、水産施設工学 地学概論、沿岸海洋学、海洋化学、水産資源利用学	
実験・演習			増殖学実験、養魚育成学実験 魚類免疫学実験	増養殖環境学実験、遺伝育種学実験 情報科学演習、水産物流通演習、基礎演習	
実習			養殖学実習Ⅰ 養殖インターンシップⅠ	養殖学実習Ⅱ、インターンシップ 養殖インターンシップⅡ（海外）	

教員

海洋生態系保全学分野
濵口 昌巳 教授

海草・海藻類を活用したブルーカーボン（海底に蓄積される二酸化炭素）機能によるカーボンニュートラルの実践や海洋生態系の保全を主体に研究しています。さらに、地域の環境や生態系に基づいた、持続可能な生産体系を漁業者と構築する取り組みも行っており、地域環境に適合した新しいブランド牡蠣の創出も行っています。牡蠣養殖にとって小浜湾は好環境で、他の地域よりも成長が早いことが明らかになりましたが、水温が高いため、暑さに強い牡蠣の種苗を最新の技術を使って開発しています。

自然と共生する増養殖
研究を実践しています！

魚好きなら食べるだけでなく
魚の全てを知り尽くそう

教員

ゲノム応用科学分野 魚病学
末武 弘章 教授

魚も病気にならないように免疫系を持っていて、そのしくみを解明する研究を行っています。県大の目の前にある若狭湾は養殖が盛んで、研究には最適です。また、一年を通じてさまざまな魚が水揚げされ、その美味しさは言うまでもありません。

魚類に興味関心があるなら、当科ではいろいろなことが学べ、思考力や観察力も養えます。さらに学びを深めていくことで研究テーマや自分の強みを見つけられ、自らの研究を広く発信する面白さも実感できるでしょう。

CAREER

卒業後の進路

キャリア展望

- 水産養殖に関する生産・育成の分野
  民間企業、漁業協同組合などの養殖生産業、観賞魚生産、ペット産業
- 水産物の加工販売や水産ビジネスの分野
  食品会社、水産加工会社、流通、商社、水産物販売、観光業、起業
- 情報・環境・コンサルタントに関連する分野
  IT・Web関連、ソフト開発、環境調査会社、環境コンサルティング
- 水産増養殖に関連する技術開発・研究の分野
  水産関連の国・地方・独立行政法人などの公設試験研究機関、民間研究機関、水族館、養殖関連機械・飼料生産メーカー
- 水産分野に関する政策立案・教育指導・国際貢献の分野
  国・都道府県・市町村の公務員、教員、国際機関、青年海外協力隊
- 大学院への進学

取得可能な資格

- 高等学校教諭一種免許状（理科／水産）
  ※教職課程の単位を修得することにより得られる。

資格要件が得られるもの

- 食品衛生管理者および食品衛生監視員
  ※所定の単位修得が必要。採用者等が資格の有無を判断するので、就職後採用者等に確認すること。

看護福祉学部　看護学科・社会福祉学科

Faculty of Nursing and Social Welfare Sciences

専門性の高い2つの学科から
看護と福祉の実践力がある人材を育成

本学部は、全国でも数少ない「看護福祉学部」として1999年に開設されました。ヒューマンケアの理念のもと、人々の健康生活を支援できる専門的人材を育成しています。カリキュラムは、「個性豊かで創造的な人間性を育むと共に、看護および社会福祉に関する専門的知識・技術・倫理観に裏付けられた実践力を養う」ことを目指して構成されています。質の高い教育環境と実習体制により、国家試験で高い合格率を維持しており、卒業生は看護・福祉の専門職として全国で活躍しています。

POINT
学部の特長

01
看護学と社会福祉学の融合

看護学は保健・医療を対象とし、社会福祉学は生活・福祉を対象とします。両学科では「人の健康と生活」という共通のテーマを追求。人を「健康」と「生活」の両面から広くとらえ、高い専門性と倫理観を習得できます。

02
地域や国際交流による豊かな人間性と社会性の育成

地域住民との積極的な交流や、看護や社会福祉における実地経験を通して、社会の一員としての自覚を養えます。また、米国の大学との定期的な人的交流を通して、国際性も育むことができます。

03
デジタル教育技術の積極的活用

両学科に共通のシミュレーションシステム導入と、ICT利用による双方向性の遠隔教育を効率よく取り入れることで、感染拡大時や天災時でも持続的な質の高い学修を維持できます。これは、座学と臨地実習の架け橋ともなります。

学部紹介ページはこちら

看護学科

Department of Nursing Science

学科紹介ページは
こちら

人々のいのち・くらしを
守り支える看護職を育成

ヒューマンケアの理念のもと、人々の健康生活を支援できる専門的人材の育成を目指しています。看護およびその対象である人間と生活への理解を深め、人々の多様なニーズに対応できる知識と技術を修得できるよう支援します。学生が相互に刺激し合えるようグループワークを多く設けているのも特徴で、保健・医療・福祉の包括的な視野を持ち、多職種と連携・協働しリーダーシップを発揮できる人材を育成しています。

POINT 学科の特長

01 ICTを活用し臨床判断能力を培う

「看護学」の演習・実習で、多職種連携ハイブリッドシミュレータや小児シミュレーターをフルに活用しています。シミュレーターに搭載されている多様な事例を用いて、看護の専門的知識の活用と臨床判断能力、技術力の向上を目指します。

02 コミュニケーション力を身に付ける

1年生開講の「健康生活支援演習」では、地域住民との交流を通し、入学後早い段階から対象理解・関係性構築のためのコミュニケーション力を身に付けることができます。交流後は地域住民の健康と生活の課題について学びを深めます。

03 病院、施設、地域・在宅の場で看護を学ぶ

「看護学実習」では、病院や施設、行政機関などのさまざまな現場で、対象者のライフサイクルや健康レベルに応じた看護を実践します。実習を通じて、豊かな感性や倫理観、個人・家族・地域住民の多様なニーズに対応できる実践力が身に付きます。

04 看護のマネジメントや研究の基礎を学ぶ

4年生開講の「看護マネジメント実習」では、看護現場のリーダーシップやマネジメントについて学びます。「卒業研究」では研究の基礎を学ぶことにより、看護職に必要な科学的思考力と看護の専門性を探求する態度が身に付きます。

CURRICULUM

4年間の学びの流れ

※2025年度カリキュラム

		1年次	2年次	3年次	4年次
		看護の基礎 専門基礎科目では人体の構造・機能や病気の成り立ちなどを学び、専門科目では看護技術、看護理論など看護の基礎を学びます。	**看護の対象・場の理解** 看護の対象である、さまざまなライフサイクル・健康レベルにある人々や病院、施設、在宅などの療養生活の場を理解する専門科目が加わります。	**看護の実践** 「看護学実習」では、多様な人々と信頼関係を築きながら、広く深く看護の実践能力を身に付けます。保健師の資格取得を目指す人は、関連科目を履修し4年次の実習に備えます。	**看護の発展** 学修領域が看護の発展へと広がり、「看護マネジメント学」「災害看護学」「看護情報学」などを学びます。卒業研究では自主的・計画的に研究を遂行し、研究論文を完成させます。
共通関連科目		病気・人間・社会 福祉のまちづくり論	社会政策、居住福祉論 医療福祉工学、社会調査の基礎		
専門基礎科目		解剖生理学Ⅰ・Ⅱ 臨床病態学Ⅰ・Ⅱ 精神保健 公衆衛生学 社会保障・社会福祉概説	臨床栄養学・生化学 臨床薬理学、微生物・免疫学 病態生理学、臨床病態学Ⅲ・Ⅳ 疫学、保健医療福祉行政論 保健統計学		
専門科目	看護の基礎	看護学概論、看護理論 基礎看護技術、臨床看護技術 健康生活支援演習 基礎看護学実習Ⅰ	看護過程展開論 フィジカルアセスメント 基礎看護学実習Ⅱ 看護倫理学		
	看護の対象・場の理解と実践方法		母性看護学概論、小児看護学概論 成人・老年看護学概論、緩和ケア論 急性看護学、セルフケア支援論 老年看護援助論、地域・在宅看護学 精神看護学概論、精神看護学 公衆衛生看護学概論、保健指導論 公衆衛生看護活動論Ⅰ、学校保健Ⅰ	母性看護学、母性看護学演習、小児看護学 小児看護学演習、急性看護学演習 セルフケア支援演習、老年看護援助演習 地域包括支援論、地域・在宅看護学演習 精神看護学演習、公衆衛生看護活動論Ⅱ 政策形成過程演習、公衆衛生看護技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 公衆衛生看護管理論、産業保健論、学校保健Ⅱ	
	看護の実践			母性看護学実習、小児看護学実習 急性看護学実習、セルフケア支援実習 緩和ケア実習、老年看護援助実習 精神看護学実習、地域・在宅看護学実習 地域包括支援実習	公衆衛生看護活動展開実習 公衆衛生看護管理実習
	看護の発展			看護研究方法論	卒業研究、看護マネジメント学、 看護マネジメント実習、看護教育学、 災害看護学、看護情報学、看護倫理発展セミナー がん看護発展セミナー、生殖看護発展セミナー 小児看護発展セミナー、精神看護発展セミナー 家族看護発展セミナー、認知症看護発展セミナー

PICK UP

授業の紹介

認知症看護認定看護師と行うロールプレイ

老年看護援助演習 久米 真代 教授

本演習では看護過程の展開の一部として認知症看護認定看護師の方々に高齢者役を演じてもらい、ロールプレイを行っています。学生同士の演習とは異なり、模擬実習の雰囲気で学習することができます。事前にさまざまな工夫をして臨んでも予想外の反応に苦戦したり、思いのほか良い反応が得られたりして、計画を見直すきっかけができます。実施後、認定看護師の方との振り返りも自分たちの計画の強みと改善点に気付く時間です。実習につながるひと時、あなたも体験してみませんか。

地域で生活する人々の健康課題を理解し課題解決のための看護技術を学ぶ

公衆衛生看護活動展開実習 小島 亜未 教授

「公衆衛生看護学」は予防を軸に据えた保健師活動を学びます。日々を営む乳幼児から高齢者までのあらゆる発達段階、さまざまな健康レベルにある人々を対象とし、個人が抱える課題への支援だけでなく、同じ課題を抱える人々への支援、さらには地域全体が健康になれる地域づくりといったケアシステム構築を目指した看護について学びます。学習では、例えば親子を対象に、子どもの健やかな成長を目的に行う健康教育の企画・教材作成・実施・評価を通して、具体的展開の看護技術を学びます。

在学生

仲間と助け合いながら 看護のプロを目指す

看護福祉学部 看護学科

辰澤 凛さん

福井県出身

　将来は手に職を付けられる一生の仕事をと考え、地域看護に特化し、養護教諭の受験資格も取得可能な県大を選びました。1年次の「基礎看護技術」や「解剖生理学」は看護の基礎ですが、学ぶたびに内容も難しくなっています。しかし、2年からの演習や実習につながる大切な内容なので、わからない点は先生に聞くなどして理解を深めています。先生方のサポートも手厚く、親身になってくださるので、とても心強いです。

　看護学科は座学に演習、実習と盛りだくさんでスケジュール管理も大変ですが、助け合える仲間と一緒に乗り越えられる雰囲気があります。まずは目標に向かって前進、そしてレベルアップ！ そう考え、行動しながら、忙しくも充実した学生生活を送っています。

/ SNAP SHOT /

光陽訪問看護ステーション 勤務

瀬戸川 美穂さん

看護福祉学部 看護学科 2021年度卒業　福井県出身

　訪問看護職を選んだのは、患者さんの自宅でご本人や家族の悩みに向き合うケアがしたいと思ったからです。就職後、病院での研修や勉強を経て現場へ。最初は不安でしたが経験が自信になり、患者さんからの感謝の言葉が喜びにもなっています。ステーションは24時間体制、平常時は1日5～6件の訪問、夜勤もあります。やりがいと責任を感じながら、日々の仕事に向き合っています。

　訪問看護とは、看護だけではありません。疾患があっても患者さんが持つ力を活かしてできることを考えたり、環境を整えたり、多岐にわたります。それには、多職種スタッフとの連携が不可欠。在学中、社会福祉科と一緒に福祉や精神関連を学んだことが、今の現場でも活かされています。

/ SNAP SHOT /

卒業生

訪問看護で実感する 多職種連携の大切さ

CAREER

卒業後の進路

就職率（2024年度卒業生）

100%

就職 97.9%　進学 2.1%

医療・福祉 89.1%　教育 6.5%　公務 4.3%

卒業生の主な就職先（過去5年間）

看護師

［福井県内］ 福井県立病院、福井大学医学部附属病院、福井赤十字病院、福井県済生会病院、福井厚生病院、福井循環器病院、光陽生協病院、公立丹南病院、公立小浜病院、福井県庁、福井県教育委員会　など

［福井県外］ 金沢大学附属病院、大阪大学医学部附属病院、京都大学医学部附属病院、慶応義塾大学病院、千葉大学医学部附属病院、国立国際医療研究センター病院、滋賀医科大学医学部附属病院、京都府立医科大学附属病院、東京医科歯科大学病院、岐阜県総合医療センター、藤田医科大学病院、大阪赤十字病院　など

保健師　都道府県、市町村、企業

養護教諭　小学校、中学校、高等学校

進学

大阪大学大学院、滋賀県立大学大学院、敦賀市立看護大学（助産学専攻科）　など

▪ **大学院 修士課程・博士後期課程への進学**

　2023年度、大学院健康生活科学研究科（博士後期課程）が開設されました。福井県内の看護系大学では初の博士後期課程となります。大学4年間で学んだことを、修士課程で発展させ、さらに博士後期課程へ進学するという一貫した教育を受けられます。

　博士後期課程では、看護学と社会福祉学を融合した領域横断的な視点から研究を行います。大学院へ進学することで、看護学を深めるだけでなく、健康課題と生活課題の両方の視点から考えられる視野の広い、実践者、教育・研究者への道が広がります。

取得可能な資格・免許状

▪ 看護師国家試験受験資格

▪ 保健師国家試験受験資格

※保健師課程の単位を修得することにより得られる。

▪ 養護教諭一種免許状

※教職課程の単位を修得することにより得られる。

国家試験合格率

※大学等の新卒者の合格率

▪ 看護師 **100%**　全国平均 95.9%

▪ 保健師 **100%**　全国平均 96.4%

厚生労働省から発表された令和6年度国家試験の学校別合格率において、本学は全国平均を上回る高い合格率を示しています。

社会福祉学科

Department of Social Welfare Science

学科紹介ページは
こちら

生きづらさを抱える人を支援し
多様な人々が豊かに暮らせる社会を創造

ソーシャルワーカーとは、自分自身と社会資源を活用して、発達、疾病、障害、育児、介護、高齢、貧困、虐待、暴力などで生きづらさを抱えている人を支援する専門職です。本学科では、講義・演習・実習を組み合わせて、クライアントとのつながりや地域との関わりを学び、クライアントに共感できる豊かな感受性を育みます。多様な人々がつながり合って暮らせる社会を創造するための実践力を持つ人材を育成しています。

POINT 学科の特長

01 看護学科との連携で医療・保健の知識も修得

健康の概念や病気・障害の特性を知ることは、社会福祉士や精神保健福祉士が相談や支援を行ううえで極めて有用です。看護学科との共通関連科目により、実践で役立つそれらの知識を幅広く得ることができます。

02 少人数教育できめ細かに学修指導

1年生から学科独自のゼミを開講し、指導は徹底した少人数方式で行います。多彩な専門分野の教員が、学生の個性を尊重しながら、福祉現場での実習から卒業研究、資格取得にいたるまで、きめ細かに学修指導を行います。

03 国家試験受験資格と教員免許状の取得

本学科では、国家資格である社会福祉士と精神保健福祉士の国家試験受験資格を取得することが可能です。さらに教職課程を選択すれば、高等学校教諭一種免許状(福祉)を取得することができます。

04 地域活動を行う当事者や実践者と共に学ぶ

実習以外にも、県内の社会福祉法人等と連携して行うフィールドワークやゲストによる講義など、地域生活やその諸課題、専門職の支援の実際を学ぶ授業が豊富です。

CURRICULUM

4年間の学びの流れ

※2025年度カリキュラム

	1年次	2年次	3年次	4年次
	社会福祉の基本と共通科目を学ぶ 多様な一般教育科目と共に、共通関連科目で医療・保健・福祉の接点を学びます。また、社会福祉学概論などの専門科目を通じて、ソーシャルワーカーへの学修の歩みを始めます。	**専門科目の学びが本格的に** 社会福祉について幅広く学んでいきます。さらに社会福祉基礎演習(ゼミ)では、情報収集やプレゼンテーションの方法などの基本的な技術も学びます。	**援助技術を身に付け現場実習を行う** 演習と実習指導を通じて、ソーシャルワーカーとして必要な価値、知識、技術などを修得します。後期には県内の社会福祉関係機関や施設で2か月弱のソーシャルワーク実習(選択)を行います。	**卒業研究に取り組みソーシャルワーカーとしての知識を総合する** 前期には、精神保健ソーシャルワーク実習(選択)を行います。また4年間の学修のまとめとして卒業研究を提出します。さらに、学科内のサポートのもとで、2つ(社会福祉士・精神保健福祉士)の国家試験の受験に備えます。
共通関連科目	病気・人間・社会 居住福祉論 福祉のまちづくり論	社会政策、医療福祉工学 社会調査の基礎		
専門科目	社会福祉学概論 社会理論と社会システム 法学概論、現代人権論 医学概論 ソーシャルワーク論／演習	アンケート調査の設計と分析 社会保障論、児童家庭福祉論 高齢者福祉論、障害者福祉論 社会福祉発達史、地域福祉論 国際福祉論 スクールソーシャルワーク論 ケア概論、所得とニーズの保障 社会問題論 発達心理学、心理学概論 精神医学、精神保健 精神保健福祉の原理 ソーシャルワーク論／演習／実習指導	公的扶助論、保健医療と福祉 更生保護論 社会福祉管理運営論 ソーシャルワーク特別講義 権利擁護を支える法制度 精神障害リハビリテーション論 精神保健福祉制度論 ソーシャルワーク論／演習／実習／実習指導 精神保健ソーシャルワーク論／演習／実習指導	共生社会論 社会的起業論 ソーシャルワーク特別講義 精神保健ソーシャルワーク演習／実習指導／実習
総合部門	現代福祉問題論、入門演習	社会福祉基礎演習、外書講読	社会福祉演習	卒業研究

PICK UP

授業の紹介

「スクールソーシャルワーカー」を主体とする「チーム学校」への取り組みについて

スクールソーシャルワーク論　　吉弘 淳一 教授

この授業は、小・中学校の現状を踏まえたうえで、スクールソーシャルワーカー(SSW)の生徒、保護者、教職員等へのより良い関わりを考察します。現役のSSWも講師となり、SSWを主体とする「チーム学校」として、どのような機能が必要かを一緒に考えていきます。特に、学校で起こる課題を事例研究とし、ロールプレイをしながら意見を出し合い、どのような支援が必要かを検証します。また、SCの専門職者との有機的連携において、それぞれの専門性を活かす「チーム学校」を目指します。

実践的な理解を目指して

精神保健ソーシャルワーク演習　　牛塲 裕治 助教

ソーシャルワーカーである精神保健福祉士の専門性の基礎となる「社会的復権と権利擁護」「当事者主体」など諸原理の実践的な理解が目標です。ソーシャルワークの思考と援助の過程における行為をロールプレイやグループワークなど、学生同士の学びあいを通して理解を深めます。座学で知る技術や理論などの専門性を、演習で習得し、実践に触れる実習の場で体得につなげる。講義と実習、そしてその先にある実践へと学びつなぐ講義を展開していきます。

在学生

社会福祉を学ぶことは、人生を見つめ考えること

看護福祉学部 社会福祉学科
山田 瑞貴さん
岐阜県出身

悩みに寄り添う仕事に就きたいと思い、社会福祉士の資格合格率が高い県大へ。「地域福祉」について関心が高まり、地域のつながりが希薄になるなかで、どう地域づくりを進め、地域共生社会を実現すべきかを深く考えるように。地域で支え合えるよう、住民の方々に働きかけるのも、社会福祉士の重要な仕事の一つだとわかりました。

ゼミでは認知症を学び、フィールドワークや施設見学もあります。社会福祉を学ぶことは人生を考え、人生に変化をもたらしてくれることでもあると思うようになりました。

また、多彩な講義科目が揃う一般教育も気に入っています。語学や歴史、スポーツ、植物など面白い科目があって、視野や思考力が広がっていくのを実感しています。

/ SNAP SHOT /

卒業生

子どもたちの成長を見守り支援する仕事にやりがい

社会福祉法人足羽福祉会 足羽学園 勤務
松﨑 優さん
看護福祉学部 社会福祉学科 2021年度卒業　福井県出身

入学前は「福祉＝介護」というイメージでしたが、県大の授業や現場実習を通して、子どもからお年寄りまで、障がいや医療など福祉にある多様なニーズを学びました。4年次の精神保健福祉士の実習で、障がい福祉の仕事に就きたいと思うように。現在は、障害のある子どもたちの成長・自立をサポートし、安心して生活できるようご家族や職員と一緒に考え支援中。子どもたちの成長に驚きつつ、できることが増えることに喜びを感じる日々です。そして、彼らの卒業後の進路では、在学中に学んだ「人とサービスをつなぐ」ソーシャルワーカーの役割を果たせるよう努めています。

県大では仲間や先生方と一緒に、幅広い社会福祉の世界に触れてみてください。

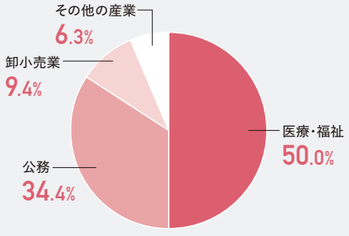
/ SNAP SHOT /

CAREER
卒業後の進路

就職率（2024年度卒業生）

100%

就職 94.1%　その他 5.9%



キャリア展望

- 生活相談員・生活支援員
- 高齢者施設職員
- 障害者支援施設職員
- 児童指導員（児童福祉施設）
- 福祉活動専門員（社会福祉協議会）
- ケースワーカー（福祉事務所）
- 児童福祉司（児童相談所）
- 医療ソーシャルワーカー
- スクールソーシャルワーカー　など

卒業生の主な就職先（過去5年間）

［福井県内］
光道園、足羽福祉会、かすみが丘学園、福井村田製作所、福井赤十字病院、福井県済生会病院、福井厚生病院、福井県社会福祉協議会、永平寺町社会福祉協議会、福井県庁、福井市役所、福井銀行　など

［福井県外］
各種社会福祉法人、日本年金機構、石川県庁、東京都庁、横浜市役所　など

取得可能な資格・免許状

- 社会福祉士国家試験受験資格
  ※指定科目を修了することにより得られる。
- 精神保健福祉士国家試験受験資格
  ※指定科目を修了することにより得られる。
- 高等学校教諭一種免許状（福祉）
  ※教職課程の単位を修得することにより得られる

国家試験合格率

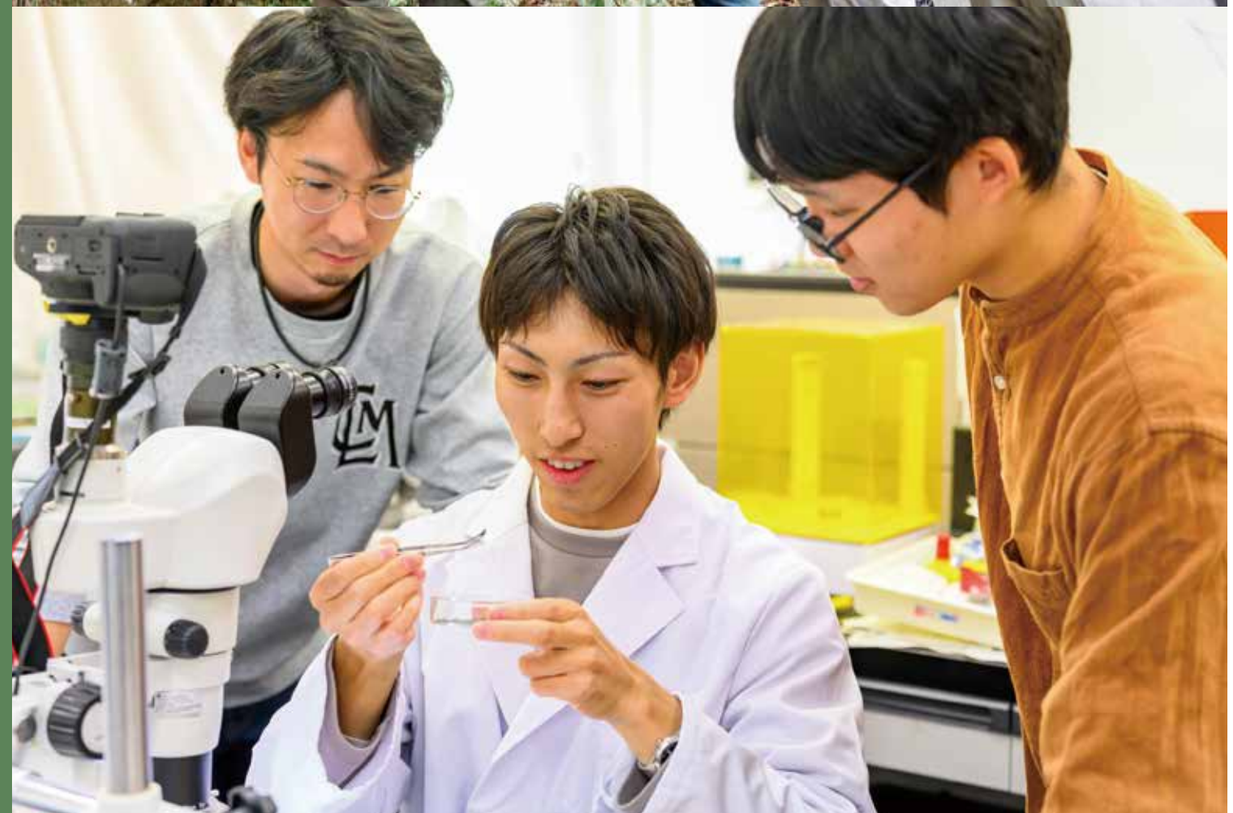
※大学等の新卒者の合格率

- 社会福祉士　100%　全国平均 75.2%
- 精神保健福祉士　100%　全国平均 85.3%

厚生労働省から発表された令和6年度国家試験の学校別合格率において、本学は全国平均を上回る高い合格率を示しています。

恐竜学部　恐竜・地質学科

Faculty of Dinosaur Paleontology



恐竜を含む古生物学や地質学を通して
現代社会の諸課題を解決する人材を育成

恐竜学部では、福井県の豊かな自然を活かし、県を代表する恐竜や、地質・古環境学などについて学びます。特に県内外でのフィールドワークや福井県立恐竜博物館との連携、デジタル技術を活用した研究を通じて、現代社会が直面する環境変化などの自然科学諸課題に対して、的確に対応できる知識と技術を培います。さらに、本学部は恐竜学や地質学の学術研究拠点として人材育成と研究の発展に貢献すると共に、我が国のオンリーワンの学部として、福井県をより一層盛り上げます。

POINT
学部の特長

01

福井県立恐竜博物館との連携

勝山キャンパスは恐竜博物館に隣接するため、施設や標本等の相互利用による連携や、研究員・学芸員による講義や助言等の人的資源の共有も行い、博物館と一体化した新しい教育・研究システムを目指します。

02

福井県をまるごと使ったフィールド科学の実践

地球科学では、地層や岩石が記録する情報を現場で読み解き、論理的に考察する必要があるため、フィールドワークを重視します。福井県の地質遺産や県外・海外のフィールドも視野に入れ、思考力や判断力、情報収集スキルを身に付けます。

03

デジタル技術を活用した新分野の展開

最新のデジタル技術を活用し、古生物・地質学をさらに発展させていきます。大型CT撮影装置をはじめとした機器で、多様な形や大きさの化石や地形をデジタル化し、それらのデータを活用した、新しい教育・研究を行います。

学部紹介ページはこちら

恐竜・地質学科

Department of Dinosaur Paleontology and Geology

学科紹介ページは
こちら

2つのコースで
研究スキルを磨く

3年次に2つのコースに分かれます。「恐竜・古生物コース」では、恐竜などの脊椎動物から微古生物まで古生物に関連する分野を、その生態から分布まで広く学びます。「地質・古環境コース」では、地層や堆積物の分析を通して、その形成過程や性質を理解し、古環境を推定する手法を学びます。それぞれのコースで高度な専門知識と技術を身に付けると共に、コミュニケーション能力、思考力、表現力を養います。

POINT コースの特長 恐竜・古生物コース

01 恐竜をはじめとした古生物全般を体系的に学ぶ

恐竜をはじめとした古生物の情報は、最新の研究で日々更新されています。それらを理解するため、1年次は恐竜や生命の進化の基礎を学び、以降はより発展的な内容を学習し、4年間で体系的な知識を身に付け恐竜・古生物への理解を深めます。

02 現生生物をヒントに過去の生物を探求する

恐竜をはじめとした古生物は、現在実際に生きて動く姿を見ることはできません。そのため、まずは現生生物について解剖や観察・解析を通して理解を深め、化石と比較することで、生物の進化や過去の生物の生き様を解き明かしていきます。

POINT コースの特長 地質・古環境コース

01 地球の過去を読み解く知識を身に付ける

化石を含む地層は、長い時間と複雑な過程を経て私たちの目の前に現れます。その地層から「限定された過去の記録」を可能な限り引き出すために、野外で実際に地層を観察し、そこから情報を得る手法を学びます。

02 過去の地球環境を復元する

恐竜時代の地球はどのような環境だったのか。地層に含まれる微細な化石や、鉱物を最先端の分析機器を用いて分析することで、地質時代に正確なタイムスケールを入れ、過去の地球を高い解像度で復元します。

PICK UP
研究の紹介

地質時代の地球環境と生態系の変遷を地層や化石から読みとる

安藤 寿男 教授

恐竜のいた中生代以降の地層から、堆積環境や堆積様式、地域の地質の成り立ちや地史を推定し、化石（主に二枚貝、特にカキ類）の分類や生態、生態系を復元する研究をしています。これからは福井県内の白亜紀層や新生代の地層の研究にも挑戦します。

【コケにできないコケ】しゃがみこんでみえる世界もある

大石 善隆 教授

小さくて目立たず、コケにされがちなコケ。しかしコケは自然界では重要な存在で、コケがなければ地球の環境は今とは全く違ったものになっていました。このコケに注目し、ひたむきで健気なコケの生存戦略やコケが生態系で担う役割を研究しています。

「海の昆虫」ともいわれる貝形虫を用いて、生物進化の姿に迫る

神谷 隆宏 教授

「いつ」「どこで」「どうやって」新種が誕生してきたのか、意外とわかっていないこの難題を解決するためには現生種と化石種の詳しい情報が必要です。石灰質の殻を持つミジンコ・貝形虫の研究から、過去の日本海で生じた進化の実態が解明されました。

恐竜の内部構造を紐解くデジタル技術を用いた研究

河部 壮一郎 教授

CTスキャンをはじめとしたさまざまな3Dデジタル技術を駆使し、恐竜の脳などの骨格内部構造を解析しています。化石から新たな情報を引き出していくことで、恐竜の生態や進化の新たな側面を明らかにしていくことができます。

福井の恐竜が明らかにする前期白亜紀アジアの恐竜進化

柴田 正輝 教授

前期白亜紀にアジアで繁栄した植物食恐竜イグアノドン類を中心に研究しています。アジア各地の同グループと比較し、福井の恐竜たちがどのような進化的・古生物地理学的位置にいたのかを明らかにするため、標本調査や発掘を行っています。

地層から産出する微化石群集を通して過去の地球環境を知る

高田 裕行 教授

微化石である底生有孔虫をもとに、過去の地球環境を研究しています。数百万年前の深海生種も扱いますが、最近は韓国南東部や若狭湾沿岸で過去1万年間の化石と気候変動を対象としています。恐竜が生息していた白亜紀も、今後研究したく思います。

現生の生物の生態や進化過程から化石生物の生き様を探る

土屋 正史 教授

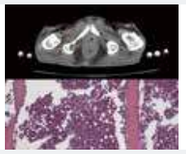
有孔虫を中心とした単細胞真核微生物（原生生物）の生態や進化について、特に微生物との共生による適応や海陸分布の変遷に伴う種分化過程を、いま生きている生物の培養、分子系統解析、安定同位体解析などを通じて明らかにする研究を行っています。

恐竜時代の環境を復元する

西 弘嗣 教授

有孔虫とよばれる海洋プランクトンの化石を用いて、過去1億5千万年間の地層や海洋底の年代を決めたり、環境を復元する研究を行っています。今は、恐竜がいた白亜紀の時代を中心に環境復元を行い、温暖な白亜紀の気候変動に関して研究しています。

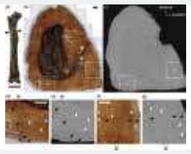
デジタルイメージングを介した病理学と恐竜学との異分野融合



法木 左近 教授

私の専門の人体病理学において、CTを解剖前に実施する死亡時画像診断（オートプシーイメージング：Ai）により、精度の高い死因究明ができることを研究してきました。これらの知見や経験を恐竜学と融合していきたいと思います。

高輝度X線マイクロCT解析を活用した恐竜化石微細構造の可視化



今井 拓哉 准教授

私たちは、高輝度X線マイクロCT解析を使って、国内外で発見される恐竜などの骨化石内部に残された、ミクロスケールの微細構造を可視化しています。この研究により、成長速度や骨への栄養供給など、絶滅した恐竜の生態に詳しく迫ることができます。

分子の目で地層の記憶を覗き込む ～有機地球化学・分子地球生物学～

中村 英人 准教授

地層や化石中に残された生物由来の有機物の解析により、古環境とその変遷過程の復元を目指しています。陸上生態系の根幹をなす植生から、それを支える気候条件、生物間の相互作用まで、化石に残りにくい生物の痕跡も捉えるアプローチで迫ります。

化石の分類と現生種との比較から獣脚類の進化史を探る

服部 創紀 准教授

恐竜類のなかでも主に獣脚類を研究対象とし、最近では福井やタイで発見された化石の分類を中心に研究を進めています。また、恐竜類を含む主竜類の後肢の形態や機能が、鳥類への進化の過程でどのように変わっていったのかについても研究しています。

化石記録とフィールドワークから解き明かす昆虫進化史

大山 望 助教

中生代や古生代の昆虫相の多様性や植物との相互作用を対象に、フィールドワークを通じて地球環境の変動と昆虫進化の関係を探究しています。また、デジタルデータを活用し、化石の形態観察や古生態検討に新たな視点を加える研究も進めています。

デジタル技術を駆使しミクロな化石から過去を解明する

木下 峻一 助教

マイクロX線CTを用いて、有孔虫などの石灰化生物が、水温やpHなどの環境条件の変化に対して、どのように応答するのかを、フィールド調査や飼育実験を行って調査することで、現在の環境の計測から過去、未来の環境の復元や予測を目指しています。

※令和8年度にも6名が着任予定であり、合計20名の教員で教育研究を行っていきます。

CURRICULUM

4年間の学びの流れ

※2025年度カリキュラム

			1年次	2年次	3年次	4年次
			多様な教養科目と地球科学の基礎を学ぶ 文理横断的に幅広い知識を身に付け、物事を多面的に考え行動できる能力を身に付けます。	専門基礎知識と調査研究手法を修得する 恐竜をはじめとした古生物学や地質学・古環境学に関する専門基礎科目を中心に学び、専門知識と調査研究手法を修得します。	より高度な専門知識と技術を身に付ける 「恐竜・古生物コース」「地質・古環境コース」の2つのコースに分かれ、少人数で専門応用科目を学びます。また、実験や実習、フィールドワークを通して、課題解決能力や表現力、思考力、コミュニケーション能力を修得します。	卒業研究を行い研究結果を執筆・発表する これまでに修得した専門知識・技術を基に、担当教員の個別指導を通して、研究計画を実践し、成果を執筆発表する能力を身に付けます。
一般選択科目			脊椎動物の進化、地球史入門 地球環境学概論、恐竜学			
専門科目	必修	講　義	生物学序論 地学概論 古生物学概論 地層学 海洋生物学	植物生態学、地球年代学 科学英語、進化生物学 地球化学序論 古生物学Ⅰ(脊椎動物) 日本列島形成史 デジタル古生物学概論 地球環境変動学、地球化学 海洋底地球科学		
		演　習		地質図学演習	地球科学フィールド研究	卒業演習Ⅰ・Ⅱ、卒業研究
		実験・実習	地球科学フィールド実習Ⅰ	地質調査法実習Ⅰ 地球科学フィールド実習Ⅱ 古生物学実習Ⅰ 地球科学基礎実験、古生物学実験 デジタル古生物学研究法実習		
	選択必修	講　義		岩石・鉱物学 地球物理学 恐竜学特論 ジオパーク学	古生物地理学 古生物データサイエンス学 古生物多様性学 古生物学Ⅱ(微古生物) 古生物学Ⅱ(無脊椎動物) 災害・防災学Ⅰ コンピュータグラフィック概論 古植物学、応用地質学 GIS・リモートセンシング学	災害・防災学Ⅱ
		演　習			古生物学課題演習 地質学課題演習	
		実験・実習			古生物学実習Ⅱ、地質調査法実習Ⅱ 地球化学実験、海洋地球科学実習 恐竜発掘実習	
	学芸員課程科目	講　義		博物館概論、博物館経営論 博物館教育論、博物館展示論 博物館情報・メディア論	博物館資料論 博物館資料保存論 生涯学習論	
		実験・実習				博物館実習

想定される進路

卒業後は、古生物学や地質学を中心とした地球科学の専門知識を活かして、以下のような幅広い業務に従事することが想定されます。

- 博物館学芸員、研究者、教員(理科)
- 公務員(土木)
- 地質・土木・建設産業
- ジオパークなど自然科学関連の観光業
- IT関連産業
  (測量に関する地質系のデジタル技術産業など)
- 大学院進学

取得可能な資格

所定の単位修得(選択制)により、下記の免許・資格が取得できます。

- 高等学校教諭一種免許状(理科)
- 測量士補
- 学芸員

KENDAIJIN INTERVIEW

一期生の皆さんに抱負を聞きました！

日本でオンリーワンの学部、恐竜学部の第一期生として全国から県大に集まった34名。これから4年間、さまざまな研究で太古の謎をひも解いていきます。

何もかもが手探りの一期生だからこそ、寄り道をためらわずにいろいろなことに挑戦していきたい！

古環境や古生物の研究で、破壊の進む現代の地球環境へとアプローチし、異常気象に起因することも多い災害への防災意識を育てられる人材になりたい

恐竜学部だからこそできるクリーニングやレプリカ製作の技術を学びたい

恐竜に関する知識や技術に加え、多くの人に伝える発信力も学びたい

恐竜愛で負けるつもりはありません!!

フィールドワークを通して実践的な研究スキルを身に付けたい！

福井県の手取層群や水月湖の年縞、東尋坊といった地質資源についての理解を深めたい

教員インタビュー

柴田 正輝教授

過去を掘り、未来を拓く
恐竜学の最前線へ

フクイサウルスなど草食恐竜を中心に研究をしています。恐竜の研究は、発掘や調査で新しい証拠を積み重ね、新しい仮説を立てていく探偵のような地道な研究です。いろいろな角度から物事を見て、気付き、考えることで恐竜に対する理解が進み、太古の世界を覗くことができるようになります。これが生物研究の魅力で、1億年以上前の未知なる世界が見えてくるのです。

化石の研究は、地球科学や自然科学に広くつながっています。だから、身近な自然に興味や疑問を持ち、広くアンテナを張ってみましょう。そこから新たな学びが始まるし、県大では発掘の楽しさや奥深さも伝えていきます。

2026年開設の「勝山キャンパス」はこんなところ！

恐竜学部生が2年次から学びの拠点とする勝山キャンパスは、福井県立恐竜博物館に隣接しており、博物館との連携体制を整えやすい立地となっています。また、勝山キャンパスには、クリーニング室や地学標本製作室、解剖室など恐竜学部での学習・研究に必要な施設を備えています。

一般教育
General Education

幅広い知識と判断力を育む講義科目

大学での授業は、各学部・学科の専門知識を学ぶ専門科目と、広い視野を獲得するための科目が用意されている一般教育科目に分かれています。
一般教育科目の単位は主に1年次に取り、多様な視点から物事を見ることができる、広い教養を持った専門家の育成を目指します。

CURRICULUM
カリキュラム

※2025年度カリキュラム。科目は変更となる場合があります。

必修科目	英語	英語A、英語B、英語C、英語D
	情報	ICTリテラシー、データサイエンス基礎、情報科学
選択科目	キャリア	キャリア形成論
	英語	英語発展ⅠA～ⅥA、英語発展ⅠB～ⅥB
	情報	データサイエンス応用、プログラミング基礎・応用、情報処理演習、メディア情報リテラシー、情報技術者（国家試験）ほか
	人文科学	哲学、倫理学、宗教学、歴史学、東洋思想、西洋思想、東洋史、西洋史、現代家族論、社会学 ほか
	社会科学	政治学、経済学、経営学、法学、日本国憲法、国際社会と法、現代人権論
	健康科学	体育実技、スポーツ科学、運動処方論
	自然科学	統計学基礎、解析学、代数学、物理学、バイオサイエンス基礎、脊椎動物の進化、地球史入門 ほか
	地域	恐竜学、福井を学ぶ ほか
	第2外国語	中国語、韓国朝鮮語 ほか
	導入教育	導入ゼミナール、教養ゼミナール

語学教育

国際センター紹介はこちら

確かな語学力と国際的な視点をたずさえ、多文化共生時代を生きる

外国語を学べば、それだけ多くの人や情報とのつながりが生まれます。異なる文化を深く知り、異なる世界観にも触れられます。英語はもちろん、中国語、韓国朝鮮語、ドイツ語、フランス語、ロシア語も自由に学べる環境で、実践力と国際感覚を高めましょう。

CURRICULUM
4年間の学びの流れ

	使える英語を身に付ける	1年次	2年次	3年次	4年次
必修	あらゆる分野に応用できる基礎力	英語A～D 聞く・話す・読む・書く＋語彙・文法の基礎固め			
選択	グローバル時代に必要な実践力	英語発展Ⅰ～Ⅵ 興味関心・目的に合わせた発展学習			
留学	多文化共生に向けた異文化理解力		海外研修プログラム 目的・レベル別の語学研修		

語学教育プログラム

国際センター 渡邉 綾 准教授

多種多様なクラスで必要な英語力を養う

英語科目では、必修科目の他にも各々の関心や目的に応じて自由に選択できる多様な英語の授業を展開しています。例えば、テレビや新聞等のメディアを通して時事英語を学ぶクラス、TOEIC等の英語資格試験に対応するクラス、文学作品を題材として読解力を高めるクラス、英語スピーチやプレゼンテーション能力を高めるクラスなどです。自分の考えや意見を、より効果的に英語で伝達するための方法を、実践を通して学んでいきます。英語でコミュニケーションをとることで世界へ発信する練習を積んでいきませんか。

国際センター Jared Denman 准教授

Becoming an Engaged, Reflective, and Competent Communicator

Elective English classes are for students who wish to further develop their language skills with similarly motivated peers, including international students. Some of these classes focus on developing students' awareness and understanding of the issues and concepts of intercultural communication through the target language. Students are encouraged to speak up during discussions about diversity and stereotypes, to reflect on their cultural identities, and to develop more nuanced understandings of the people and places in our world.

情報教育

情報センター
紹介はこちら

数理・データサイエンス・AI教育、DXの推進、ICT利用支援

AIの利活用やデータ分析、プログラミング等、専門教育の基盤となる知識や技能を学ぶ「全学数理・データサイエンス・AI教育プログラム」を提供しています。本学のプログラムは、応用基礎レベルも含めて、どの学部の学生でも履修できます。

（令和10年3月31日まで）

全学数理・データサイエンス・AI教育プログラムでは、基礎的素養を養う「リテラシーレベル」と現実の課題を解決する為の実践的な能力を育成する「応用基礎レベル」を実施しており、どちらも文部科学省の「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度」に認定されています。

（令和11年3月31日まで）

数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）

データサイエンス基礎　情報センター　徳野 淳子 教授、田中 武之 准教授、谷川 衝 准教授

データリテラシーの修得

多様な専門分野に応用できるデータリテラシー（データを読み解き、適切に活用する能力）の修得を目標とした授業です。データを扱うために必要なExcel等の基本操作、データを読み解き、説明できるように、可視化手法や記述統計学の基礎を演習形式で学習します。また、産業界からゲストスピーカーをお招きし、身に付けた知識や技能が社会でどのように活かせるかを考えます。

数理・データサイエンス・AI教育プログラム（応用基礎レベル）

プログラミング応用　情報センター　村田 知也 准教授

最新のAIを活用したアプリ開発の実践

常に最新のAI技術を取り入れたプログラミング演習を行っています。探求型の実践的な演習として、株価予測アプリの開発や企業の実データを用いた売上予測アプリの開発、脳の画像データから病気の有無を分類するアプリの開発など、多彩なプロジェクトに取り組んでいます。これにより、高度なプログラミングスキルとAI技術の応用力を身に付けることを目指しています。

取得可能な資格

情報処理推進機構が実施する「ITパスポート」や「情報セキュリティマネジメント試験」、日本ディープラーニング協会が実施する「G検定」などの資格取得を支援する授業があります。

ICTを用いた学習環境

自分のパソコンを持参して個人やグループで学ぶことができるアクティブラーニング室やプログラミング等の演習で使用する情報演習室があります。

学生のための情報関連の相談窓口

「情報センター」では、学内Wi-Fiへの接続やパソコン利用等に関するさまざまな相談に応じています。

一般教育

共通教育
情報はこちら

世界の中での自分の位置を知る

本学が教養教育を通して目指すのは、多様な知識を有し、確固とした視点に基づく的確な判断を下し、行動することができる人間の育成です。各学部の専門教育と連携しながら、総合的な視野を育てる教育を提供します。

一般教育科目例

哲　学　共通教育センター　渡邉 浩一 准教授

哲学者たちのテクストを手がかりに自身の世界観・人生観を探る

哲学の授業の目的は、参加者が自ら哲学することにあります。しかし「哲学する」とはどういうことか――これもまた哲学の対象となりうる事柄ですが、ひっくるめて世界と人間のあり方に関わるさまざまな問いについて、古今の哲学者たちのテクスト――例えばプラトンの『パイドン』やデカルトの『方法序説』――に即しつつ自分なりに考え、そして彼らのスタイルに学びつつ自分なりに表現してみましょう。そのとき哲学の教室はあなたにとって数ある講義の一つというだけでなく、自己表現を通じた自己認識の場ともなることでしょう。

教養ゼミ（パロディを読む）　共通教育センター　木村 小夜 教授

原典とパロディ作品の比較を通して小説をとことん楽しむ

森見登美彦『新釈 走れメロス 他四篇』は、中島敦「山月記」をはじめとして芥川・太宰・坂口安吾・森鴎外といった、日本近代文学史上よく知られた作家たちの短篇を下敷きにしたパロディの連作作品集。主人公たちは、現代の京都で右往左往する大学生に置き換えられています。物語自体を楽しみながら、元の作品のどこがいかに書き換えられ、そこにどんな意味があるのか、パロディという方法にどんな意義を見出せるのか、詳細に比較しながら皆であれこれ探っていきます。

東洋思想　共通教育センター　亀田 勝見 教授

中国を学んで日本を知る古を知って今を考える

漢字・儒教・仏教など、日本では今もなお古代中国から取り入れた文化が大きな影響力を持っています。この授業では、日本文化を構成する重要な一要素として古代中国の思想を紹介します。例えば「お天道様はお見通し」という考え方は、古代中国から続く「天」観念と密接に関連します。人の本質の分析（性善説・性悪説）や、「よき生き方」の話なども、この思想抜きには語れません。これからの社会を考える際、自らに根付く自然観や倫理観を把握しておくことも大切です。自分をより深く知るために、中国の思想を学ぶことをおすすめします。

大学院
Graduate School

「知の活用」を学び、豊かに現代社会を生き抜く人材を育てる

日々複雑化・高度化する社会の課題を解決し、持続可能な社会を実現する鍵は、「知の活用」にあります。本学大学院には、特色のある４研究科８専攻が設置され、「知の活用」を学ぶ上で最適な学修環境を提供し、専門的知識・能力の活用を図る人材の育成と高度な学術研究を推進しています。

充実した支援制度

長期履修制度
博士前期課程／修士課程／博士後期課程
職業を有している等の事情により、２年（後期課程は３年）では履修が困難な場合、２年（同３年）分の授業料で３年または４年（同４年、５年または６年）かけて履修することができます。

リサーチ・アシスタント
博士後期課程
教員が行う研究プロジェクト等において、研究補助業務を行う院生に対して報償費を支給します。

教育訓練給付制度
経済・経営学研究科（博士前期課程）
看護福祉学研究科／健康生活科学研究科
一定の条件（雇用保険上）を満たし修了した院生に対し、授業料等の2割（上限10万円）に相当する額をハローワークから支給する教育訓練給付制度の講座に指定されています。

フィールドワーク研修旅費助成
博士前期課程／修士課程
授業の一環として、実地調査、情報収集等の研究活動を行う場合において、その研修に要する旅費を助成します。

ティーチング・アシスタント
博士前期課程／修士課程
学部の講義や演習等において、教育補助業務を行う院生に対して報償費を支給します。

学会参加旅費助成
博士後期課程
研究領域の最新情報の把握と自らの研究成果発表を行う場合において、その学会参加に要する旅費を助成します。

経済・経営学研究科 Graduate School of Economics and Business Administration

経済・経営学研究科では、学部からの進学者だけではなく、海外からの留学生、現役の社会人、退職後に改めて深い学びを希望する方など、多様な院生が互いに刺激し合いながら研究に励んでいます。大学院での研究には、教員からの知識を受け取るだけでなく、主体的に自らの研究課題を設定し、先行研究を調べ、新たな知見を得ようとする姿勢が求められます。学術論文として研究の成果を発表するまでの道のりは決して楽なものではありませんが、本研究科には研究活動をしっかりとサポートすることのできる教員が揃っています。また、教員との距離が近いという本研究科ならではの特長もあります。

地域・国際経済政策専攻　博士前期課程 ２年
- 経済学に基礎を置き、地域公共政策、国際経済の研究を行います。
- 修士論文を書いて、修士（経済学）の学位を取得できます。

経営学専攻（ビジネススクール）　博士前期課程 ２年
- 経営学・会計学に基礎を置き、企業経営・管理の研究を行います。
- 修士論文またはプロジェクト研究に取り組み、修士（経営学）の学位を取得できます。

経済研究専攻　博士後期課程 ３年
- 理論と政策を一体化させた高度な学術研究を行います。
- 博士論文を書いて、博士（経済学）の学位を取得できます。

看護福祉学研究科 Graduate School of Nursing and Social Welfare Sciences

看護福祉学研究科は、看護学専攻と社会福祉学専攻からなり、医療・看護学から社会福祉学までの幅広い領域を対象として扱います。両専攻が共に学べる共通科目を置くと共に、それぞれの専門科目を学修できるボーダーレスなカリキュラムを組んでいます。研究において必要な高度な専門知識、方法論、論理的思考や生命倫理を指導します。また、通信情報技術（ICT）の積極的活用による遠隔での授業・研究指導にも対応します。Virtual Reality（バーチャルリアリティー）などのDXの利用や他専門分野との融合研究も推進します。将来の高度専門職・研究者・教育者を担うリーダーとなる人材を育成します。

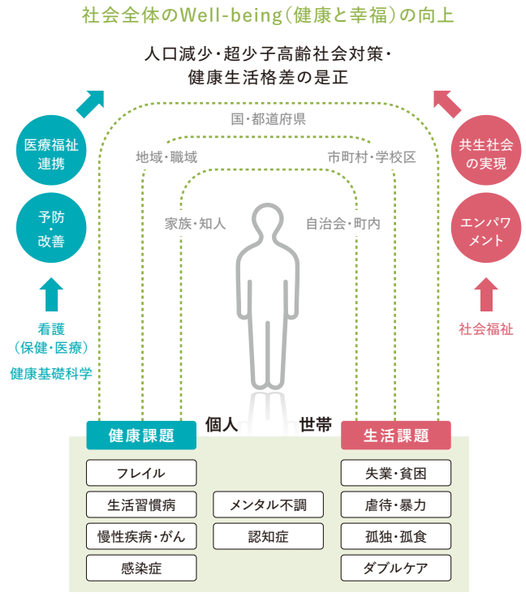
看護学専攻　修士課程 ２年
- 看護学専攻は看護マネジメント学、健康科学・基礎看護学、成人看護学、老年看護学、母性看護学、小児看護学、精神看護学、地域・在宅看護学、公衆衛生看護学の９領域を設けています。
- 看護マネジメント学領域は日本看護協会の認定看護管理者審査要件を満たしています。
- 養護教諭一種免許状を有している人は、「養護教諭専修免許状」を取得できます。
- 修士（看護学）の学位を取得できます。

社会福祉学専攻　修士課程 ２年
- 社会福祉学専攻は、北陸で最初に開設された福祉系大学院です。
- 毎年行われる研究報告ワークショップや中間発表会で研究のブラッシュアップを図ります。
- 修了生は、福祉・保健・医療・教育・司法・労働等の多方面の分野で全国的に活躍しています。
- 修士（社会福祉学）の学位を取得できます。

健康生活科学研究科 Graduate School of Health and Human Life Sciences

健康生活科学研究科は、2023年（令和５年）に開設した福井県内では初の看護系博士後期課程です。本研究科では、保健・医療を担う看護学と福祉を担う社会福祉学が融合し、健康から生活までの課題に対して領域横断的に研究する「健康生活科学」という新学問領域を立ち上げ、「Well-being（健康と幸福）に向けた共生社会」を目指す研究の推進と研究者の育成を目的とします。

健康生活科学専攻　博士後期課程 ３年
- 健康から生活までの多様な課題を包括的に探究できる自律的・国際的な研究者、基盤となる専門的知識・技術と高い見識を兼ね備え、地域にも貢献できる大学教員や行政担当者を養成します。
- 博士（健康生活科学）の学位を取得できます。



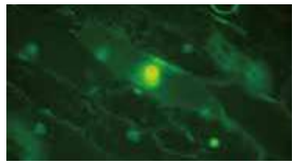
生物資源学研究科 Graduate School of Bioscience and Biotechnology

生物資源学専攻　博士前期課程 2年・博士後期課程 3年

豊かな自然に囲まれた地域特性を活かし、微生物、動物、植物を含む多様な生物資源を作出・開発します。また、これらの生物資源を素材として遺伝子、酵素・タンパク質、代謝産物などの生物機能を分子レベルで解明し、これらの成果に基づく応用開発を行います。加えて、有用微生物や食品の機能性の探求だけでなく、環境との調和を考える上で重要な植物資源の保護や生態学的研究、地域農政、古生物学なども研究しています。

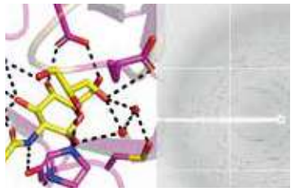
分子生物学

生化学、分子生物学、分子細胞生物学の手法を用いて、植物細胞の諸機能を支える遺伝子やタンパク質の働きを解明することを目指しています。具体的には、植物が保持するシグナル情報伝達系、病害抵抗性、形態形成、特化代謝産物生産、プログラム細胞死の仕組みを解明しています。更に、これらの成果を応用して新規植物資源の開発を試み、食糧分野や環境分野への貢献を目指しています。



応用生化学

生体機能の解明とその工学的応用に関する基礎研究として、タンパク質・酵素の立体構造解析および機能発現メカニズムの理解、タンパク質工学を利用した機能改変、新規分子素子の設計および高感度分析法の開発、バイオセンサーやバイオ電池の開発、生物電気化学的手法を用いた生体膜モデル系の基礎研究とその応用に関する研究などを行っています。



植物資源学

栽培植物およびそれに近縁の野生植物について、現地調査、採集材料・実験系統の遺伝分析を行うと共に、有用形質の発現機構を分子生物学的に解析し、その育種的利用を図っています。植物と環境の相互作用のメカニズムを生理学的、生態学的に究明し、気候変動に適応した植物の作出やカーボンニュートラル・環境保全に配慮した植生管理法の開発をしています。

創造農学

農作物の品種改良・生産・利用に関する研究、生物資源や微生物の利用に関する研究、地域農政に関する研究を行っています。これらの研究の成果を統合し、「農の新時代」の実現を目指します。

分子機能科学

有用微生物の探索、微生物機能に関する基礎および応用研究を行い、微生物および酵素を応用した産業的有用物質の生産とその機能の開発を目指しています。各種食品成分が示す多彩な生理機能を動物個体や組織・細胞レベルで究明し、機能発現機構を解明すると共に、微生物酵素などを利用した機能性食品の創製を目指した基礎研究を行っています。

古生物学

古代の生命の記録である化石を用いて、生命進化や古環境を解明することを目指しています。特に恐竜を中心とした脊椎動物化石について、国内外の野外調査を重視しながら、CT を使った頭骨の内部構造の解析や現生脊椎動物との比較研究、恐竜時代の脊椎動物の分類学的・生態学的研究を行っています。

カリキュラム　博士前期課程

［基礎科目］

分子生物学	植物分子生物学／応用分子細胞生物学／分子生物学専攻演習／分子生物学専攻実験
植物資源学	遺伝資源学／生物生産環境学／植物資源学専攻演習／植物資源学専攻実験
分子機能科学	微生物機能学／食品機能化学／分子機能科学専攻演習／分子機能科学専攻実験
応用生化学	構造生物学／生体機能分子工学／応用生化学専攻演習／応用生化学専攻実験
創造農学	実践育種学／実践園芸学／創造農学専攻演習／創造農学専攻実験
古生物学	生物進化学／地球環境史学／古生物学専攻演習／古生物学専攻実験

［専門科目］　天然分子機能学／生体物理化学／地域生態学／植物発生遺伝学特論／植物感染生理学／薬物作用学
植生管理学特論／英語発表技法／バイオインフォマティクス特論／農産物機能利用学特論

［研究科共通の授業科目］　分子進化学特論／生命機能有機化学特論／光合成特論／生殖生物学特論／動物遺伝子工学特論／細胞培養工学特論／食料・農業政策特論

博士後期課程

［専門科目］

分子生物学	分子生物学特別研究
植物資源学	植物資源学特別研究
分子機能科学	分子機能科学特別研究
応用生化学	応用生化学特別研究
創造農学	創造農学特別研究
古生物学	古生物学特別研究

［選択科目］　博士論文指導S・F

※2025年度カリキュラム
科目は変更となる場合があります。
※演習・実験・研究のIS・IF・IIS・IIFは
省略しています。

海洋生物資源学専攻　博士前期課程 2年・博士後期課程 3年

日本海・若狭湾など大学を取り巻く多様性に満ちた海域をフィールドに海洋生物資源の持続的な利用を目指して多角的な調査研究を実施します。魚介類や藻類など海洋生物の生理・生態に関する基礎的研究と共に、有用資源の増養殖に関する研究、海洋環境やその保全に関する研究を行います。加えて、海洋生物の原料学的特性の解明、新機能性食品開発などの応用・開発研究を行います。

水圏生物生態学

水圏生物の生態、環境応答、環境適応、多様性などの解明を目指し、水圏の一次生産を担う藻類の生物多様性や適応進化、形態形成や生活環の制御機構、独立栄養や繁殖に関する生理生態、魚類を中心とする水圏動物の回遊生態や生物多様性、水圏生態系の生物生産や食物網構造ならびにその応用に関する教育・研究を行っています。

海洋生物資源利用学

海洋生物資源を、食料をはじめ化粧品・医薬品など生命関連素材として高度利用することを目指しています。水産物の安全性、鮮度、機能性に関する研究、魚介類コラーゲンの性状解明・有効活用に関する研究、未利用資源からの生理活性物質の探索とその応用研究など、海洋生物資源を有効利用するための研究を基礎から応用まで幅広く展開しています。

海洋生物培養学

水圏生物の増養殖技術と多様性保全の新たな展開を目指し、海洋生物学、動物生理学、遺伝学、ゲノム科学、生物地球化学、水圏生態学、行動学、水産資源学、水族病理学、水族栄養学などに基づき、基礎的および応用的な教育・研究を行っています。

海洋情報科学・社会科学

次世代の水産養殖技術の創生を目指し、情報技術を駆使して、ゲノム科学に基づいた養殖技術や画像解析による養殖管理手法の開発を進めています。また、持続可能な水産業の確立を目指し、マーケティングやビジネスモデルの構築などをテーマに、情報科学・社会科学の立場からも教育・研究を進めています。

海洋生態環境学

海洋や湖沼などの水圏環境を物理学的、化学的、微生物学的に解明することを目指しています。海洋物理学や水理学を基礎とした海洋の流れや波浪に関する研究、生物地球化学や微生物の生理学や生態学的側面から物質循環過程や水質に関する研究、ならびに水圏環境の物理的・化学的・微生物学的諸過程と生物生産の相互作用に関する研究を行っています。

カリキュラム　博士前期課程

［基礎科目］

水圏生物生態学	藻類学／水圏生態学／水圏生物生態学専攻演習／水圏生物生態学専攻実験
海洋生物培養学	海洋生物培養学／海洋生物育成学／海洋生物培養学専攻演習／海洋生物培養学専攻実験
海洋生態環境学	海洋生態工学／海洋微生物生態学／海洋生態環境学専攻演習／海洋生態環境学専攻実験
海洋生物資源利用学	生物資源利用学／食品機能化学／海洋生物資源利用学専攻演習／海洋生物資源利用学専攻実験
海洋情報科学・社会科学	海洋情報科学・社会科学／海洋情報科学・社会科学専攻演習／海洋社会科学専攻実習／海洋情報科学専攻実験

［専門科目］　専門特別講義Ⅰ～Ⅵ／水圏生物生態学特論Ⅰ・Ⅱ／海洋生物培養学特論Ⅰ・Ⅱ／
海洋生物育成学特論Ⅰ・Ⅱ／海洋生態環境学特論Ⅰ・Ⅱ／海洋生物資源利用学特論Ⅰ・Ⅱ／
海洋情報科学・社会科学特論Ⅰ・Ⅱ／水圏遺伝資源学特論

［研究科共通の授業科目］　分子進化学特論／生命機能有機化学特論／光合成特論／生殖生物学特論／
動物遺伝子工学特論／細胞培養工学特論／食料・農業政策特論

博士後期課程

［専門科目］

水圏生物生態学	水圏生物生態学特別研究
海洋生物培養学	海洋生物培養学特別研究
海洋生態環境学	海洋生態環境学特別研究
海洋生物資源利用学	海洋生物資源利用学特別研究
海洋情報科学・社会科学	海洋情報科学・社会科学特別研究

［選択科目］　博士論文指導S・F

※2025年度カリキュラム
科目は変更となる場合があります。
※演習・実験・研究のIS・IF・IIS・IIFは
省略しています。

研究所等
University Institutes

- 地域経済研究所
- 図書館
- 生物資源開発研究センター
- 海洋生物資源臨海研究センター
- 恐竜学研究所

地域経済研究所 Research Institute for Regional Economics

地元・地方から世界・地球まで 地域経済の発展に貢献する研究機関

地域を取り巻く環境は厳しさを増しています。少子高齢化は人口減少を招き、企業の後継者不在問題は、魅力的な働く場を失わせます。また、医療や介護の現場を中心に、人手不足が深刻な状況に陥るなど、多種多様な問題を地域は抱えています。地域経済研究所では、地域のリアルな実態を客観的に把握し、理論と現場のハイブリットな調査や分析を通じて、地域経済の活性化に向けた研究活動を行っています。また、経済界への情報提供や行政機関への地域課題の解決に向けた協力、県内企業のグローバルビジネス支援など、多種多様な機関と連携・協働しながら、学術系シンクタンクとしての役割を果たしています。

CLOSE UP!

北陸新幹線開業による福井県経済の変化を分析

2024年3月、北陸新幹線の金沢ー敦賀間が開業しました。現在地域経済研究所では「北陸新幹線プロジェクト」を立ち上げ、地域経済や都市構造に関する統計データの分析や地図作業などを行っています。また2024年12月にハピリンホールで地域経済研究フォーラム「高速交通による大交流時代と福井・中部の課題」を開催するなど、研究成果を広く地域の方々と共有できるイベントも開催しています。

地域経済やグローバル経済などの最新情報の発信

地域経済やグローバル経済、地域企業の経営、Well-being（幸福）、DXなど、多様なテーマを設け、対面形式やオンライン形式でのセミナー開催や、地域分析のためのデータベースをWebで公開するなど、コンテンツの充実を図っていきます。

毎月1回、グローバル経済・金融の最新情報をメルマガ発信

米国、欧州、中国、日本とブロック別の経済情勢と世界の通貨や金利、株式市場などのマーケット動向や、米国や中国、EUなど、今、注目しておきたい最新の国際金融や貿易事情などを、毎月1回提供しています。

シンクタンク機能の さらなる充実を推進します

当研究所は、現在構想中の新学部「地域政策学部（仮称）」も含め、「学部や大学院の充実状況」と研究所との関係をより強固にしていくことが重要だと考えています。多様で個性的な研究者の参画を得て、研究所としてのプロジェクトを戦略的に実施し、機関誌やフォーラム等を通じて成果を公表し、地域貢献の強化を図っていきます。
地域経済を掲げた国内で稀有の研究所として、地域に根差した調査研究を進めていくと共に、地域経済の理論や地域比較、地域政策等の研究に積極的に取り組み、日本の地域経済研究と地域政策をリードしていく役割を強化していきます。

図書館 Library

学生と教員が知を深めるための情報シンクタンク

図書館では、図書・学術雑誌等を収集・整備し、学生や教員の学修、教育、研究をサポートすると共に、地域に開かれた図書館として、広く県民に閲覧・貸出サービスを提供しています。図書館は永平寺・小浜キャンパスに設置しています。
約40万冊の蔵書を備え、年間に図書3,000冊、学術雑誌450種、電子ジャーナル4,000種（Springer Link、Business Source Premier等）を購入するほか、東洋経済DCL、SciFinder-n、Web of Science等、各種データベースを整備しています。その他、閲覧室内の一室をアクティブ・ラーニング・スペースとして開放し、グループ学習や授業を支援しています。

生物資源開発研究センター（生物資源学部附属施設） Research Center for Bioresources Development

「農」に関わる多くの人たちと連携・交流

生物資源開発研究センターは、本県に適した農作物の新品種開発や新微生物資材、環境調査、地域農政課題解決策などの研究成果（シーズ）を民間企業や地域農業者、行政などのニーズとマッチングすると共に、成果品の社会実装を担う大学発ベンチャー「県大アグリ」と連携しながら、産官学共同で地域農業振興への貢献を目指しています。
また、創造農学科開設を契機として、「農」に関わる多くの農業経営者や企業団体、行政、大学教員による「ふくい農力アップ！ネットワーク」を設立しました。毎年開催する情報交換会などが契機となり新プロジェクトも始動しています。今後とも地域との連携・交流をさらに進め、地域課題の解決や人材育成に取り組んでいきます。

海洋生物資源臨海研究センター（海洋生物資源学部附属施設） Research Center for Marine Bioresources

先端増養殖科学科との相乗効果

海洋生物資源臨海研究センターは、水産海洋研究に欠かせない魚介類の飼育設備と実験に必要な高度な分析機器を備えた「かつみキャンパス」の施設です。さらに、目の前に広がる小浜湾で増養殖研究や環境調査をするための調査船「セリオラⅡ」を所有しています。
これらは、海洋生物資源学部共通の施設、機器として教員・学生に利用されています。また、先端増養殖科学科の研究講義棟と新しい飼育棟が供用されました。先端増養殖科学科との相乗効果を発揮して、互いの機能を補完し合うことができ、さらなる教育の充実と研究の深化が期待されます。

恐竜学研究所（恐竜学部附属施設） Dinosaur Research Institute

古生物研究における“リアル”と”デジタル”の融合

福井県には日本最大の恐竜化石発掘現場があります。1989年に始まった発掘調査は、2023年まで30年以上にわたり継続され、鳥類を含む7種の新種の恐竜類が発見されました。2023年には福井県立恐竜博物館がリニューアルされ、年間100万人以上が訪れる日本随一の自然史系博物館となっています。

こうした「恐竜王国」福井において、「学生が恐竜を研究できる場」を提供し、恐竜の研究拠点になることを目的とし、2013年に恐竜学研究所が設立されました。本研究所では、恐竜博物館との密接な連携による展示標本や発掘現場を活用した、いわゆる“リアル（フィジカル）”な研究を中心に据えつつ、最新機器を使用した“デジタル”な研究手法も取り入れ、質の高い研究を展開しています。

さらに、福井県内にとどまらず、国内外での発掘調査や標本調査を通じて、多様な研究機関とのネットワークを構築し、恐竜だけでなく幅広い古生物の研究を進めています。近年では、CTスキャン技術を活用した研究にも力を入れ、最新技術を駆使した研究手法の確立と新たな分野の開拓を進めています。

福井県立恐竜博物館

CLOSE UP!

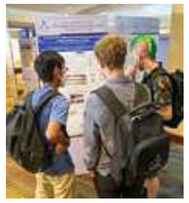
デジタル技術が明らかにする恐竜の生態

発掘調査に加え、CTスキャンを活用した研究にも注力しています。骨化石を破壊せずに内部構造を解析できるため、未知の恐竜の生態を解明する重要な手法となっています。本研究所では、多様な化石をCTスキャンし、恐竜のケガや病気など、当時の生活環境を明らかにしていきます。

ミイラ化したプラキロフォサウルス、通称“レオナルド”の皮膚痕で覆われた左前肢（左）と断層画像から復元した骨化石の様子（右）

海外ネットワーク

現場重視の恐竜研究機関として、福井県立恐竜博物館や中国、タイなどの国内外の博物館・研究機関と連携し、共同研究や交流を積極的に推進しています。海外での学会参加に加え、福井県でも国際シンポジウムを開催し、研究レベルのさらなる向上を目指しています。



多様な分野との交流

本研究所は、開所以来、多様な研究機関と交流を重ね、密接な連携を築いてきました。国内外の大学や博物館、研究機関に加え、産業技術総合研究所発ベンチャーである地球科学可視化技術研究所とバーチャル技術を活用した研究や、地域主導型の実践的なオープンイノベーションを推進しています。

新種の恐竜を発表

2023年９月、福井県で７番目（鳥類を含む）となる新種恐竜を発表しました。この恐竜は、走るのに適した体型を持つ「ダチョウ型恐竜」として知られるオルニトミモサウルス類に属します。従来、ティラノサウルス類に特有と考えられていた特徴がこのグループにも見られることを示す重要な発見であり、「福井の暴君（ティラノ）もどき」を意味するTyrannomimus fukuiensis（ティラノミムス・フクイエンシス）と命名されました。オルニトミモサウルス類としては日本初の新種です。さらにこの発見により、このグループの起源が従来の推定より700万年以上遡る可能性が示され、進化や分布の拡がりを考察する上で貴重な知見が得られました。

ティラノミムスの復元図と発見部位（白）
画：G. Masukawa

地域連携
Regional Cooperation

地域連携
情報はこちら

福井県全域を
教育・研究のフィールドに
地域の持続可能性を支える
大学を目指して

本学では、地域貢献活動を大学一丸となって進めるため、学部の枠を越えた全学的組織として2017年に「地域連携本部」を設立し、2025年には「地域連携センター」として新たなスタートを切りました。地域の課題と学術研究をつなぐ役割を果たしていきます。県内企業との共同研究や商品開発、大学発スタートアップの創出支援、研究成果の情報発信など地域とタイアップしたさまざまな取り組みをコーディネートしています。

大学と地域との「懸け橋」に

「相談事があってもどこに相談すれば良いのか分からない」「研究面で協力して欲しいが、どの先生に相談すれば良いのか分からない」といった地域の方々が気軽に立ち寄り相談できるよう、地域経済研究所に相談受付オフィスを設置。相談内容に応じて適切な部署や教員等との橋渡しを行います。

教育・研究の成果を地域に還元

まちづくり活動への学生参加や学生と地域住民との交流イベント企画等、地域活性化に向けたきっかけづくりをはじめ、研究面では福井の気候に合わせた小麦やコメの開発、ブランド鯖の養殖など、地域に役立つさまざまな取り組みを進めています。

CLOSE UP!

ビジネスアイデアコンテストに参加

金沢で開催された北陸発の産学官連携マッチングイベント「Matching HUB Hokuriku 2024」の「学生ビジネスアイデアコンテスト M-BIP」に本学経営学科の学生が入選し、ポスターセッションを行いました。

本イベントは、学生のアイデア、研究成果をビジネスに活かすべく、地域の若い力をイノベーションにつなげ、北陸地域の活性化と人材育成を目的としています。

CLOSE UP!

東京大学地域未来社会連携研究機構との連携

地域連携本部は東京大学地域未来社会連携研究機構とフィールドワークを通じた学生間の交流や地域産業に関する共同研究により、地域の課題解決を進めていくことを目的に連携協定を締結しました。

令和６年度は、県立大学と東京大学の学生が北陸新幹線の福井延伸による交通や町の変化をテーマにワークショップを行いました。その後、東京大学の学生は、越前市長の表敬訪問や敦賀市役所でのディスカッション、市内でのフィールドワークを行い、最後に各自調査した内容に関して発表・討論を行いました。

ワークショップの様子

国際交流・留学サポート

International Exchange／Support for Studying Abroad

国際センター
紹介はこちら

グローバルな未来への挑戦をバックアップ

さまざまな留学・海外研修プログラム

福井県立大学には、さまざまな留学・海外研修プログラムがあり、
学びに合わせて選べます。補助制度もあります。

短期海外英語研修

夏季または春季休暇中の3～5週間／イギリスまたはオーストラリア

異文化コミュニケーション研修

春季休暇中の1～2週間／シンガポール

長期留学

福井県立大学の海外協定校※へ半年～1年間

※アメリカ、カナダ、イギリス、韓国、台湾、中国、ベトナム、タイ

学部などで実施する研修など

看護福祉学部のフィンドレー大学短期研修（アメリカ）や海洋生物資源学部の養殖インターンシップ（フィリピン）など。
他にも、ゼミや研究室単位で海外活動が実施されています。また、海外協定校が主催するサマープログラムなどの機会もあります。

World Caféでは留学相談を実施しています。
気軽に相談してください！

- 留学
- 国際ボランティア
- ワーキングホリデー　など

永平寺キャンパス以外の方はオンラインでの相談も可能です。

リラックスした空間での多文化交流

- ワールド　カフェ
  World Café／永平寺キャンパス
- オーシャンズ　エックス
  Ocean's X／小浜キャンパス

学内に外国人インストラクターとの英会話や多文化交流を楽しめる「World Café」と「Ocean's X」を設けています。これらの交流スペースは、留学生による外国語講座や、学生同士での留学、海外旅行の情報共有、各種イベントなど、学部や学年に関係なくさまざまな交流ができる場として利用され、学生スタッフたちが意欲的に活動に関わっています。

外国人留学生との交流

福井県立大学では、さまざまな国・地域から外国人留学生を受け入れています（9か国・地域から40名）。

チューター制度

外国人留学生をサポートする日本人学生チューターを採用しています。チューターは外国人留学生と接し、互いの文化や考え方の違いに触れることで、異文化理解を深めることができる貴重な体験です。

外国人留学生の交流の場としての「World Café」

World Caféに外国人留学生が気軽に相談できるワンストップ相談窓口があります。県内をめぐるバスツアーや日本語教室など、外国人留学生向けの企画も実施しています。

\ NEW! /

英語力の向上と国際化をより一層推進するため、2025年4月に「国際センター」を設置しました。
3つのチーム（語学教育、海外派遣・交流、外国人学生支援）で、グローバルに活躍できる人材の育成を目指します。

先輩体験談

長期留学

留学先：韓国・全南大学
内　容：交換留学

経済学部 経済学科
竹澤 里菜子さん

留学は自分を変えるチャンス
人の輪の中で成長を実感

交換留学生として、身近に感じていた韓国へ。光州の全南大学に通い、韓国語や日本語の授業を受けたほか、サークルや学内イベントなど、さまざまな人の輪に積極的に入っていくことを心掛けました。今までの自分の考えの甘さや狭さ、言葉の壁を実感した一方、物事の捉え方が大きく変化し、一つ成長できたと思います。現地の友人からの励ましも自信になりました。今後は韓国語の勉強を続けながら、韓国経済への関心も深めていきたいです。

短期海外研修

研修先：イギリス
内　容：LEAP短期英語研修

海洋生物資源学部 先端増養殖科学科
大胡田 怜生さん

正しく話すより、自分の意見を
英語で伝えられることが大切

高校の時から憧れていたヨーロッパ。学校では英単語や文法の勉強のほか、自分たちで物語を作ったりディスカッションをしたり、学校主催のイベントにも参加しました。留学前は、英語を正しく話そうとして躊躇することも多かったけれど、留学中は正確さよりも“自分の意見を伝える”ことが重要だと実感し、積極的に話せるようになりました。ベルギー出身の友人との交流でポジティブ思考になれたなど、素晴らしい出会いも留学の魅力です。

短期海外研修

研修先：ベトナム
内　容：海外研修サマープログラム

経済学部 経済学科
八木 海翔さん

異文化を経験することで
現地問題の解決提案につながった

海外に興味があり、2年次は台湾、3年次にベトナムに留学。英語とベトナム語のほか、現地経済や物価、貿易などを学びました。環境問題のプレゼンテーションでは、ゴミ問題に関するゴミ収集所の提案、日傘の推奨を行いました。現地での観光や買物、食事といった異文化を経験した上でのプレゼンテーションだったので、説得力があったと思います。買物では“値切り文化”にも挑戦！人との交流が面白く、全てが貴重な経験になりました。

海外ボランティア

活動先：スウェーデン
内　容：ファームステイ

看護福祉学部 社会福祉学科
和田 優羽さん

農場での勤務体験と
北欧の社会福祉から学んだこと

海外ボランティア希望で、社会福祉制度の水準が高い北欧へ。ホストの農場では、収穫や雑草除去、家畜の餌やり、ペンキ塗りなど1日6～8時間の活動。効率よくタスクをこなす力が養われ、自己管理能力が向上しました。休日に行ったフェスやライブもいい思い出です。食事も印象深く、リンゴを農場内の木から採って食べたり、手作りソーセージも経験。どちらも美味！ ホストからスウェーデンの社会福祉制度などを学べたのもよかったです。

キャリアサポート・就職支援

Career Support

君の「やりたい！」を全力でサポート

就職活動では大学での学びや経験によって培われた自分自身を分析し、強みや熱意を企業等に正しく伝えることが求められます。県大には就職活動の拠点となる「キャリアセンター」があり、さまざまな支援プログラムと個別の面談を通して、学生一人ひとりに寄り添った、きめ細かな就職支援を行っています。

就職サポートの例

- 就職活動オリエンテーション
- インターンシップ対策
- 自己分析・自己PRの作成
- エントリーシートの書き方
- 内定者就職活動体験報告会
- 面接に向けたマナー講座 など

就職希望の学生
ほぼ全員が就職

99.7%

就職率（2024年度卒業生）

県大では、社会に出てから役立つ実践的な知識やスキルを身に付けるため、地元企業人による講義や現場での学びを重視した授業が充実しています。さらに、就職アドバイザーの丁寧なサポート体制により、高い就職率を毎年実現しています。

公務員就職の
実績も多数

公務員の就職者数（2024年度）

65人

2024年度の就職者のうち、約2割の学生が国家公務員や地方公務員として就職しています。

年次別スケジュール

	就職活動スケジュール	キャリアセンター就職支援
1〜2年次		▪キャリアガイダンス
3年次	▪自己分析 ▪業種・業界・企業研究 ▪インターンシップ ▪エントリーシート準備 ▪会社説明会	▪就職ガイダンス ▪業界研究セミナー 業種・業界説明会 ▪（随時）個別相談 エントリーシート 個別面接対策
4年次	▪選考開始 （筆記試験・面接試験）	

就職ガイダンスの開催

年間を通じて、就職活動に必要な業界研究や自己分析の方法など、就職活動についてイチから学べるテーマ別のガイダンスを実施。また、就職活動体験報告会では、内定を得た先輩の体験談やアドバイスを聞くことができます。

企業説明会の開催

県内外から企業を招き、学生向けの業界研究セミナーや個別企業説明会を開催しています。さまざまな業種の企業の人事担当者やOB・OGから、学生が直接説明を受けられる機会を設けています。

個別面談

民間企業での採用実務やキャリアコンサルティングに熟達した就職アドバイザーが常駐。学生の相談に個別対応し、丁寧にアドバイスしています。エントリーシートの添削や面接試験を想定した実践的な指導なども随時行っています。

インターンシップ

インターンシップとは、学生が企業などで就業体験を行う制度で、実際に職場に触れることで仕事への理解を深めるものです。県内外のインターンシップ情報を集めて提示するほか、事前ガイダンス等の事前指導を行っています。

公務員対策も充実

大手公務員対策の専門学校と連携した公務員試験対策講座を学内で受講できるほか、官公庁人事担当者やOB・OGを招いた学内官公庁説明会や内定者報告会を開催。公務員として働きたい学生の皆さんをバックアップしています。

WEB面接用個室ブース

就職活動のオンライン化に伴い、静かな環境で就職活動に取り組めるWEB面接用個室ブースを設置しています。授業の合間などに、企業説明会や面接、WEBテストを受けることができます。

図書・雑誌の閲覧

就職試験対策・面接対策に役立つ参考書や経済雑誌、公務員採用試験の問題集など就職活動に役立つ資料を豊富に取り揃えています。

求人情報閲覧システム「つぐみナビ」

学内専用の閲覧システム「つぐみナビ」では、各企業から寄せられた求人情報のほか、先輩の就活体験記を閲覧できます。

キャリアインタビュー

グループワークやサークル活動が就活で重要な対人スキルアップに

時代や社会をリードするIT業界に的を絞り、社内研修制度の充実や県内での知名度などを考慮して就活をスタート。心掛けたのは、経済ニュースをよく見るようにし、社会問題への関心も高めたことです。県大の授業でのグループワークや「学友会」の活動で得た、初対面での振る舞い方やコミュニケーションの取り方などの対人スキルは、就活にとても役立ちました。

キャリアセンターでの面接練習では「暗記しないで要点をまとめること」を教えていただき実践。本番ではその成果を発揮することができたと思います。

内定先 三谷コンピュータ株式会社

経済学部 経済学科
小野 蛍さん

就活に活かすことができた授業での県内企業の働きやすさ調査

志望動機は、愛用のイヤホンが福井メイドであることに驚き、その企業や製品などに興味を持ったことです。「人的資源管理論のゼミ」では、県内企業のワークライフバランスなど働きやすさを調査。分析やプレゼンをすることで、さまざまな働く環境を知ると同時に、そこで感じた働く人に対する尊敬の想いは、就活するうえで大事にしていたことの一つです。

就活は大学受験と違い、一人ひとり自分に合った戦い方が必要。自分を見つめ直すためにも、客観的視点での自己分析、面接練習、ガクチカの添削などキャリアセンターの支援が役立ちました。

内定先 株式会社 オーディオテクニカフクイ

経済学部 経営学科
西浦 優生さん

食の面白さと人との関わりなど大学で学んだことを活かしたい

食に興味があり、自分が携わった商品が消費者の方の食卓に彩り（スパイス）を与えることができたらうれしいと考え、食品メーカーを希望しました。大学生活では同級生や先輩との距離感が心地良く、コミュニケーションが充実していたことで人との関わりにも自信が持てるようになり、まず配属となる営業の仕事にも活かせそうです。

就活で大切なことは自分らしさを出すこと。エントリーシートの記入や面接時は、テンプレートではなく自分の想いをしっかり盛り込むことで、相手の記憶に残ると思います。

内定先 エスビー食品株式会社

生物資源学研究科 海洋生物資源学科専攻
北出 真子さん

看護実習での試行錯誤で得た命に寄り添う看護師の姿

フライトナースへの憧れから就活を行い、ドクターヘリを運用している基幹災害拠点病院、福井県立病院への就職が決まりました。看護実習で積み重ねた、患者さんとの関わり方に悩みながらアプローチ法をいろいろ試した経験を活かして、救える命を救い、寄り添う看護師として頑張っていきます。

キャリアセンターでは面接練習を何回も支援していただき、回を重ねるごとに上手く話せるようになりました。経験不足なことは繰り返し挑戦し、考えも深めていく。このことは社会人になっても忘れずにいたいです。

内定先 福井県立病院

看護福祉学部 看護学科
古谷 七海さん

海外進出と製品の安全性を軸に素晴らしい県内企業に巡り合えた

視点が独特でユーモアにあふれる先生のゼミのおかげで視野が広がり、真面目過ぎる私の考え方はかなり柔軟になったと感じています。そんな私が就職先の軸にしたのは、海外進出と製品の安全性。今、世界市場で求められているのはCO_2削減や環境に配慮した製品です。このことは企業の将来性にもつながると考えました。

就活を進めていくと、福井県内には数多くの素晴らしい企業があることがわかります。目指す企業への熱い想いをどう就活に活かすか、キャリアセンターがしっかりサポートしてくれます。

内定先 株式会社 田中化学研究所

生物資源学部 生物資源学科
梅村 恭平さん

海外研修での経験をきっかけに語学を活かせる県内商社へ

高校の時から語学に興味があり、在学中はニュージーランドへ語学研修。その他、ボランティアでカンボジア、旅行でタイやベトナム、中国へ。各国での経験が楽しくて、海外で働くことが目標になりました。創造農学科で学んだ、農業をツールに地域と人とつなぐことにも魅力を感じるように。その結果、就活では会社と会社をつなぎ、海外にも拠点がある県内商社を志望し、夢を実現できました。

面接試験対策では、対面とオンラインの充実した支援を活用しました。就活だけでなく、人生の選択についての相談ができた点も心強かったです。

内定先 興和江守株式会社

生物資源学部 創造農学科
川端 凜花さん

ボランティアと授業での実習が今後のチーム支援を考える視点に

こども食堂などのボランティア活動を通じて、さまざまな人とチームを組んで行う支援にやりがいを感じていました。その経験から、多様な視点から支援を考えて実践したいと思ったことが、就職先を選んだ理由です。

3・4年次の「精神保健ソーシャルワーク演習および実習」では、自分の考えを言語化する重要性や、無意識に持っている偏見などに気付くことができました。自分を客観的に把握し、行動に対する見直しができたことは、今後同僚とチームを組んで利用者の方を支援する時に活かすことができると思っています。

内定先 社会福祉法人 越前市社会福祉協議会

看護福祉学部 社会福祉学科
明 ひなたさん

キャリアセンター利用学生の声

エントリーシートの添削や面接練習をしてもらいました。何度も練習することで慣れることができました。

自己分析の方法について相談に乗ってもらいました。

キャリアセンターの方と話をすることで自信が付きました。

就活が上手くいってないときにキャリアセンターから連絡があり、とても親身になってくれました。

面接練習のときに「あなたのこういう部分がいいよ」と言ってもらえ、自分の強みを意識できました。

面接、小論文について指導してもらいました。何も決まっていない段階でもなるべく早く相談すると良いです。

パラグライダー部

キッズボランティアサークル「れいんぼー」

YOLOサークル

農業サークル

Open the Sesame

つぐみラボ

アメリカンフットボール部

水泳サークル

裏千家茶道部

剣道部

ボードゲームサークル

アコースティックギターサークル部

男子アイスホッケー部

女子アイスホッケー部

文芸部

日本遊戯振興会

アウトドアサークル

写真部

ハンドボール部

軽音楽部

男女硬式テニス部

福井県立大学 よっしゃこい

弓道部

福井県立大学 管弦楽部

女子バレーボール部

アカペラ部 Tran-Baccano

ビーチクリーンサークル

ジャグリングサークル Jackal

遊狩漁部

Club and Circles

クラブ&サークル紹介

かけがえのない仲間と出会える
魅力的なクラブ・サークルがたくさん！

永平寺キャンパス

[体育系]
- アメリカンフットボール部
- カバディサークル
- 弓道部
- 男女バドミントン部
- 剣道部
- サッカー部
- 女子アイスホッケー部
- 女子バレーボール部
- 水泳サークル
- スノースポーツ部
- ソフトテニス部
- ソフトバレーサークル
- 男子アイスホッケー部
- 男子ソフトボール部
- 男子バスケットボール部
- 男子バレーボール部
- 男子フットサル部
- 男女硬式テニス部
- ダンス部 JEEZ
- バスケットボールサークル
- パラグライダー部
- ハンドボール部
- 福井県立大学 カヌー部
- 福井県立大学 よっしゃこい
- 陸上競技部

[文化系]
- BBSサークル
- Open the Sesame
- アウトドアサークル
- アカペラ部 Tran-Baccano
- アコースティックギターサークル部
- 裏千家茶道部
- エシカルサークル
- 演劇部「劇団くらげ」
- オカルトサークル
- お笑いサークル FPU-O
- キッズボランティアサークル「れいんぼー」
- 競技かるたサークル
- 教職サークル
- 恐竜サークル「DiNo」
- 軽音楽部
- コミットサミット
- 写真部
- 書道サークル
- チャレンジサポートサークル(CSサークル)
- つぐみラボ
- デジタルクリエイティブサークル
- 七盤サークル
- 日本遊戯振興会
- 農業サークル
- ハイキングサークル
- 福井県立大学 管弦楽部
- 福井県立大学 ジャグリングサークル Jackal
- 福井県立大学 ジャズ研究会サークル
- 文芸部
- ボードゲームサークル
- 星空サークル
- YOLOサークル

小浜キャンパス

[体育系]
- 小浜キャンパスアイスホッケー部
- 小浜キャンパス アメリカンフットボール部
- 小浜パラグライダー部
- 球技サークル
- 弓道サークル 小浜支部
- シーカヤックサークル
- ダンス部JEEZ小浜支部
- バレーボール部
- ライフセービング部
- レジャースポーツサークル

[文化系]
- アカペラサークル
- 油絵部
- 軽音楽部
- 地域水槽サークル フィッシェンド
- 地域プレイヤー交流サークル TSUNAGARU
- ビーチクリーンサークル
- 美食サークル
- 遊狩漁部

クラブ・サークル
情報はこちら

永平寺キャンパス ｜ 学友会

学友会は永平寺キャンパスの大学祭「白樫祭」を中心に、学内で行われるイベントの運営を目的とした団体です。大学を盛り上げるためのイベントの企画・運営を通して、講義では学ぶことができない多くの経験ができます！

小浜キャンパス ｜ 海友会

海友会は小浜キャンパスの大学祭「白樫祭」や新しく小浜に来る2年生の歓迎会等、大学のイベントの運営を行っています。人数は少ないですが、互いに協力しながらさまざまな役割に携わることで、貴重な経験と思い出を得ることができます！

Hendaisei Lifestyle

県大生ライフスタイル

大学生活は学びを深めていくことがメインですが、それ以外にもサークルや趣味、アルバイトなどを楽しむ県大生もいっぱい！
そんな学生生活のリアルを紹介します！

充実していた留学や語学研修イギリスでの思い出は一生モノ

「World Café」では、お茶を飲みながら留学や語学研修の相談ができるし、関連資料も揃っています。もちろん、英会話の練習もOK!

経済学部 経済学科
黒田 晶菜さん

高校生までは思ったことを行動に移すのが苦手でした。でも、大学生になったからには自由な時間が増えたことを活かして、興味のあることは挑戦しようと決意。すると見方や考え方、性格にも変化が出てきたように感じています。先生との距離も近いので、勉強以外にもいろいろな相談ができるのも心強いです。

3年生からは中国経済のゼミを選択し、ゼミメンバーと一緒に議論を重ねてゼミナールコンテスト（ゼミコン）に参加。

今、熱中しているコト！

大学を盛り上げる企画・運営やイベントそしてアルバイトも面白い！

「学友会」に所属して大学祭の企画・運営に携わったり、オープンキャンパスではキャンパスツアーを担当したり。アルバイトも頑張っていて、幅広い年齢層の人たちとの交流は面白いことがたくさん！

新ブランド「若狭こはるカキ」をもっと広めたい!!

牡蠣やワカメの養殖など海での実習が多いので、地元小浜市や漁協、漁業者の協力が不可欠です。皆で知恵を出し合って連携し、上手くいった時の達成感は最高です。

海洋生物資源学部 先端増養殖科学科
石田 律貴さん

子どもの頃から興味があった魚や養殖を追求するのに、今の環境はパーフェクト！ 小浜湾で新ブランドの養殖マガキを生産する研究をしているので、地域との連携も深めています。そして、地域の水産業が抱えるさまざまな課題を、大学での知識や情報、若い力で解決したいと考えています。そのための研究や支援、チャレンジを続けているところです。

フードショーや学会などにも参加。県外大学生との調査や交流も重ねることで、学びが広がり深まっています。

今、熱中しているコト！

自分で民宿を経営し小浜の魅力を発信！

ブルーツーリズムの研究の一つとして、古民家をリノベーションした民宿を経営。若狭小浜の新鮮な地物を提供するのはもちろん、釣りや魚の捌き方体験などで、子どもが海と魚に触れる機会を増やしたいと考えています。

ピアノ演奏で収穫祭やオフ会を盛り上げています

あわらキャンパスでの収穫祭や、キャンピングトレーラーのオフ会などで得意のピアノを披露。機会があれば、いろんなシーンで演奏したい！

生物資源学部 創造農学科
須賀 龍舞さん

学びを生かした農業サークルでは、新プロジェクトとして4反の農地を借りて作物栽培から販売まで、農業経営に近いことを予定中です。また、趣味のキャンピングトレーラーを通じて“いろいろな人生の先生”との交流も深めています。その交流が人脈になり、学びや就職にもつながっていくと良いなぁと考えています。

父親の影響でキャンピングトレーラー好きになり、牽引免許も取得。年齢層も業種も幅広い、日本の産業を支えている人たちとの貴重な出会いもあります。

福井のココ好きPOINT!

北陸最大級の花火は一見の価値アリ！

あわらキャンパスから車で約15分の「三国サンセットビーチ」がお気に入り。8月開催の三国花火はとってもキレイ！シーズンオフも静かで良い雰囲気。

看護福祉学部 社会福祉学科
杉山 寧々佳さん

福井が好きで、地元で働きたいと思って入学しました。楽しいことは友人と遊んだり、美味しいものを食べること。もちろん、勉強にも励んでいますが、友人とのおしゃべりはいろいろな情報収集にもなるし、食事は良い息抜きにもなっています。アルバイトは人生経験としていくつかを掛け持ちし、収入は趣味にも充てています。

県大の授業では、専門分野以外にも身近なコトやモノ、現代の社会問題など、面白くて興味深い講義がたくさん。特に「コケの世界」は新鮮で驚くことばかり！

食べることが大好きだからお弁当も手作り!!

毎日ではないけれど、お弁当を手作り。品数や栄養バランスを考えながら作るのはなかなか大変だけど、意外と楽しんでいます。

学食メニューの基本は地産地消。郷土メニューもたびたび登場します。学生だけでなく、先生や職員の方もよく利用していますよ。

福井のココ好きPOINT!

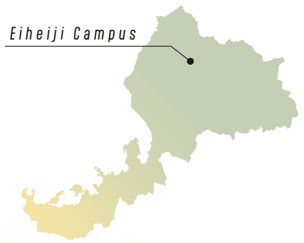
自然を満喫しながら友人とピクニック気分！

四季折々で違った風景を楽しめるのも福井の良いところ。「越前陶芸村」には、芝生やアート、さくらの各広場があって、ピクニック気分で過ごせます。周辺のアート作品も見どころです。

永平寺キャンパス

禅の里 永平寺町に位置する、広大で緑豊かな学術研究フィールド

経済学部／経済学科・経営学科
生物資源学部／生物資源学科
看護福祉学部／看護学科・社会福祉学科



1 ― 県大レストラン
豊富なメニューとリーズナブルな価格帯が人気。学生だけでなく一般の方も利用可能です。

2 ― 学生会館
昼食時や休憩時、自習時などで自由に利用が可能。「学生チャレンジスペース」もあります。

3 ― フォーラム（広場）
永平寺キャンパスの中央にある広場。天気の良い日は学生たちの憩いのスペースになります。

4 ― World Café
お茶を飲みながら外国人インストラクターと気軽に英会話！ 留学相談も実施しています。

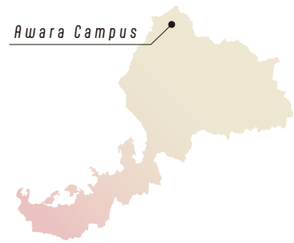
5 ― アトリウム
授業の空き時間に友達と集まり会話を楽しむなど、学生が自由に使える空間です。

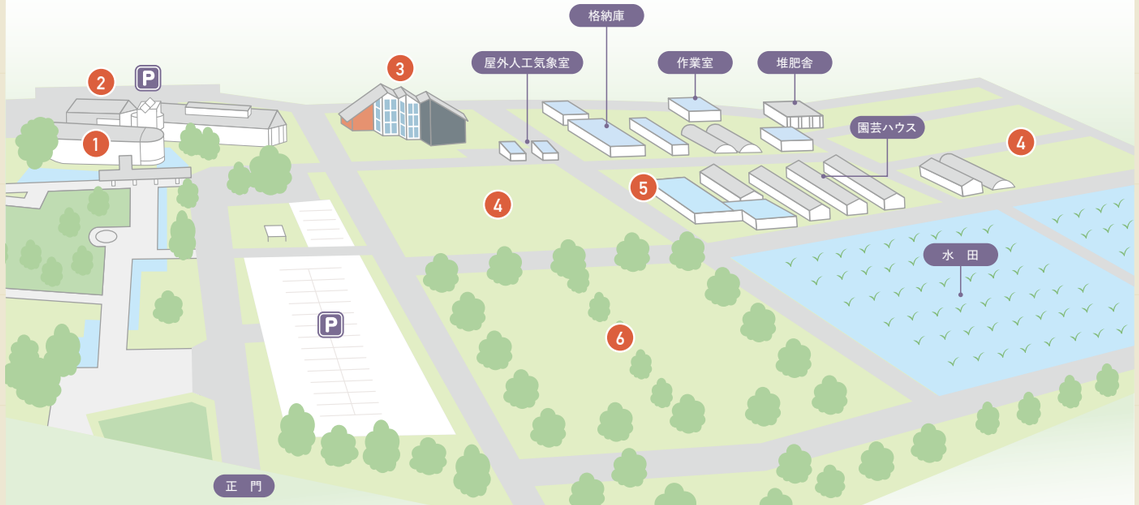
6 ― 共通講義棟内 大講義室
永平寺キャンパスで一番大きな講義室。およそ300人が一度に講義を受けられます。

あわらキャンパス

あわらの自然豊かな里地里山のフィールドがそのまま学び場に

生物資源学部／創造農学科





1 ― 管理・研究棟
学生カウンターのほか、創造農学科教員の研究室や実験室があります。

2 ― 食農交流棟
6次産業化を推進する人材育成のため、食品加工技術向上と交流のためのスペースがあります。

3 ― 教育棟
木造1階建てで創造農学科生の学びの拠点。講義室や実験室、調理室、医務室などがあります。

4 ― 畑
キャベツやトマトなど多様な作物を栽培。学生は自分専用の「My Farm」で作物を育てます。

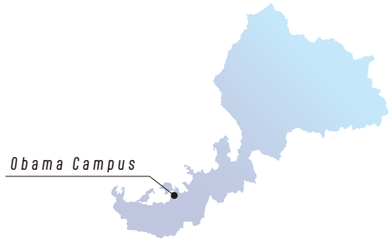
5 ― 実習棟
実習で収穫した農作物等について調べる調査室。個室の更衣室兼シャワー室もあります。

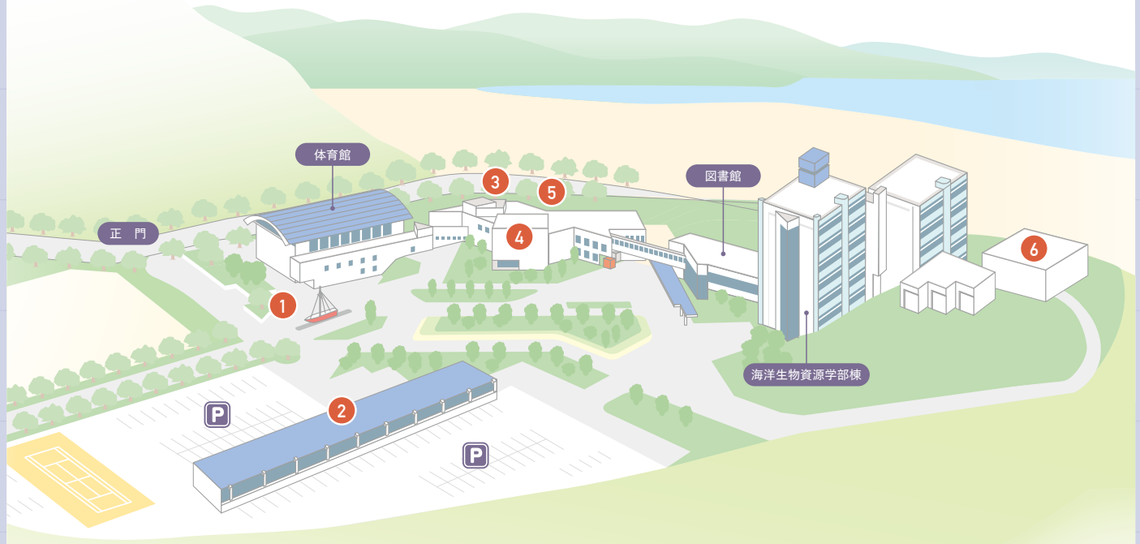
6 ― 果樹園
福井県特産の「梅」「越前柿」や、新規品目「さくらんぼ」「アケビ」の栽培試験も進めています。

小浜キャンパス

雄大な日本海を目前に望む開放感あふれるキャンパス

海洋生物資源学部／海洋生物資源学科・先端増養殖科学科





1 ― シンボルヨット「望（HOPE）」

海洋生物資源学部のシンボル。海を望む高台で将来を築いてほしいという願いが込められています。

2 ― 海洋環境工学実験棟

波や潮流などを再現する装置を取り付けた4種類の水槽のほか、先進的な設備を備えています。

3 ― 県大レストラン＆キッチンBoo

海が見えるレストランで地産地消にこだわったバイキングが楽しめます。県大生は割引価格。

4 ― 多目的ホール

小浜キャンパスで最も広いホール。大学イベントのほか、授業や公開講座で使用します。

5 ― 海が見える広場

小浜の街と海を見下ろせる開放感あふれる広場。4月には藤棚が満開になります。

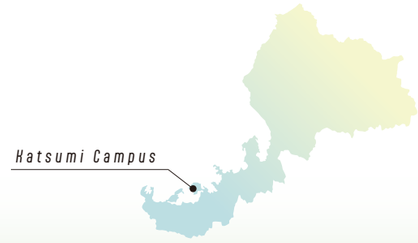
6 ― 講義棟

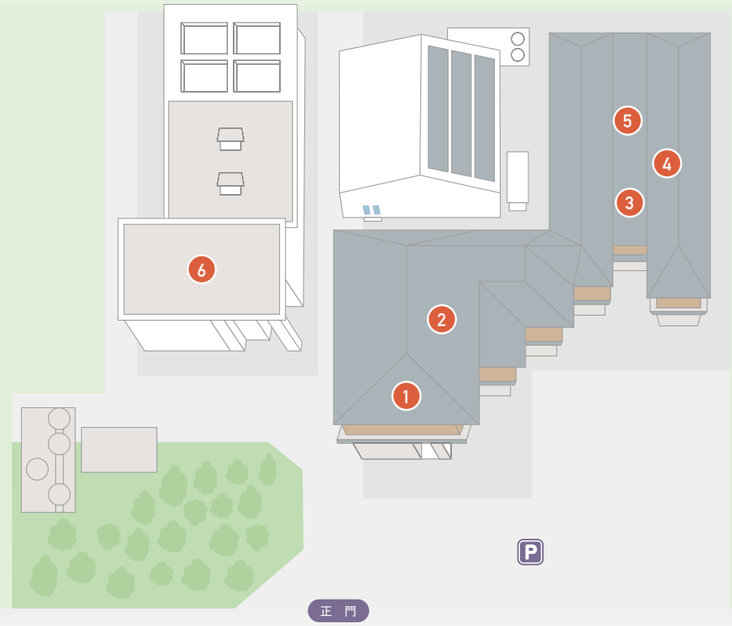
福井県産スギや若狭和紙、若狭塗などの県産品を使用。テラスからは小浜湾を一望できます。

かつみキャンパス

キャンパス前の若狭湾を活用する先端増養殖科学の教育・研究拠点

海洋生物資源学部／海洋生物資源学科・先端増養殖科学科





1 ― 研究講義棟

教員と学生のスペースが隣接し、コミュニケーションが円滑に行えるよう工夫されています。

2 ― 研究講義棟内 サロンきたまえ

木の温もりを感じる空間で、学生同士はもちろん、地域の方との交流の場としても利用できます。

3 ― 研究講義棟内 講義室

教室間のパーテーションを外すと、一つの大きな教室として利用できるようになっています。

4 ― 研究講義棟内 実験室

水産科学、ゲノム科学、環境科学、情報科学など、水産増養殖を幅広く研究できる設備が充実。

5 ― 飼育棟

養殖魚を育成する大型水槽を備えた飼育実験室、魚を飼育管理できる小型魚類飼育室を設置。

6 ― 臨海研究センター

魚介類の飼育設備と高度な分析機器を備えた施設。研究や調査を行う調査船も所有しています。

学生生活サポート

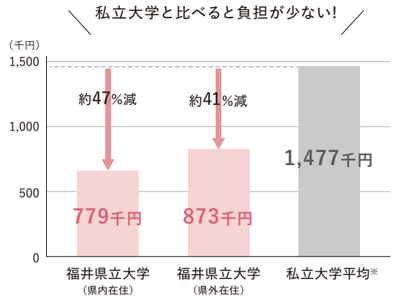
Student Support

修学に必要な費用等

入学料・授業料等（令和7年4月現在）

	福井県内に在住の方	福井県外に在住の方
入　学　料	188,000円	282,000円
授業料（年額）	535,800円	
その他（学生保険等）	約55,000円※	
合　　計	778,800円	872,800円

※令和6年度の実績であり、金額が変更される場合があります。



※文部科学省「令和5年度 私立大学入学者に係る学生納付金等調査結果」より作成

奨学金

日本学生支援機構の奨学金

● 貸与奨学金

区　分		貸与月額
第一種（無利子）	自宅通学者	20,000円、30,000円、45,000円から学生が選択した額
	自宅外通学者	20,000円、30,000円、40,000円、51,000円から学生が選択した額
第二種（有利子）		月額20,000円～ 120,000円の間で、1万円単位で学生が選択した額

● 給付奨学金
（修学支援新制度）
※カッコ内は生活保護世帯等の金額

区　分	給付月額			
	第Ⅰ区分	第Ⅱ区分	第Ⅲ区分	第Ⅳ区分
自宅通学者	29,200円（33,300円）	19,500円（22,200円）	9,800円（11,100円）	7,300円（8,400円）
自宅外通学者	66,700円	44,500円	22,300円	16,700円

その他の奨学金

地方公共団体、公益法人、民間企業等が行う奨学金制度があります。
募集がある場合に大学ホームページに掲載します。

入学料・授業料減免制度

各制度の詳細は、対象機関のホームページ等でご確認ください。

文部科学省の「高等教育の修学支援新制度」

修学支援新制度の対象となっている者は、入学料、授業料の減免を受けることができます。

福井県独自の「2人扶養世帯の県内大学等授業料減免制度」

修学支援新制度の対象となっている者かつ福井県内の進学者に対し、福井県独自の上乗せ支援を行います。

福井県立大学独自の授業料減免および納付期限延長の制度

大学院生、留学生を対象とした授業料減免および納付期限延長の制度があります。

充実した相談体制

教員による学生相談

大学での学びや生活、健康、進路など、さまざまな悩みや不安に対して、各学部・学年ごとに配置された学生相談担当教員が相談に応じます。

修学、生活などの相談

「授業に出席できない」「大学になじめない」「自信が持てない」など、学生生活の悩み事に、専門知識や援助技術を持つキャンパスソーシャルワーカーが相談に応じます。

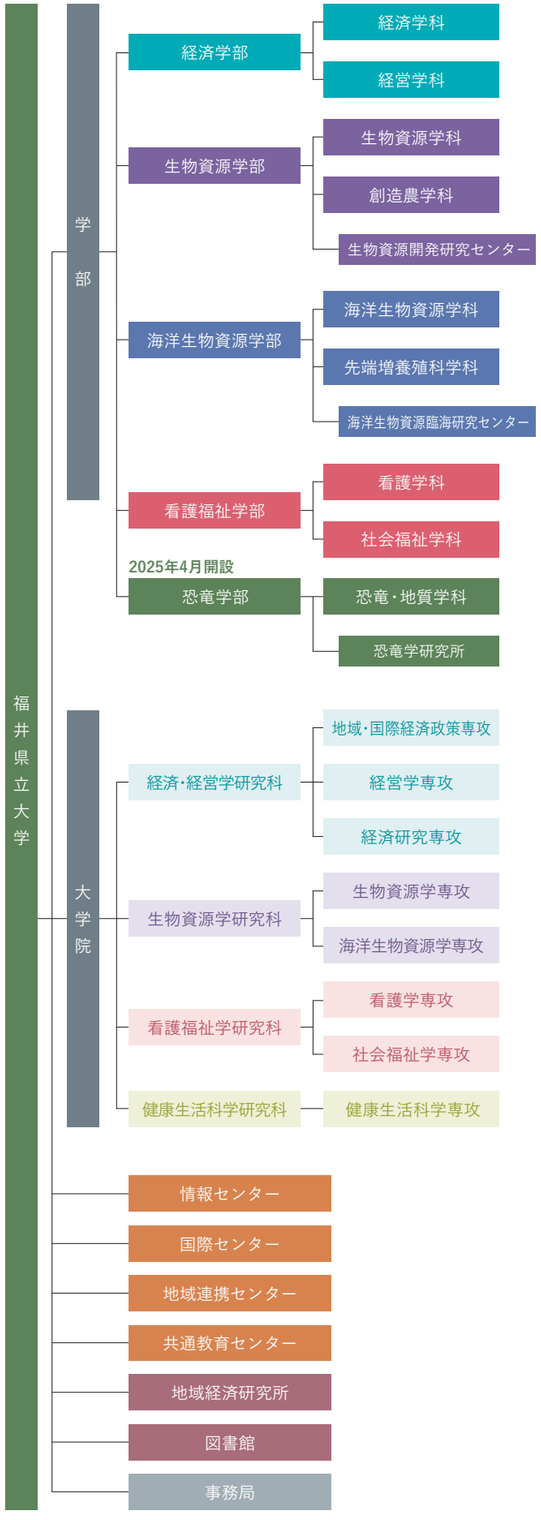
身体や心の悩み相談

健康診断や健康相談、メンタルヘルス相談、カウンセリングなどに、看護やカウンセリングの専門スタッフ（学校医、保健職員、カウンセラー）が応じます。

沿　革

1920	福井県農業試験場内に福井県農業技術員養成課程を設置
1966	福井県農業短期大学校に改称
1975	福井県立短期大学（農学科、経営学科、看護学科）を開学
1982	第二看護学科を開設
1984	専攻科地域看護学専攻を開設
1992	開学［福井キャンパス（経済学部・生物資源学部）］
	初代学長に坂本慶一が就任
1993	小浜キャンパス（海洋生物資源学科）、
	生物資源開発研究センターを開設
	看護短期大学部を併設
1994	看護短期大学部を福井キャンパスに移転
1996	大学院修士課程を開設
1998	大学院博士課程を開設
	第2代学長に常脇恒一郎が就任
1999	看護福祉学部を開設
2001	看護短期大学部を閉学
	地域経済研究所を開設
2002	学術教養センターを設置
2003	海洋生物資源臨海研究センターを開設
	大学院看護福祉学研究科を開設
2004	第3代学長に祖田修が就任
2006	大学院にビジネススクールを設置
2007	公立大学法人に組織変更
2009	海洋生物資源学部を開設（小浜キャンパス）
2010	第4代学長に下谷政弘が就任
	キャリアセンターを開設
2013	恐竜学研究所を開設
2016	第5代学長に進士五十八が就任
	福井キャンパスの名称を永平寺キャンパスへ変更
2017	地域連携本部を開設
2020	あわらキャンパス開設
	生物資源学部創造農学科を開設
2022	かつみキャンパス開設
	海洋生物資源学部先端増養殖科学科を開設
	第6代学長に岩崎行玄が就任
2023	大学院健康生活科学研究科を開設
	情報センターを開設
2025	恐竜学部を開設
	国際センター、地域連携センター、共通教育センターを開設

組織図（令和7年度）



教員一覧

教員情報はこちら

岩崎 行玄 学長
植物生化学

横山 芳博 副学長(総括)／情報センター長／国際センター長／図書館長
水産化学、食品化学、海洋分子生物学

北島 啓嗣 副学長(地域連携)／地域連携センター長／共通教育センター長
流通業の経営戦略、流通論、マーケティング戦略論

石丸 香苗 副学長(学生支援・ダイバーシティ推進)／学生部長
森林科学・地域研究(ラテンアメリカ)

塚原 典央 特任学長補佐(ハラスメント対策)
哲学

経済学部　経済学科

桑原 美香 学科長・教授
地方財政論、財政学

清水 葉子 教授
金融論、証券市場論

新宮 晋 特命教授
経済学

杉山 泰之 教授
国際経済学、応用経済学

廣瀬 弘毅 教授
経済政策、マクロ経済政策思想

Andrey Belov 特命教授(アンドレイ ベロフ)
ロシア経済

堀田 学 教授
農業経済学、食品マーケティング論

山﨑 茂雄 特命教授
文化政策学、文化観光論

渡邉 敏生 教授
経済理論、金融経済学

池本 裕行 准教授
日本経済史

今池 康人 准教授
自由主義経済思想、経済思想史、科学哲学

加藤 健太郎 准教授
中国経済論、日中経済関係

松岡 孝恭 准教授
マクロ経済学、統計学

岡原 直人 助教
マクロ経済学、銀行理論

経済学部　経営学科

藤野 秀則 学部長・教授
安全管理論、ヒューマンインタフェース、コミュニケーション支援

徳前 元信 学科長・教授
会計学

木野 龍太郎 教授
生産管理、工業経営、技術経営

木下 和久 教授
管理会計論

杉山 友城 教授
地域活性論、地域産業論、中小企業経営論

飛田 正之 教授
人的資源管理

早川 貴 教授
マーケティング論、経営戦略論

福山 龍 教授
商法、会社法

村松 洋介 教授
租税法、行政法、公務員法、労働法、社会保障法

石﨑 琢也 准教授
企業論

北野 康 准教授
経営組織論、組織行動論

境 宏恵 准教授
会計学

山崎 淳 准教授
中小企業論、ベンチャー企業経営論

山下 知晃 准教授
財務会計論

芝田 有希 助教
消費者行動論、マーケティング論、Consumer Psychology

生物資源学部　生物資源学科

深尾 武司 学部長・教授
植物生理学、植物分子生物学、植物遺伝学

西原 昌宏 学科長・教授
植物分子生物学、代謝工学

石川 敦司 教授
植物分子生物学

伊藤 崇志 教授
薬理学、機能食品学、動物生理学

伊藤 貴文 教授
酵素化学、タンパク質工学、構造生物学、応用微生物学

風間 裕介 教授
ゲノム生物学

片野 肇 教授
分析化学

塩野 克宏 教授
植物生理学、植物分子遺伝学

仲下 英雄 教授
植物分子生物学

濱野 吉十 教授
応用微生物学、天然物化学、ケミカルバイオロジー、生物有機化学

日井 隆雄 教授
構造生化学、タンパク質工学

池田 美穂 准教授
植物分子遺伝学、植物発生生理学

植松 宏平 准教授
分析化学、電気化学、酵素化学

篠原 秀文 准教授
植物生化学、植物分子生物学

角田 智詞 准教授
生態学

西嶋 遼 准教授
植物遺伝学

長谷部 文人 准教授
応用微生物学、天然物化学

松井 孝憲 准教授
食品機能学

丸山 千登勢 准教授
応用微生物学、天然物化学

向山 厚 准教授
タンパク質科学、生物物理学、時間生物学

生物資源学部　創造農学科

木元 久 学科長・教授
分子生物学、応用微生物学

三浦 孝太郎 教授
植物分子育種学、植物分子生物学

村井 耕二 教授
植物遺伝育種学、植物発生遺伝学

森川 峰幸 教授
地域農政学

森中 洋一 教授
植物育種学、園芸学

加藤 久晴 准教授
植物病理学、植物分子生物学

黒川 洋一 准教授
生化学、酵素化学、蛋白質科学

篠山 治恵 准教授
花弁園芸学、植物育種学

高橋 正和 准教授
食品機能科学、食品化学、農産物利用学

林 潤 准教授
植物分子細胞生物学

松本 大生 准教授
果樹園芸学

牧野 奏佳香 助教
森林科学、窒素循環、植生管理学

海洋生物資源学部　海洋生物資源学科

水田 尚志 学部長・教授
食品化学、水産化学

吉川 伸哉 学科長・教授
藻類生理

兼田 淳史 教授
沿岸海洋学、水産海洋学

近藤 竜二 教授
微生物生態学

佐藤 晋也 教授
藻類学、系統分類学、細胞学

小路 淳 教授
水産資源学、海洋生態学

杉本 亮 教授
生物地球化学、海洋生物環境学

瀬戸 雅文 教授
水産土木学、海洋環境工学

松川 雅仁 教授
魚肉タンパク質の利用を中心とした水産加工学

山本 昌幸 教授
水産資源学、資源生態学

今道 力敬 准教授
食品機能学、内分泌学

片岡 剛文 准教授
微生物生態学

下畑 隆明 准教授
細菌学、食品微生物学

髙尾 祥丈 准教授
水圏微生物学、海洋ウイルス学

細井 公富 准教授
水産化学

松林 順 准教授
同位体生態学

山田 和正 助教
藻類生理生態学、細胞形態学

海洋生物資源学部　先端増養殖科学科

末武 弘章 学科長・教授
魚類生理学

奥澤 公一 教授
魚類育種学

佐藤 秀一 教授
水族栄養学、養魚飼料開発

田原 大輔 教授
魚類生理生態学、水産増養殖学

富永 修 特命教授
水産資源生物学

濵口 昌巳 教授
海洋生物生態学、海草・海藻類のブルーカーボン機能評価

吉浦 康寿 教授
水族発生工学、魚類生理学

瀧澤 文雄 准教授
水族病理学、魚類免疫学

渡慶次 力 准教授
水産情報学、水産海洋学

西辻 光希 准教授
海藻ゲノム科学、バイオインフォマティクス、環境 DNA

東村 玲子 准教授
漁業経済学

八杉 公基 准教授
動物生態学、行動学、情報光学

看護福祉学部　看護学科

笠井 恭子 学部長・教授
基礎看護学

大島 千佳 学科長・教授
看護技術のエビデンス確立、看護領域における解剖学教育

岩谷 久美子 教授
母性看護学

川村 みどり 教授
精神看護学

久米 真代 教授
老年看護学、認知症看護

小島 亜未 教授
公衆衛生看護学

平井 一芳 教授
公衆衛生学、疫学

普照 早苗 教授
地域・在宅看護学

水谷 哲也 教授
内分泌学、分子生物学、生化学

村上 茂 特命教授
食品機能学、薬理学、生化学

米田 誠 特命教授
脳神経内科学、遺伝医学、分子イメージング、神経免疫学

東 知宏 准教授
基礎看護学

上木 礼子 准教授
基礎看護学

梅津 千香子 准教授
地域看護学、在宅看護学

金粕 仁美 准教授
小児看護学

熊谷 あゆ美 准教授
急性看護学

成田 光江 准教授
医療福祉学

長谷川 小眞子 准教授
精神看護学

井狩 知幸 助教
公衆衛生看護学

岡田 恭子 助教
老年看護学

上谷 祐子 助教
小児看護学

坂部 敬子 助教
公衆衛生看護学

竹内 智子 助教
地域・在宅看護学

平井 宏美 助教
母性看護学、助産学

藤田 祐子 助教
慢性看護学、緩和ケア

牧野 葵 助教
母性看護学

松崎 かさね 助教
老年看護学、文化人類学

矢島 直樹 助教
急性看護学

看護福祉学部　社会福祉学科

吉弘 淳一 学科長・教授
児童福祉、臨床心理、児童心理

今井 朋実 教授
ソーシャルワーク

梅谷 進康 教授
高齢者福祉、ソーシャルワーク

岡田 隆志 教授
精神保健福祉、メンタルヘルス

佐野 治 教授
社会福祉学(地域福祉論、CSW 論)

田中 裕美子 教授
社会政策、非正規雇用、ジェンダー

法木 左近 特命教授
病理学

道信 良子 教授
医療人類学、グローバルヘルス

山口 理恵子 教授
権利擁護、日常生活自立支援事業、成年後見制度

坂口 昌宏 准教授
社会保障、生活保護

永井 裕子 准教授
地域福祉、ソーシャルワーク、実習教育

畠中 耕 准教授
社会福祉史

舟木 紳介 准教授
ソーシャルワーク理論、外国人・移民定住支援

牛場 裕治 助教
精神保健福祉、ソーシャルワーク

木村 多佳子 助教
保健医療ソーシャルワーク、社会福祉実習教育

藤野 真凜 助教
障害者福祉、ソーシャルワーク

恐竜学部　恐竜・地質学科

西 弘嗣 学部長・教授
地質学、古生物学、古海洋学

神谷 隆宏 学科長・教授
古生物学、古環境学

安藤 寿男 教授
地質学、古生物学、堆積学

大石 善隆 教授
生態学

河部 壮一郎 教授
脊椎動物の比較形態学

柴田 正輝 教授
古脊椎動物学

髙田 裕行 教授
古生物学

土屋 正史 教授
実験古生物学、海洋生物学

今井 拓哉 准教授
古脊椎動物学

中村 英人 准教授
有機地球化学、分子地球生物学

服部 創紀 准教授
古脊椎動物学

大山 望 助教
デジタル古生物学

木下 峻一 助教
デジタル古生物学

情報センター

徳野 淳子 副センター長・教授
情報科学、教育工学

田中 武之 准教授
数理工学、信頼性工学

谷川 衝 准教授
天文学、データサイエンス、数値シミュレーション

村田 知也 准教授
情報工学、プログラミング教育、VR、ゲーム、AI

眞田 嵩大 助教
理論計算機科学、圏論的意味論

国際センター

森 英樹 副センター長・教授
言語学

横田 実世 教授
形質・自然人類学、職業安全、英語

古藪 真紀子 准教授
国際開発、ジェンダーと開発、平和構築

Jared Denman 准教授(ジャレッド デンマン)
日本学

渡邉 綾 准教授
応用言語学、英語教育、会話分析

地域連携センター

黒田 祐二 副センター長・教授
臨床心理学、教育心理学

國崎 大恩 教授
教育哲学、教育思想史、教師教育

樋口 人志 特命教授
産学連携、知的財産、技術移転

森本 康太郎 准教授
キャリア心理学、キャリアガイダンス論

共通教育センター

石原 一成 副センター長・教授
健康・スポーツ科学

亀田 勝見 教授
中国思想史

木村 小夜 教授
近代国文学

清水 聡 教授
行動学・発達心理学

長岡 亜生 教授
アメリカ文学

加藤 まどか 准教授
社会学

加藤 裕美 准教授
文化人類学、東南アジア地域研究

根田 恵多 准教授
憲法学、比較憲法学(アメリカ)

渡邉 浩一 准教授
哲学

地域経済研究所

松原 宏 所長・教授
経済地理学

青木 和人 教授
空間情報学、地理情報システム

佐々井 司 教授
人口学、社会保障、統計分析、社会調査

フロレス漆間 アンドレア百合 教授
環境デザイン論、都市地域論

前田 陽次郎 教授
経済地理学、農業経済学

三橋 浩志 教授
地域づくり論、地域イノベーション政策

高野 翔 准教授
ウェルビーイング

當麻 雅章 准教授
空間経済学

森嶋 俊行 准教授
経済地理学、観光地理学

客員教授

朝比奈 一郎
青山社中(株)筆頭代表(CEO)、総務省地域力創造アドバイザー

安間 匡明
社会変革推進財団エグゼクティブアドバイザー

池上 惇
京都大学名誉教授

伊東 光晴
京都大学名誉教授

岩槻 邦男
東京大学名誉教授

エバレット・ケネディ・ブラウン
写真家、(一社)京都会所代表理事

大政 謙次
東京大学名誉教授、高崎健康福祉大学農学部長

海堂 尊
作家、医師

橘川 武郎
国際大学学長

堅達 京子
NHKエンタープライズ エグゼクティブ・プロデューサー

小林 栄三
伊藤忠商事(株)名誉理事

小林 昌道
大本山永平寺監院

徐 星(シュウ シン)
中国科学院古脊椎動物古人類学研究所所長、教授

新木 富士雄
元北陸電力(株)相談役、元北陸経済連合会特別顧問

スティーブ・L・ブルサッテ
エディンバラ大学 地球科学部 古生物学・進化学専任教授

田川 博己
(株)ジェイティービー取締役相談役

角鹿 尚計
元福井市立郷土歴史博物館館長

ディヴィッド・C・エバンス
ロイヤルオンタリオ博物館 古脊椎動物部門長

ディヴィッド・J・ヴァリッキオ
モンタナ州立大学ボーズマン校 地球科学科教授

中川 毅
立命館大学総合科学技術研究機構教授

中島 精也
丹羽連絡事務所チーフエコノミスト

中林 一樹
東京都立大学・首都大学東京名誉教授、明治大学研究・知財戦略機構研究推進員

丹羽 宇一郎
元 駐中国特命全権大使、元伊藤忠商事(株)取締役会長

廣川 進
法政大学キャリアデザイン学部教授

フィリップ・J・カリー
アルバータ大学 理学部生物学科教授

武藤 昌三
シンフォニアテクノロジー(株)代表取締役会長

マリ・クリスティーヌ
異文化コミュニケーター、元国際連合人間居住計画(国連ハビタット)親善大使

溝尾 良隆
立教大学名誉教授

毛利 衛
宇宙飛行士、日本科学未来館名誉館長

藻谷 浩介
(株)日本総合研究所 調査部主席研究員、(株)日本政策投資銀行 地域企画部特任顧問

山内 豊明
放送大学大学院文化科学研究科教授

山崎 亮
studio-L代表

山根 一眞
ノンフィクション作家

山本 信一郎
(一財)地域創造会長、前宮内庁長官、元内閣府事務次官

養老 孟司
東京大学名誉教授

入試DATA

▸ 志願者・合格者・倍率（令和7年度）

学部	学科	一般選抜・前期日程					一般選抜・後期日程					一般選抜 計（A）				
		募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	倍　率	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	倍　率	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	倍　率
経済学部	経済学科	40	127	114	74	1.5	35	236	66	40	1.7	75	363	180	114	1.6
	経営学科	40	178	165	74	2.2	35	236	77	41	1.9	75	414	242	115	2.1
	計	80	305	279	148	1.9	70	472	143	81	1.8	150	777	422	229	1.8
生物資源学部	生物資源学科	14	91	77	19	4.1	17	265	102	36	2.8	31	356	179	55	3.3
	創造農学科	11	41	38	14	2.7	5	70	26	5	5.2	16	111	64	19	3.4
	計	25	132	115	33	3.5	22	335	128	41	3.1	47	467	243	74	3.3
海洋生物資源学部	海洋生物資源学科	25	108	92	29	3.2	10	133	54	12	4.5	35	241	146	41	3.6
	先端増養殖科学科	10	29	27	19	1.4	6	44	20	8	2.5	16	73	47	27	1.7
	計	35	137	119	48	2.5	16	177	74	20	3.7	51	314	193	68	2.8
看護福祉学部	看護学科	25	99	94	29	3.2	5	133	34	5	6.8	30	232	128	34	3.8
	社会福祉学科	15	60	56	20	2.8	5	65	26	11	2.4	20	125	82	31	2.6
	計	40	159	150	49	3.1	10	198	60	16	3.8	50	357	210	65	3.2
恐竜学部	恐竜・地質学科	15	109	101	17	5.9	3	82	10	3	3.3	18	191	111	20	5.6
	計	15	109	101	17	5.9	3	82	10	3	3.3	18	191	111	20	5.6
総　計		195	842	764	295	2.6	121	1,264	415	161	2.6	316	2,106	1,179	456	2.6

学部	学科	学校推薦型選抜（B）					総合型選抜（C）					特別選抜（D）					総計（A＋B＋C＋D）			
		募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	倍　率	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	倍　率	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	倍　率	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数
経済学部	経済学科	25	47	47	29	1.6	—	—	—	—	—	若干名	2	2	1	2.0	100	412	229	144
	経営学科	25	41	41	26	1.6	—	—	—	—	—	若干名	2	2	0	—	100	457	285	141
	計	50	88	88	55	1.6	—	—	—	—	—	若干名	4	4	1	4.0	200	869	514	285
生物資源学部	生物資源学科	11	15	15	15	1.0	8	7	7	6	1.2	若干名	3	2	2	1.0	50	381	203	78
	創造農学科	7	8	8	8	1.0	7	16	16	11	1.5	若干名	2	2	1	2.0	30	137	90	39
	計	18	23	23	23	1.0	15	23	23	17	1.4	若干名	5	4	3	1.3	80	518	293	117
海洋生物資源学部	海洋生物資源学科	10	19	19	11	1.7	5	18	17	7	2.4	若干名	1	1	0	—	50	279	183	59
	先端増養殖科学科	8	3	3	3	1.0	6	11	11	8	1.4	若干名	0	0	0	—	30	87	61	38
	計	18	22	22	14	1.6	11	29	28	15	1.9	若干名	1	1	0	—	80	366	244	97
看護福祉学部	看護学科	20	32	32	20	1.6	—	—	—	—	—	若干名	2	2	1	2.0	50	266	162	55
	社会福祉学科	10	18	18	13	1.4	—	—	—	—	—	若干名	0	0	0	—	30	143	100	44
	計	30	50	50	33	1.5	—	—	—	—	—	若干名	2	2	1	2.0	80	409	262	99
恐竜学部	恐竜・地質学科	6	2	2	2	1.0	6	63	36	10	3.6	若干名	8	8	2	4.0	30	264	157	34
	計	6	2	2	2	1.0	6	63	36	10	3.6	若干名	8	8	2	4.0	30	264	157	34
総　計		122	185	185	127	1.5	32	115	87	42	2.1	若干名	20	19	7	2.7	470	2,426	1,470	632

▸ 合格者の最高・最低・平均点（令和7年度）一般選抜

学部	学科	前期日程			後期日程		
		最高点	最低点	平均点	最高点	最低点	平均点
経済学部	経済学科	375.5	283.9	311.5	444.7	354.0	391.5
	経営学科	368.6	290.9	311.8	442.2	338.4	369.9
生物資源学部	生物資源学科	—	—	—	438.8	386.9	407.1
	〈試験A〉	306.9	257.9	274.1	—	—	—
	〈試験B〉	298.5	282.2	290.4	—	—	—
	創造農学科	284.5	234.2	249.3	251.7	217.9	237.1
海洋生物資源学部	海洋生物資源学科	314.8	250.7	274.1	468.7	400.8	427.2
	先端増養殖科学科	300.3	204.7	253.9	489.9	370.6	435.3
看護福祉学部	看護学科	342.0	293.0	313.7	499.3	440.1	474.2
	社会福祉学科	344.9	250.2	279.7	389.9	291.0	340.1
恐竜学部	恐竜・地質学科	403.7	317.8	346.7	524.3	486.4	506.3

■学部（学科）により満点が異なります。
※前期日程：経済学部、看護福祉学部看護学科500点満点。
　生物資源学部生物資源学科、恐竜学部450点満点。他の学部（学科）400点満点。
※後期日程：生物資源学部創造農学科350点満点。看護福祉学部看護学科700点満点。
　看護福祉学部社会福祉学科500点満点。他の学科600点満点。

▷ 入試日程（令和8年度入学者選抜）

区　分		出願期間	試験日
一般選抜	前期日程	R8.1.26(月)～R8.2.4(水)	R8.2.25(水)
	後期日程		R8.3.12(木)
学校推薦型選抜		R7.11.4(火)～R7.11.11(火)	R7.11.22(土)
総合型選抜		R7.10.1(水)～R7.10.8(水)	R7.11.23(日・祝)
特別選抜	帰国生徒	R7.11.4(火)～R7.11.11(火)	R7.11.22(土)～R7.11.24(月・休) ※いずれかの日程で実施予定
	社会人		
	私費外国人留学生		

※日程は令和7年5月現在の予定です。
　変更される場合がありますので、本学HPでご確認ください。

入試情報はこちらから!

▸ 入試に関するお問合せ

福井県立大学 入学試験本部（入試企画室）　〒910-1195　福井県永平寺町松岡兼定島4-1-1

TEL.　0776-61-6000
FAX.　0776-61-6012
MAIL.　nyusi@fpu.ac.jp

大学DATA

▸ 学部学生数（令和7年5月1日現在）

※（　）は女子人数

学部・学科	1年	2年	3年	4年	計
経済学科	112（47）	117（47）	105（46）	131（46）	465（186）
経営学科	114（59）	116（63）	115（57）	124（57）	469（236）
経済学部計	226(106)	233(110)	220(103)	255(103)	934（422）
生物資源学科	52（18）	50（30）	48（29）	49（20）	199（97）
創造農学科	37（24）	31（17）	29（13）	33（22）	130（76）
生物資源学部計	89（42）	81（47）	77（42）	82（42）	329（173）
海洋生物資源学科	54（13）	56（15）	51（16）	58（18）	219（62）
先端増養殖科学科	33（7）	31（8）	31（6）	29（4）	124（25）
海洋生物資源学部計	87（20）	87（23）	82（22）	87（22）	343（87）
看護学科	52（44）	55（49）	55（50）	63（56）	225（199）
社会福祉学科	34（27）	33（29）	31（26）	33（31）	131（113）
看護福祉学部計	86（71）	88（78）	86（76）	96（87）	356（312）
恐竜・地質学科	34（17）				34（17）
恐竜学部計	34（17）				34（17）
全学部計	522(256)	489(258)	465(243)	520(254)	1,996(1,011)

▸ 大学院学生数（令和7年5月1日現在）

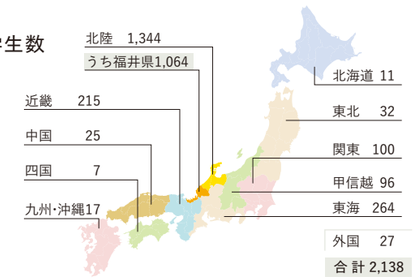
※（　）は女子人数

博士前期課程・修士課程		1年	2年	計
経済・経営学研究科	地域・国際経済政策専攻	2（1）	2（2）	4（3）
	経営学専攻	8（4）	8（1）	16（5）
生物資源学研究科	生物資源学専攻	17（8）	19（7）	36(15)
	海洋生物資源学専攻	8（3）	15（2）	23（5）
看護福祉学研究科	看護学専攻	7（7）	6（3）	13(10)
	社会福祉学専攻	2（1）	11（6）	13（7）
合　計		44(24)	61(21)	105(45)

博士後期課程		1年	2年	3年	計
経済・経営学研究科	経済研究専攻	2（0）	2（1）	2（1）	6（2）
生物資源学研究科	生物資源学専攻	2（0）	10（2）	3（1）	15（3）
	海洋生物資源学専攻	3（2）	2（0）	0（0）	5（2）
健康生活科学研究科	健康生活科学専攻	2（0）	4（2）	5（4）	11（6）
合　計		9（2）	18（5）	10（6）	37(13)

▸ 出身地域別学生数

（学部・大学院）



▸ 教員数（令和7年5月1日現在）

学部等	学長・副学長	教授	准教授	助教	計
学長・副学長	4				4
経済学部／経済・経営学研究科		18	9	2	29
生物資源学部／生物資源学研究科		16	15	1	32
海洋生物資源学部／生物資源学研究科		17	11	1	29
看護福祉学部／看護福祉学研究科・健康生活科学研究科		20	11	13	44
恐竜学部／生物資源学研究科		8	3	2	13
情報センター		1	3	1	5
国際センター		2	3		5
地域連携センター		3	1		4
共通教育センター		5	4		9
地域経済研究所		6	3		9
計	4	96	63	20	183

ACCESS MAP

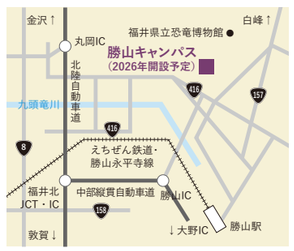
永平寺キャンパス
〒910-1195
福井県永平寺町松岡兼定島4-1-1
TEL 0776-61-6000（代）
〈バス〉所要時間約40分
京福バス福井駅西口バスターミナル
大学病院線「県立大学」下車
〈乗用車〉福井駅より約20分
北陸自動車道 福井北ICより約10分

福井まちなかキャンパス
〒910-0858
福井県福井市手寄1-4-1
AOSSA（アオッサ）内
〈電車〉福井駅東口より徒歩1分
〈乗用車〉北陸自動車道 福井ICより約10分

あわらキャンパス
〒910-4103
福井県あわら市二面88-1
TEL 0776-77-1443(代)
〈乗用車〉
芦原温泉駅より約15分
北陸自動車道 金津ICより約15分

小浜キャンパス
〒917-0003
福井県小浜市学園町1-1
TEL 0770-52-7300（代）
〈バス〉小浜駅よりあいあいバスで約10分
「西津公民館前」下車徒歩15分
〈乗用車〉小浜駅より約10分
舞鶴若狭自動車道 小浜ICより約5分

かつみキャンパス
〒917-0116
福井県小浜市堅海49-8-2
TEL 0770-52-7305（代）
〈バス〉小浜駅よりあいあいバスで約20分
「堅海」下車
〈乗用車〉小浜駅より約20分
舞鶴若狭自動車道 小浜ICより約20分



勝山キャンパス
〒911-0025
福井県勝山市村岡町五本寺17-15
〈電車・バス〉
えちぜん鉄道 勝山駅よりバスで約15分
「恐竜博物館」下車
〈乗用車〉福井駅より約50分
中部縦貫自動車道 勝山ICより約10分